

# 志木市遺跡群 22

西原大塚遺跡第172①～④地点

2015

埼玉県志木市教育委員会



## はじめに

志木市教育委員会  
教育長 尾崎 健市

ここに刊行する『志木市遺跡群 22』は、国庫・県費補助事業として、教育委員会が平成 22・23 年度に確認調査及び発掘調査を実施した市内遺跡発掘調査事業の調査成果をまとめたものです。今回は、西原大塚遺跡第 172 ①～④地点の調査成果を報告します。

西原大塚遺跡については、今までの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時代にわたる複合遺跡であることが判明しております。特に、縄文時代中期では、180 軒以上の住居跡が土坑域を囲むように分布しており、環状集落と呼ばれる縄文時代に特有の集落が形成されていたことが分かっています。また、弥生時代後期から古墳時代前期では約 600 軒もの住居跡が見つかっており、県内でも指折りの集落跡として知られています。このように、西原大塚遺跡は、縄文時代と弥生時代、それぞれの時代における地域の拠点集落であったといえます。

さて、今回の調査成果ですが、縄文時代中期の住居跡 5 軒・土坑 17 基、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡 4 軒・方形周溝墓 1 基などが見つかりました。縄文時代の住居跡と土坑が分布域を違えて見つかったことは、本地点が住居域と土坑域のちょうど境界部分に位置していると考えられ、西原大塚遺跡の集落構造を知る上で大変重要な発見となりました。

以上のような貴重な発見により、志木市の歴史にまた新たな 1 ページが追加されたことになりました。今後こうした新発見が、郷土の歴史研究や幅広い学術研究に役立てられることを切に願うものです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた土木工事主体者並びに土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

## 例 言

1. 本書は、埼玉県志木市に所在する遺跡群のうち、平成22・23年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第172①～④地点の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業は、志木市教育委員会が主体となり、国庫及び県費の補助金の交付を受け実施した。
3. 本書の作成において、編集は徳留彰紀が行った。執筆は、第1章第1節・第3章第2節（遺物）・第4章第2節は尾形則敏が、第3章第1・2節（遺構）の一部を深井恵子が、他を徳留が行った。
4. 遺物の実測は、下記整理作業参加者が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは深井・青木 修が行った。遺物の写真撮影は青木が行った。
5. 表土剥ぎ及び埋戻し作業については、株式会社大塚屋商店に委託した。
6. 石器の計測・図化については、有限会社アルケーリサーチに委託した。一部資料については大久保聡が行った。
7. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。

### 8. 調査組織

調査主体者	志木市教育委員会
教 育 長	白砂 正明（平成20年4月～平成24年6月）
”	尾崎 健市（平成24年7月～）
教育政策部長	丸山 秀幸（平成24年4～9月）
”	菊原 龍治（平成25年4月～）
教育政策部次長	丸山 秀幸（平成22年4～平成24年3月）
”	菊原 龍治（平成24年10～平成25年3月）
担 当 課	生涯学習課生涯学習・文化財グループ
生涯学習課長	土岐 隆一（平成21年4月～平成24年3月）
”	谷口 敬（平成24年4月～平成25年3月）
”	松井 俊之（平成25年4月～）
生涯学習課副課長	松井 俊之（平成24年4月～平成25年3月）
”	伊藤久峰子（平成25年4月～平成26年3月）
”	桶田 修平（平成26年4月～）
生涯学習課主幹	松井 俊之（平成23年1月～平成24年3月）
”	井上 茂（平成26年4月～）
生涯学習課主査	尾形 則敏（平成21年4月～）
”	浅見 千穂（平成21年4月～）
”	武井香代子（平成24年4月～）
生涯学習課主任	松永真知子（平成18年4月～）
”	武井香代子（平成22年4月～平成24年3月）

生涯学習課主事	徳留彰紀(平成22年4月～平成25年3月)
〃	矢田佳生(平成22年4月～)
〃	大久保聡(平成25年4月～)
生涯学習課主事補	大久保聡(平成24年4月～平成25年3月)
志木市文化財保護審議会	神山健吉(会長)(昭和54年4月～平成24年3月)
〃	井上國夫(会長)(平成24年4月～)
〃	井上國夫(委員)(昭和55年4月～平成24年3月)
〃	高橋長次(委員)(昭和63年4月～)
〃	高橋豊(委員)(平成8年4月～)
〃	内田正子(委員)(平成10年4月～平成24年3月)
〃	深瀬克(委員)(平成24年4月～)
〃	上野守嘉(委員)(平成24年4月～)

#### 9. 発掘作業及び整理作業参加者

##### ○発掘作業

調査担当者	尾形則敏・徳留彰紀
調査員	深井恵子・青木修
調査補助員	星野恵美子・鈴木浩子
発掘協力員	江口美千子・大橋康弘・林ゆき子・一二三英文・松浦恵子 増田千春・村田浩美
重機オペレーター	田中三二(大塚屋商店)

##### ○整理作業・報告書刊行作業

調査担当者	尾形則敏・徳留彰紀
調査員	深井恵子・青木修
調査補助員	星野恵美子・鈴木浩子
整理協力員	青木栄一・池ノ谷有紀・石川蒼・江口美千子・大橋康弘・小林律 佐藤海・高木英利・高田美智子・中川幹啓・二階堂美知子 林ゆき子・廣野渡・一二三英文・松浦恵子・増田千春・村田浩美

#### 10. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である(敬称略)。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・㈱埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・富士見市立難波田城資料館

五十嵐睦・江原順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・齊藤純  
齊藤欣延・斯波治・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢均・早坂廣人  
堀善之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山本龍・山田尚友・山本典幸  
和田晋治・渡辺邦仁

## 凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。  
第1図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製  
第2図 1：2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成15年8月発行  
株式会社ゼンリン 一部改変
2. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
3. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。また、同一遺構の水系レベルは統一して示した。
4. ビット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるビットでも、おそらく後世のビットと思われるものには、数値を省略した。
5. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
6. 遺構挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内にその内容を示したが、遺物挿図版中のスクリーントーンは、土器の赤彩範囲を示す。
7. 第3章第1・3節の土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。  
高=器高 口=口径 底=底径 厚=器厚
8. 出土土器・土製品一覧表中の計測値について、現存値は[ ]、推定値は( )を付した。
9. 土器・土製品一覧で使用した色調は、『新版 標準土色帖 1999年版』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を参考にした。
10. 遺構の略記号は、以下のとおりである。  
J=縄文時代の住居跡 D=土坑 Y=弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡  
方=方形周溝墓 P=ビット

# 目 次

はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 遺跡の概要	3
第2章 発掘調査の概要	7
第1節 調査に至る経緯	7
第2節 調査の経過	8
第3節 調査成果の概要	9
第3章 検出された遺構と遺物	12
第1節 縄文時代	12
第2節 弥生時代後期～古墳時代前期	63
第3節 遺構外出土遺物	73
第4章 調査のまとめ	82
第1節 縄文時代	82
第2節 弥生時代後期～古墳時代前期	85

図 版  
報告書抄録

## 插图目次

第1图	市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)	2
第2图	西原大塚遺跡の調査地点 (1/5,000)	4
第3图	確認調査時の遺構分布 (1/200)	7
第4图	遺構分布図 (1/200)	11
第5图	158号住居跡 (1/60)	13
第6图	158号住居跡遺物出土状態 (1/60)	14
第7图	158号住居跡出土遺物1 (1/4)	14
第8图	158号住居跡出土遺物2 (1/3)	15
第9图	159号住居跡 (1/60)	18
第10图	159号住居跡出土遺物 (1/3)	18
第11图	160号住居跡・炉跡 (1/60・1/30)	20
第12图	160号住居跡遺物出土状態 (1/60)	22
第13图	160号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)	23
第14图	160号住居跡出土遺物2 (1/3)	24
第15图	160号住居跡出土遺物3 (2/3・1/3)	25
第16图	161号住居跡 (1/60)	29
第17图	161号住居跡炉跡・埋甕 (1/30)	30
第18图	161号住居跡遺物出土状態 (1/60)	30
第19图	161号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)	31
第20图	161号住居跡出土遺物2 (1/3・2/3)	32
第21图	162号住居跡・625号土坑 (1/60)	36
第22图	162号住居跡遺物出土状態 (1/60)	37
第23图	162号住居跡出土遺物 (1/3)	38
第24图	土坑1 (1/60)	46
第25图	土坑2 (1/60)	47
第26图	土坑3 (1/60)	48
第27图	271号土坑出土遺物 (1/3)	48
第28图	613号土坑出土遺物 (1/3)	48
第29图	615号土坑出土遺物 (1/3)	49
第30图	616号土坑出土遺物 (1/3)	49
第31图	617号土坑出土遺物 (1/3)	49
第32图	618号土坑出土遺物 (1/3)	49
第33图	619号土坑出土遺物 (1/4・1/3・1/1)	50
第34图	621号土坑出土遺物 (1/3)	50
第35图	622号土坑出土遺物 (1/3)	51
第36图	624号土坑出土遺物 (1/3・2/3)	52
第37图	626号土坑出土遺物 (1/3・2/3)	52
第38图	627号土坑出土遺物 (1/3)	52



第39図	ピット (1/60)	58
第40図	ピット出土遺物 (1/3)	59
第41図	包含層遺物出土状態 (1/100・1/30)	60
第42図	包含層出土遺物 (1/4・1/3)	61
第43図	126号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	64
第44図	126号住居跡出土遺物 1 (1/4)	65
第45図	126号住居跡出土遺物 2 (1/3)	66
第46図	562号住居跡・出土遺物 (1/60・1/3)	69
第47図	563号住居跡・出土遺物 (1/60・1/3)	71
第48図	564号住居跡・出土遺物 (1/60・1/3)	72
第49図	34号方形周溝墓 (1/60)	73
第50図	遺構外出土遺物 1 (2/3・1/3)	74
第51図	遺構外出土遺物 2 (1/3)	75
第52図	遺構外出土遺物 3 (1/3)	76
第53図	遺構外出土遺物 4 (1/3・2/3・1/4)	77
第54図	西原大塚遺跡縄文時代中期遺構分布図 (1/1500)	83

## 目 次

第1表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第2表	西原大塚遺跡発掘調査一覧	5
第3表	西原大塚遺跡発掘調査報告書一覧	6
第4表	第172①～④地点一覧	10
第5表	西原大塚遺跡第172地点発掘調査工程表	10
第6表	158号住居跡出土土器一覧	16
第7表	158号住居跡出土土製品一覧	16
第8表	158号住居跡出土石器一覧	17
第9表	159号住居跡出土土器一覧	19
第10表	159号住居跡出土石器一覧	19
第11表	160号住居跡出土土器一覧 (1)	26
	160号住居跡出土土器一覧 (2)	27
第12表	160号住居跡出土土製品一覧	28
第13表	160号住居跡出土石器一覧	28
第14表	161号住居跡出土土器一覧 (1)	33
	161号住居跡出土土器一覧 (2)	34
第15表	161号住居跡出土土製品一覧	34
第16表	161号住居跡出土石器一覧	34

第17表	162号住居跡出土土器一覽	39
第18表	162号住居跡出土土製品一覽	39
第19表	162号住居跡出土石器一覽	39
第20表	土坑出土土器一覽(1)	53
	土坑出土土器一覽(2)	54
	土坑出土土器一覽(3)	55
	土坑出土土器一覽(4)	56
第21表	土坑出土土製品一覽	56
第22表	土坑出土石器一覽	56
第23表	ピット一覽	57
第24表	ピット出土土器一覽	59
第25表	包含層出土土器一覽	62
第26表	包含層出土石器一覽	62
第27表	126号住居跡出土土器一覽(1)	67
	126号住居跡出土土器一覽(2)	68
	126号住居跡出土土器一覽(3)	69
第28表	562号住居跡出土土器一覽	70
第29表	563号住居跡出土土器一覽	71
第30表	564号住居跡出土土器一覽	72
第31表	遺構外出土石器・石製品一覽	78
第32表	遺構外出土土器一覽(1)	78
	遺構外出土土器一覽(2)	79
	遺構外出土土器一覽(3)	80
	遺構外出土土器一覽(4)	81
第33表	遺構外出土土製品一覽	81

## 図版目次

- 図版1 1. 調査区近景 2. 確認調査風景 3. ②地点表土剥ぎ後風景 4. ③④地点表土剥ぎ風景  
5. ①地点調査風景 6. ②地点調査風景 7. ③④地点調査区整備風景  
8. ③④地点埋戻し風景
- 図版2 1. 158号住居跡(②地点) 2・3. 158号住居跡遺物出土状態(②地点)  
4. 158号住居跡 P1 5. 158号住居跡(④地点) 6. 158号住居跡遺物出土状態(④地点)  
7. 159号住居跡 8. 159号住居跡炉跡
- 図版3 1. 159号住居跡 P1 遺物出土状態 2. 159号住居跡 P4 遺物出土状態 3. 160号住居跡  
4・5. 160号住居跡遺物出土状態 6. 160号住居跡炉跡 7. 160号住居跡炉跡半截  
8. 160号住居跡
- 図版4 1・2. 161・162号住居跡 3. 161号住居跡炉跡 4. 161号住居跡埋壁  
5. 161号住居跡遺物出土状態 6. 162号住居跡炉跡  
7. 161・162号住居跡土層断面 8. 調査風景
- 図版5 1. 271号土坑 2. 614号土坑 3. 615号土坑 4. 616号土坑 5. 617号土坑  
6. 615・617号土坑 7. 618号土坑 8. 測量風景
- 図版6 1. 619号土坑 2. 619号土坑 3. 620号土坑 4. 621号土坑 5. 622号土坑  
6. 623号土坑 7. 624号土坑 8. 625号土坑
- 図版7 1. 626号土坑 2. 627号土坑 3. ①地点調査区北側 4. ①地点調査区南側  
5. 9号ピット遺物出土状態 6. 調査風景 7・8. 包含層遺物出土状態
- 図版8 1. 126号住居跡 2・3. 126号住居跡遺物出土状態 4. 562号住居跡 5. 563号住居跡  
6. 563号住居跡炉跡 7. 564号住居跡(③地点) 8. 34号方形周溝墓
- 図版9 158号住居跡出土遺物
- 図版10 1. 159号住居跡出土遺物 2. 160号住居跡出土遺物 1
- 図版11 1. 160号住居跡出土遺物 2 2. 161号住居跡出土遺物 1
- 図版12 161号住居跡出土遺物 2
- 図版13 1. 162号住居跡出土遺物 2. 271号土坑出土遺物 3. 613号土坑出土遺物  
4. 615号土坑出土遺物
- 図版14 1. 616号土坑出土遺物 2. 617号土坑出土遺物 3. 618号土坑出土遺物  
4. 619号土坑出土遺物 5. 621号土坑出土遺物
- 図版15 1. 622号土坑出土遺物 2. 624号土坑出土遺物 3. 626号土坑出土遺物  
4. 627号土坑出土遺物
- 図版16 1. ピット出土遺物 2. 包含層出土遺物
- 図版17 126号住居跡出土遺物 1
- 図版18 1. 126号住居跡出土遺物 2 2. 562号住居跡出土遺物 3. 563号住居跡出土遺物  
4. 564号住居跡出土遺物 5. 遺構外出土遺物 1
- 図版19 遺構外出土遺物 2
- 図版20 遺構外出土遺物 3



# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

### (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりを持ち、面積は9.06km<sup>2</sup>、人口約7万3千人の自然と文化の調和する都市である。

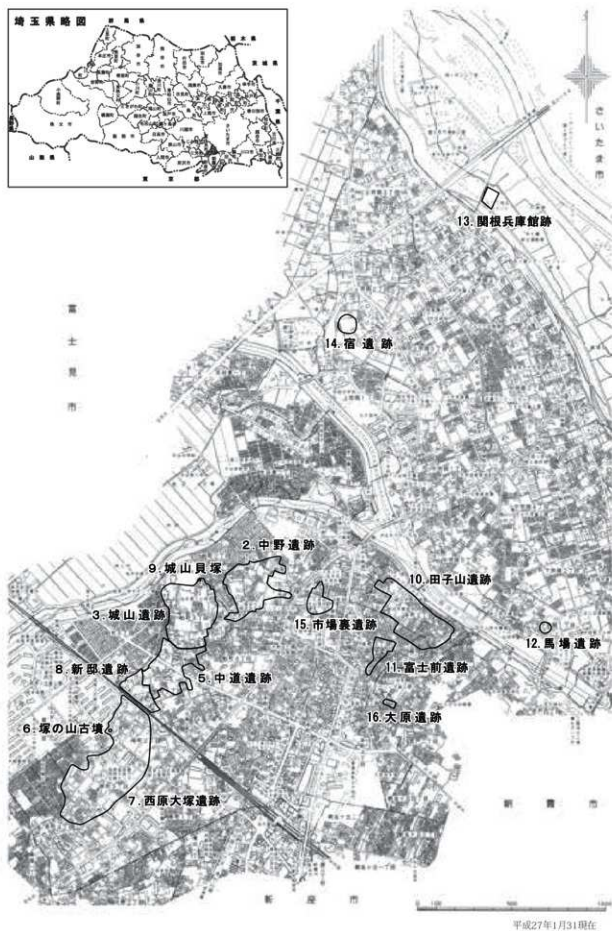
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した12遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた14遺跡である（第1図）。

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	63,540㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄(早～晩)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	81,310㎡	畑・宅地	城郭跡・集落跡	旧石器、縄(草創～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、石垣跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、銅志郎連遺物等
5	中道	52,980㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～後)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形溝溝墓、土坑墓、地下式、溝跡、道路杭遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	163,930㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(前～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形溝溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄(早～中)、古(前～後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形溝溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ビット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝塚	縄(前)	貝殻貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄(草創～晩)、弥(後)、古(後)、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形溝溝墓、ローム探埋遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	12,000㎡	宅地	集落跡	縄文、弥(後)～古(前)、平安・近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800㎡	畑	集落跡	古(前)	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900㎡	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	田	館跡	中世	溝跡・井桁状構造物	木・石製品
15	市場裏	13,800㎡	宅地	集落跡・墓跡	弥(後)～古(前)、中世以降	住居跡・方形溝溝墓・土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700㎡	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
合計		500,470㎡					

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧

平成27年1月31日現在



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)

## 第2節 遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町2～4丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約1kmに位置している。北東―南西方向に約700m、北西―南東方向に約150mの広がりを持ち、遺跡面積163,930㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で8mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、概ね平坦である。遺跡西側中央、台地から低地へうつる斜面に湧水点を確認されており、そこを中心に括れている。

昭和48（1973）年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元（1989）年から平成19（2007）年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。平成27年1月現在で、調査地点204、面積約53,000㎡に対して確認調査・発掘調査を実施している（第2図）。本遺跡で実施された調査地点のうち、発掘調査報告書が刊行された調査地点の概要を第2表に、本遺跡の発掘調査に係る文献については、第3表に示した。以下に検出された遺構・遺物の概要について示す。

旧石器時代では、石器集中地点が14ヵ所確認されている。これまでにナイフ形石器12点、尖頭器3点、錘状石器1点、搔器1点、石核8点、剥片149点、砕片349点、礫306点が出土している。第5号石器集中地点で安山岩製のナイフ形石器が立川ロームⅧ層上部から出土している他は、Ⅲ層～Ⅴ層上部からの出土が大半を占める。また、第8・10・11A・12号石器集中地点では礫群が検出されている。

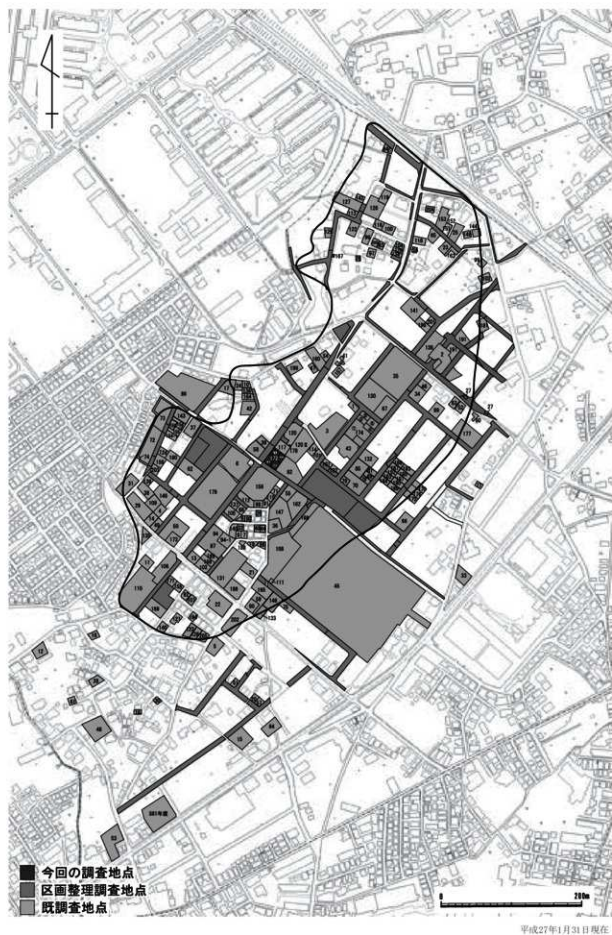
縄文時代草創期では、表面採集で長さ11.9cmの両面調整石器1点が確認されている（文献№2）。早期では、条痕文系土器を伴う炉穴15基が遺跡北西隅を中心に検出されている。前期では、黒浜式期の住居跡2軒、諸磯C式期の土坑1基が遺跡南西隅に分布している。中期では、遺構数が増大し、勝坂式期から加曾利E式期の住居跡180軒が環状集落を形成している。後期では、堀之内式期の住居跡1軒（区33Ⅰ）、加曾利B式期の住居跡1軒（区34Ⅱ）が検出されている。晩期では、遺構外遺物として安行3式土器が遺跡北西隅で出土しているが、遺構は検出されていない。遺物では、50号住居跡出土の硬玉製大珠（文献№23）、第35地点108号住居跡出土の顔面把手付土器（未報告）などが特筆される。

弥生時代では、前期から中期が空白期となり、後期から古墳時代前期では住居跡約600軒、掘立柱建築遺構3棟、方形周溝墓34基が検出されており、大規模集落の様相を呈している。遺物では、122号住居跡出土の動物形土製品（文献№23）、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓出土の鳥形土製品（文献№15）などが注目される。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好でないものの、市内初の銅釧が出土している（文献№31）。

古墳時代では、中期が空白期となり、後期で住居跡10軒が検出されている。また、本遺跡内北東に塚の山古墳が所在するが、近接する道路部分の調査でも周溝が不検出であるため、詳細は不明である。

奈良・平安時代では、住居跡13軒が検出されている。本遺跡では、8世紀前葉に比定される19号住居跡が最古の資料となる（文献№24）。

中近世では、地下室を含む土坑155基、井戸跡7基、配石遺構1基が検出されている（文献№23）。



第2図 西原大塚遺跡の調査地点 (1/5,000)



調査地点	面積 (㎡)	発掘調査期間	調査理由	遺 跡 の 概 要	文献名 第3表文獻①
第1地点	112.50	昭和48年8月3日 ～12日	学術調査	縄文中期(住居跡5軒、土坑8基)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	№1
第2地点	940.00	昭和55年7月20日 ～8月21日	学術調査	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	№2
第3地点	439.00	昭和58年8月23日 ～9月8日	共同住宅	縄文中期(住居跡5軒、土坑2基)	№3
第4地点	105.00	昭和62年1月5日 ～11日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	№4
第5地点	64.32	昭和62年11月18日 ～20日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	№5
第7地点	77.44	昭和63年1月20日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(小竪穴式遺構1基)、時期不詳(土坑1基、溝跡1本)	№7
第8地点	1,227.00	昭和63年3月16日 ～8月6日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡1軒、土坑24基)、弥生後期～古墳前期(住居跡13軒、方形周溝墓1基、竪立柱建案遺構1棟)	№6
第9地点	75.86	昭和63年8月18日 ～9月10日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	
第10地点	80.54	昭和63年8月27日 ～10月4日	個人住宅建設	縄文中期(土坑4基、遺物包含層)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	№8
第11地点	2,208.4	平成元年5月16日 ～25日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	№10
第14地点	129.00	平成2年5月26日 ～6月11日	共同住宅	弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	№10
第21地点	265.73	平成3年5月28日 ～29日	事務所併用住宅	弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	№10
第32地点	60.11	平成6年4月7日 ～14日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)	№9
第34地点	317.00	平成7年8月4日 ～9月11日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡3軒、土坑6基)、弥生後期～古墳前期(住居跡3軒、奈良・平安(住居跡1軒)	№11
第36地点	248.05	平成8年10月15日 ～26日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	№13
第37地点	2,200.00	平成9年4月8日 ～6月5日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡7軒)、時期不詳(土坑4基)	№14
第39地点	63.76	平成9年8月5日 ～28日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡3軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、方形周溝墓1基)	№14
第43地点	779.60	平成12年11月11日 ～13月24日	農地転用	縄文中期(住居跡10軒、土坑22基)、弥生後期～古墳前期(住居跡9軒)、古墳(1軒)	№16
第45地点	5,642.42	平成11年8月3日 ～12月24日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡72軒、方形周溝墓1基)、古墳後期(住居跡2軒)	№15
第47地点	86.12	平成12年4月3日 ～4日	個人住宅建設	縄文中期(土坑1基)、弥生後期～古墳前期(溝跡1本)	№17
第54地点	90.74	平成13年9月13日 ～14日	施設建設	縄文中期～後期(土坑7基)、弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	№18
第65地点	11,593	平成14年7月25日 ～8月19日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	№19
第67地点	456.20	平成14年5月9日 ～11月29日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡8軒、土坑8基)、弥生後期～古墳前期(住居跡8軒、竪立柱建案遺構1棟、土坑1基)	№22
第108地点	684.60	平成21年2月23日 ～4月14日	公共施設整備 複合施設建設	縄文中期(住居跡1軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡15軒)	№28
第110地点	500.00	平成17年2月7日 ～3月10日	集合住宅建設	旧石器(石器集中2カ所)、縄文中期(土坑1基、集石1基)、弥生後期～古墳前期(住居跡7軒)	№21
第111地点	80.00	平成17年1月17日 ～1月21日	消防車庫建設	古墳前期(住居跡1軒)	№20
第113地点	119.75	平成17年2月4日 ～15日	個人住宅建設	縄文早期(竪穴1基)、近世以降(土坑16基)	№26
第120-1地点	460.56	平成17年6月27日 ～7月7日	保育園建設	縄文中期(住居跡1軒、土坑62基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒、方形周溝墓1基)	№25
第120-2地点	566.55	平成18年5月30日 ～6月28日			
第124地点	1,500.2	平成17年12月19日 ～平成18年1月13日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	№26
第131地点	472.21	平成18年8月30日 ～9月20日	集合住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡2軒、方形周溝墓5基)	№25
第137地点	100.00	平成18年11月9日 ～15日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、時期不詳(ピット5本)	№27
第138地点	20.00	平成19年2月5日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(溝跡1本)	№24
第154地点	1,200.2	平成20年3月17 ～19日	分譲住宅軒建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、奈良・平安(住居跡1軒、ピット1本)、中世以降(土坑1基)	№24
第155地点	1,200.00	平成19年3月18日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	№27
区画整理	38,242.30	平成元年12月20日 ～平成19年1月12日	区画整理事業	旧石器(石器集中12カ所)、縄文早期(竪穴13基)、縄文前期(住居跡2軒、土坑1基)、縄文中期(住居跡101軒、土坑233基、集石13基)、縄文後期(住居跡2軒、土坑9基)、弥生後期～古墳前期(住居跡362軒、方形周溝墓22基)、古墳後期(住居跡6軒)、奈良・平安(住居跡7軒)、中近世(土坑155基、井戸跡6基)	№12 №23
第169地点	80.00	平成22年10月4日 ～13日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、竪立柱建案遺構1棟)	№29
第174①地点	627.54	平成23年10月19日 ～平成24年1月13日	宅地造成	縄文中期(住居跡10軒、屋外炉2基、土坑44基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	№30
第179地点	1,380.00	平成24年6月18日 ～平成24年10月5日	集合住宅建設	旧石器(石器集中1カ所)、縄文時代(土坑10基)、弥生後期～古墳前期(住居跡13軒)、古墳時代後期～奈良・平安(溝跡1本)、中世以降(溝跡4本)	№31

(未報告地点を除く)

第2表 西原大塚遺跡発掘調査一覧

文庫 No.	書名	刊行年	シリーズ名	発刊者	執筆者
1	西原・大塚遺跡 発掘調査報告	1975	志布市の文化財第4集	志布市教育委員会	井上彌夫・高谷静男 谷井 彪・宮野和明
2	志布市史 原始・古代資料編	1984	志布市史	志布市	宮野和明・井上国夫 小久保徹
3	西原大塚遺跡第3地点 中野遺跡第2地点 発掘調査報告書	1985	志布市遺跡調査会調査報告 第1集	志布市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形剛敏
4	新部遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点 発掘調査報告書	1987	志布市遺跡調査会調査報告 第3集	志布市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形剛敏
5	志布市遺跡群Ⅰ	1989	志布市の文化財第13集	志布市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
6	志布市遺跡群Ⅱ	1990	志布市の文化財第14集	志布市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
7	西原大塚遺跡第7地点 新部遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点 発掘調査報告書	1991	志布市の文化財第15集	志布市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
8	志布市遺跡群Ⅲ	1991	志布市の文化財第16集	志布市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
9	志布市遺跡群Ⅳ	1996	志布市の文化財第23集	志布市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏 深井恵子
10	城山遺跡第12地点 城山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第14地点 中野遺跡第11地点 中野遺跡第16地点 市場裏遺跡第1地点 田子山遺跡第10地点 中道遺跡第21地点 田子山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第21地点 市場裏遺跡第2地点 中道遺跡第26地点 発掘調査報告書	1996	志布市の文化財第24集	志布市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
11	志布市遺跡群Ⅴ	1997	志布市の文化財第25集	志布市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
12	西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概報	1998	—	志布市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊
13	志布市遺跡群9	1999	志布市の文化財第27集	志布市教育委員会	尾形剛敏・深井恵子
14	志布市遺跡群10	2000	志布市の文化財第28集	志布市教育委員会	尾形剛敏・深井恵子
15	西原大塚遺跡第45地点 発掘調査報告書	2000	志布市遺跡調査会調査報告 第6集	志布市遺跡調査会 小松フォークリフト株式会社	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳・上田 寛
16	志布市遺跡群11	2001	志布市の文化財第30集	志布市教育委員会	尾形剛敏・佐々木保俊 内野美津江
17	志布市遺跡群12	2002	志布市の文化財第32集	志布市教育委員会	尾形剛敏・佐々木保俊 深井恵子
18	志布市遺跡群13	2003	志布市の文化財第35集	志布市教育委員会	尾形剛敏・深井恵子
19	志布市遺跡群14	2004	志布市の文化財第36集	志布市教育委員会	尾形剛敏・深井恵子 青木 修
20	西原大塚遺跡第111地点	2005	志布市遺跡調査会調査報告 第8集	志布市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
21	西原大塚遺跡第110地点	2005	志布市遺跡調査会調査報告 第9集	志布市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
22	志布市遺跡群15	2006	志布市の文化財第37集	志布市教育委員会	尾形剛敏・深井恵子
23	西原大塚遺跡 Ⅰ～Ⅲ 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書	2009	志布市遺跡調査会調査報告 第13集	志布市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
24	西原大塚遺跡第138地点 西原大塚遺跡第154地点 埋蔵文化財 発掘調査報告書	2008	志布市遺跡調査会調査報告 第14集	志布市遺跡調査会	尾形剛敏・深井恵子 青木 修
25	西原大塚遺跡第120地点 西原大塚遺跡第131地点 田子山遺跡第97地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志布市遺跡調査会調査報告 第15集	志布市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
26	志布市遺跡群17	2008	志布市の文化財第39集	志布市教育委員会	尾形剛敏・深井恵子 青木 修
27	志布市遺跡群18	2009	志布市の文化財第41集	志布市教育委員会	尾形剛敏・深井恵子 青木 修
28	西原大塚遺跡第108地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志布市の文化財第42集	志布市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏 坂上直嗣・青池紀子他
29	西原大塚遺跡第169地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志布市の文化財第47集	志布市教育委員会	尾形剛敏・徳留彰紀
30	西原大塚遺跡第174①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志布市の文化財第55集	志布市教育委員会	徳留彰紀・尾形剛敏 藤政啓吾・松木綾子
31	西原大塚遺跡第179地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志布市の文化財第56集	志布市教育委員会	尾形剛敏・大久保忠 二瓶秀幸・木山直子

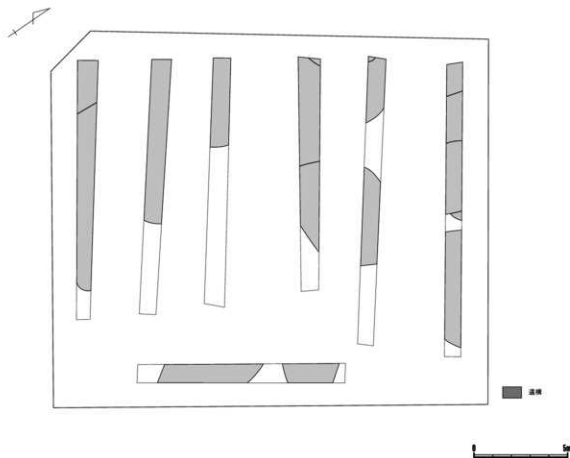
第3表 西原大塚遺跡発掘調査報告書一覧

## 第2章 発掘調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

確認調査は、西原大塚遺跡第172地点として平成22年11月15・16日に実施した。敷地に対して短軸方向に6本、長軸方向に1本のトレンチを設定し、バックホーを使用し表土を削ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代中期の住居跡6軒、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡7軒を確認した（第3図）。

当該地点は4棟の個人住宅建設予定地であるため、第172①～④地点と枝番を付して個別に取り扱い、それぞれの工事主体者と保存対策について協議を行った。協議にあたっては、盛土保存には文化財確認面より30cm以上の保護層が必要であること、保護層が確保できない場合は記録保存（発掘調査）が必要になることなどを要点とした。その結果、①・②地点の駐車場部分及び③・④地点全域を記録保存（発掘調査）、①・②地点の宅地部分を盛土保存として取り扱うこととした。各地点の取扱いと通知等については第4表に示した。



第3図 確認調査時の遺構分布（1／200）

---

## 第2節 調査の経過

---

### (1) 概要

協議の進捗により②地点のみ先行して平成22年度に調査を実施し、①・③・④地点については併行して調査を実施した。②地点は平成22年3月11日から平成22年3月30日まで、③・④地点は平成23年6月8日から平成23年8月23日まで、①地点は平成23年7月14日から平成23年8月23日まで調査を実施した。各遺構の発掘調査工程については第5表に示した。

### (2) 各地点の調査経過

#### 1. ①地点の発掘調査

平成23年

- 7月14日 ③・④地点の調査と併行し、表土剥ぎ作業を実施する。住居跡は確認されず、縄文時代の土坑数基と、方形周溝墓1基(34方)を確認した。
- 16～29日 615D・616Dの精査を実施。縄文時代中期の土器片や石器・礫の出土が目立つため、遺物出土状態を詳細に記録することとした。
- 8月1～12日 615・616Dの精査を終了する。617～622Dの精査を開始した。615D・616D同様、遺物や礫の出土が目立つ。34方の精査を開始した。
- 15～16日 34方の精査を終了する。623D～627Dの精査を行う。遺物・礫が出土した。
- 18～23日 ③・④地点と併せて埋戻し作業を実施し、発掘調査を終了する。

#### 2. ②地点の発掘調査

平成23年

- 3月11日 発掘調査を開始する。重機による表土剥ぎ作業を実施。
- 14日 人員を導入し、器材搬入及び調査区整備の実施後、人力による遺構確認作業を開始した。調査区全体に広がる畝状耕作痕(攪乱)の除去を行う。562Yの精査を開始する。
- 15～18日 158Jの精査を開始する。158J遺物出土状態写真撮影及び遺物取上げ作業を実施する。
- 23日 縄文時代遺物包含層中の埋設土器の精査を開始し、縄文時代中期の深鉢2個体が埋設されている状態を確認した。
- 24～29日 158J精査終了。271Dの精査を開始し、遺物出土状態の記録を行った。564Y精査。
- 30日 重機により埋戻し作業を実施し、②地点の発掘作業を終了する。

#### 3. ③・④地点の発掘調査

平成23年

- 6月8～10日 発掘調査を開始する。調査区を囲む安全柵設置後、③地点西側から重機による表土剥ぎ作業を開始する。人員を導入し、器材搬入及び調査区整備の実施後、人力による遺構確認作業を開始した。調査区全体に広がる畝状耕作痕などの攪乱の除去を行う。
- 11～22日 弥生時代の遺構から精査を進めることとし、126Y・563Yの精査開始。④地点東側

- はソフトローム層（Ⅲ層）が削平を受けており、563 Y 覆土も数cmしか確認できなかった。
- 23～30日 126 Y・158 Jの精査を中心に作業を進める。床面・壁面を検出し、遺物出土状態・遺構の写真撮影及び図化を行った。126 Yの床面付近から壺形土器が3個体出土した。158 Jからは床面付近で浅鉢形土器が出土した。613 Dの精査を行った。160 Jの精査開始。
- 7月1～6日 126 Y・158 Jの精査終了。126 Yの貼床下から縄文時代中期の埋甕炉（161 J 炉跡）を確認する。564 Yの精査を開始する。564 Yについては、②地点の調査で縄文時代の遺構として取り扱っていたが、本地点における形態や出土遺物、覆土の観察から弥生時代末から古墳時代前期の遺構として取り扱いを変更した。
- 7～11日 160 Jの精査を中心に行う。多量の遺物が出土し、覆土下層～中層で復元個体3点が出土した。遺物出土状態を写真撮影・図化。ベルト除去後、石囲埋甕炉を確認する。161 Jの精査を開始する。
- 12～14日 160 J・161 Jの精査を中心に行う。160 Jは、柱穴精査後に遺構写真撮影・図化を行う。161 Jから多量の遺物が出土した。検出した。①地点の調査開始に合わせ、④地点東側を残土置場兼器材置場とする。
- 15～29日 160 J 炉跡の精査を行う。炉跡完掘後、土器埋設状況の断面記録を行い、精査を終了する。161 Jの床面を検出し、埋甕炉と埋甕、復元個体1点が出土した。161 Jの東側に新たな住居跡を確認し、162 Jとした。161 J・162 Jの土層断面及び遺物出土状態を記録。
- 8月1～9日 161 J・162 Jの柱穴精査後、遺構の写真撮影及び図化。161 J 炉跡・埋甕の精査。
- 10～15日 161 J・162 J 精査終了。基本土層の記録を行う。
- 8～23日 ①地点と併せ、埋戻し作業を行う。発掘調査を終了する。

---

### 第3節 調査成果の概要

---

今回の調査で検出された遺構・遺物について、以下に時代順にその概要を示す。

縄文時代では、中期の住居跡5軒（158～162 J）・土坑17基（271・613～627 D）・柱穴22本（1～22 P）を検出した。このうち271 Dについては、区画整理第25Ⅱ地点で西側半分を調査・報告済である（佐々木・内野他 2009）。住居跡は調査区南側の③・④地点に分布する一方、土坑は調査区北側①地点に偏在する傾向にある。土坑については、遺物や礫の出土が目立った。また、調査区全体にローム漸移層（Ⅱ層）が検出され、北側を中心に深鉢形土器の復元個体2点を含む縄文時代中期の土器が出土したため、縄文時代中期の遺物包含層（第41図）として取り扱った。

弥生時代後期～古墳時代前期では、住居跡4軒（126・562～564 Y）・方形周溝墓1基（34方）を検出した。そのうち、126 Yについては、区画整理第7Ⅴ・25Ⅱ地点において住居南端部を除き調査済である。

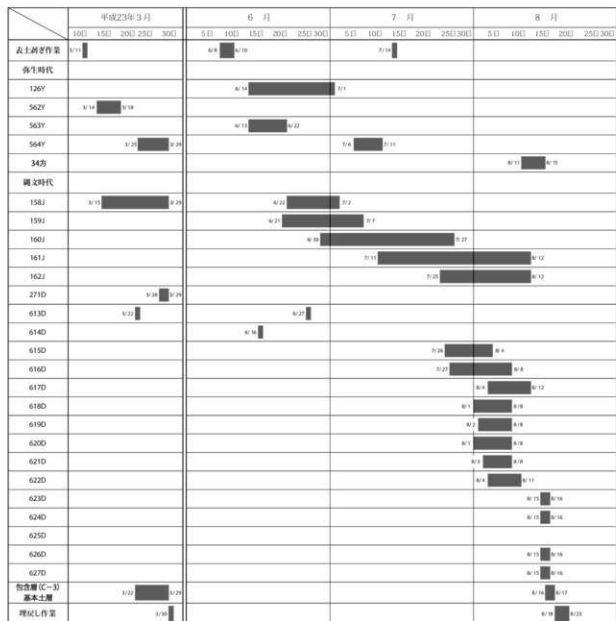
中世では、遺構外出土遺物として、かわらけ1点・砥石1点が出土している。

第2章 発掘調査の概要

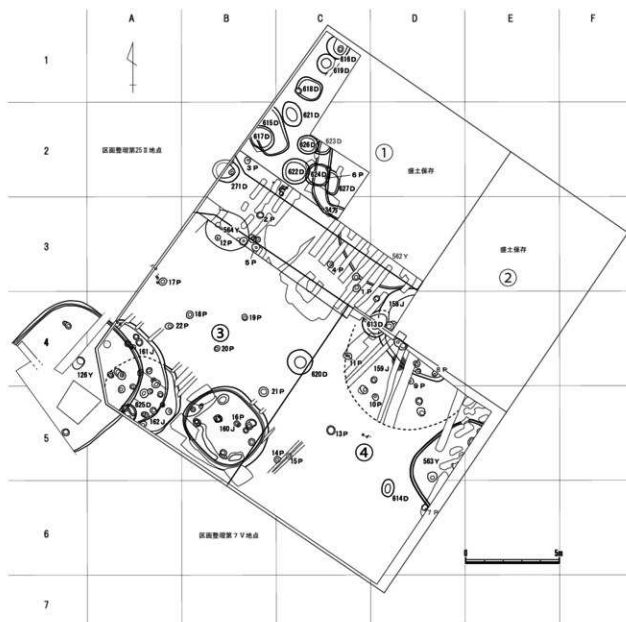
本地点は、区画整理第7V・25Ⅱ地点と接しており、上述したように271D・126Yについては遺構・遺物ともに一部を報告済である。本報告にあたり、既調査分の成果も含めて総括することとし、遺構図は両地点を合成し、遺物は再掲した。

地点名	工事的目的	対象面積 (㎡)	保存方法	調査面積 (㎡)	調査期間	土木工事通知	文化財認定	備考
第172①地点	個人住宅建設	105.79	駐車場：記録保存 建物：盛土保存	35.00	平成23年7月14日 ～8月23日	平成23年6月22日付 教生文 第5-292号	平成23年10月3日付 教生文 第7-199号	工事立会： 平成23年 11月4日
第172②地点	個人住宅建設	119.73	駐車場：記録保存 建物：盛土保存	31.55	平成23年3月11日 ～3月30日	平成23年3月25日付 教生文第5-1376号	平成23年6月1日付 教生文 第7-77号	工事立会： 平成23年 4月25日
第172③地点	個人住宅建設	109.59	記録保存	109.59	平成23年6月8日 ～8月23日	平成23年6月22日付 教生文 第5-291号	平成23年10月3日付 教生文 第7-198号	
第172④地点	個人住宅建設	116.20	記録保存	116.20	平成23年6月8日 ～8月23日	平成23年6月22日付 教生文 第5-290号	平成23年10月3日付 教生文 第7-197号	

第4表 第172①～④地点一覧



第5表 西原大塚遺跡第172地点発掘調査工程表



第4図 遺構分布図 (1/200)

## 第3章 検出された遺構と遺物

### 第1節 縄文時代

#### (1) 住居跡

##### 158号住居跡

**遺 構** (第5・6図)

**位 置** (D-4) グリッド/②・④地点

**検出状況** 西側を②地点、南側を④地点でそれぞれⅡ層中に検出した。住居跡中央から東側の大半は調査区外(②地点宅地部分)となる。完掘率は1/3程度か。159J・613Dに切られる。159Jとの層位的関係は、④地点において158J覆土中に159Jの炉跡を確認したことで判断した。613Dは、当初158Jとして同時に床面まで掘り下げた後、平面形と調査区際の土層断面で別遺構と判断したものである。住居跡全体が畝状耕作痕や旧道及びそれに伴う側溝と考えられる擾乱によって壊されている。

**構 造** 平面形：長楕円形か。規模：長軸推定5.4m/短軸不明/確認面からの深さ30cm。壁溝：検出されなかった。壁：内湾してゆるやかに立ち上がる。床面：壁際を除き硬化した面が確認できた。炉：確認できなかった。調査区外か。柱穴：3本検出した。P1・P2が主柱穴か。床面からの深さ110～117cm。P2は覆土の観察から柱痕跡が確認できた。

**覆 土** 全体的にローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調とし、床面や壁際は暗黄褐色土を基調とする。P1は、ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とする覆土が堆積していた。

**遺 物** 縄文時代中期の土器片が255点7,635g出土した。P1北側壁際の床面直上から深鉢形土器(第7図1)が、③・④地点調査区際から浅鉢形土器2個体(第7図2・3)が出土した。2は覆土中層から逆位で、3は周辺に比べて10cm程度掘り込まれた床面直上から正位で出土した。石器は8点(剥片4点、打製石斧2点、磨石1点、凹石1点)が出土している。

**時 期** 中期中葉(勝坂3b新式期)

**遺 物** (第7・8図、第6～8表)

**土 器** (第7図1～3、第8図4～11、第6表)

復元個体3点、破片資料9点を図示した。1は勝坂3式の深鉢形土器。2・3は無文の浅鉢形土器で、3には口縁部内外面に赤色顔料の付着が確認できる。4は阿玉台式、5～9は勝坂式、10は中期中葉、11は中期中葉の浅鉢形土器片である。

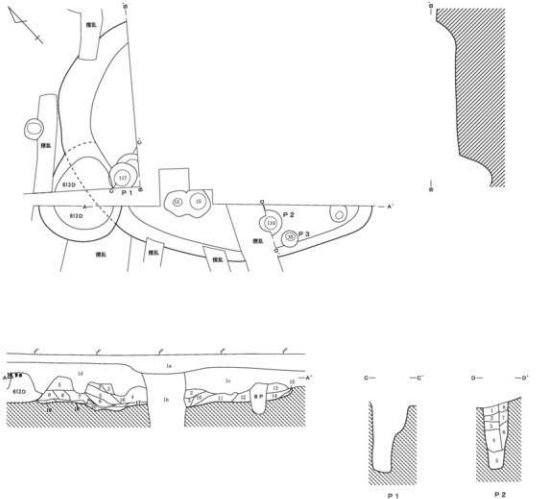
**土 製 品** (第8図12、第7表)

12は土器片鎌。幅広爪形文の脇に波状沈線が沿う勝坂式土器片を転用している。

**石 器** (第8図13～18、第8表)

5点を図示した。13・14は剥片で、13は二次加工が、14は微細剥離が認められる。15・16は打製石斧。17は磨石で端部に敲打痕が確認できる。18は凹石で、表裏面に凹部が2カ所ずつ確認でき、磨痕が顕著である。





A-A'

14層 砂石層

13層 段丘

12層 平道層

14層 耕作土

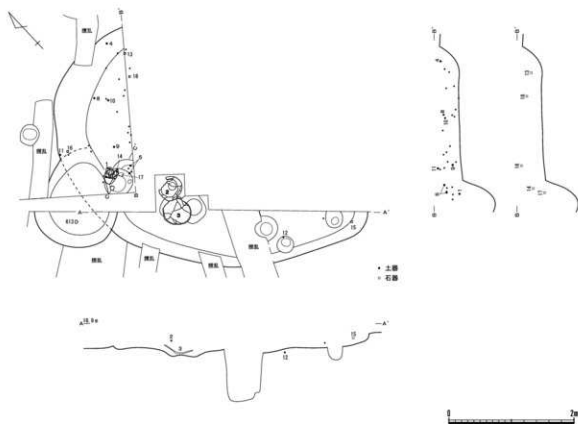
- 2層 暗黒褐色土 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を含み、ローム粒子を僅かに含む。
- 3層 暗黒褐色土 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を含み、ローム粒子を僅かに含む。
- 4層 暗黒褐色土 ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 5層 暗黒褐色土 ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子を含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 6層 暗黒褐色土 ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含み、焼土小ブロックを僅かに含む。
- 7層 暗黒褐色土 ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子を含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 8層 暗黒褐色土 ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子を含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 9層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 10層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。
- 11層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 12層 暗黒褐色土 ローム小ブロックを含む、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 13層 暗黒褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 14層 暗黒褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 15層 暗黒褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 16層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 17層 暗黒褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 18層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 19層 暗黒褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む、炭化物粒子を僅かに含む。
- 20層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含み、炭化物粒子・小礫を僅かに含む。

B-B'

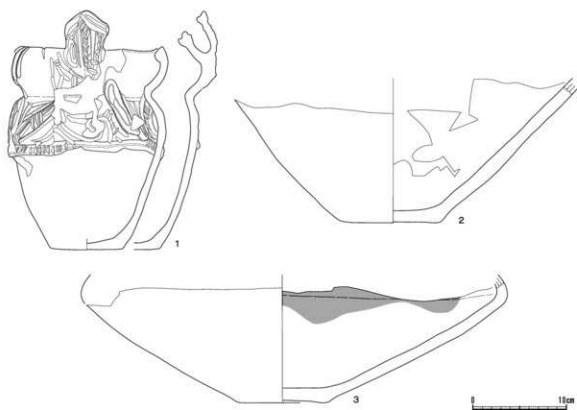
- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、炭化物粒子を僅かに含む。
- 2層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含み、炭化物粒子を含む。
- 3層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含み、炭化物粒子を含む。
- 4層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、炭化物粒子を僅かに含む。
- 5層 暗黒褐色土 ローム粒子をやや多く含む、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 6層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む、炭化物粒子を僅かに含む。
- 7層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む、炭化物粒子を僅かに含む、6層より明るく。
- 8層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む、炭化物粒子を僅かに含む、7層より明るい。

2m

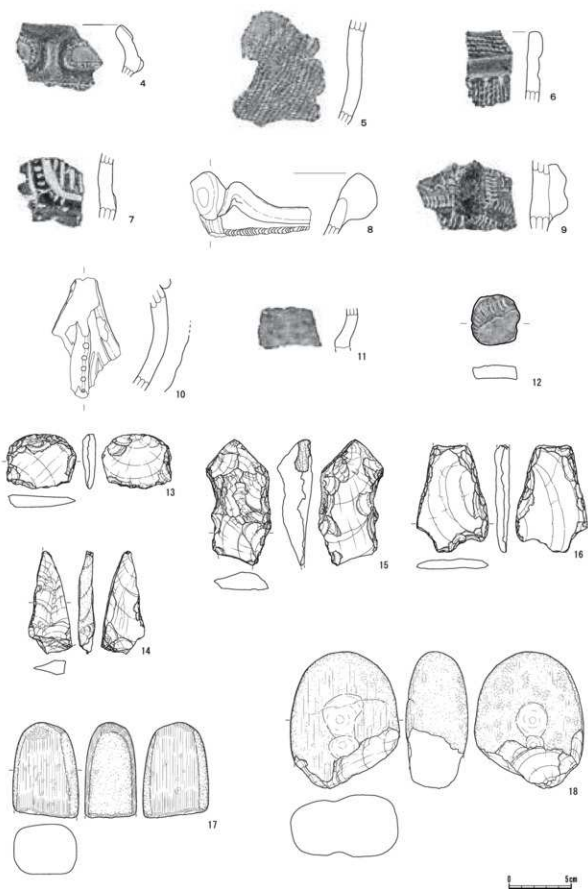
第5図 158号住居跡 (1/60)



第6図 158号住居跡遺物出土状態(1/60)



第7図 158号住居跡出土遺物1(1/4)



第8図 158号住居跡出土遺物2 (1/3)

第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 種別	遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第7図1 図版9-1	P1北 床直	深鉢	口縁部～ 底部 70%	高口 15.0 底厚 0.8	胴部上位で膨らみ、 頸部で括れ、口縁部 は内湾。口唇部は内 面で肥厚	口縁部には円筒状の把手が付き、ほぼ対象 位には隆帯貼付文が突起を形成する／把 手・突起の中間位置には断面三角形の棒状 隆帯が4～5本1対で垂下する／胴部上半 には押圧文や沈線が施された隆帯による区 画文／隆帯脇は単沈線が沿う。区画文は 単沈線による三叉文や渦巻文が充填される ／胴部下半は無文	赤い赤褐 ・砂粒・礫少 量、雲母微 量	勝坂3b新式
第7図2 図版9-2	覆土 床上20cm	浅鉢	胴部中位 ～底部 70%	高口 11.4 底厚 10.5	僅かに上底状を呈す る底部／体部はほぼ 直線的に広がる、や や急斜に立ち上がる	無文	褐・砂粒・礫 多量、雲母微 量	中期中葉 阿玉台式か
第7図3 図版9-3	床面直上	浅鉢	口縁部中 位～底部 90%	高口 13.6 底厚 9.3 1.0	僅かに上底状を呈す る底部／体部は僅か に内湾しながら広が り、緩やかに立ち上 がる。口縁部で強く 内湾する	無文／体部上位から口縁部の内外面に赤色 顔料の付着が確認できる	明褐・砂粒・ 礫中量	中期中葉 勝坂式か
第8図4 図版9-4	北壁際 覆土上層	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部はやや内傾/ 口唇部外面で肥厚	断面カマボコ状の隆帯による横円区画文/ 隆帯脇に三角押文	赤い赤褐/ 砂粒中量、礫 ・雲母微量	阿玉台1b 式
第8図5 図版9-5	P1東 覆土上層	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.2	胴部下位でやや膨ら み、中位で括れを持 つ／キャリバー形か	0段3条縦線文	明黄褐・砂粒 ・礫少量	勝坂3式
第8図6 図版9-6	覆土	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部はほぼ垂直に 立ち上がる／円筒形 か	口縁部上端には横位は、下位は縦位に懸垂 し施文／口縁部上端直下は多数竹管状工具 痕面引きによる区画、区画直下には縦方向 に短い単沈線／口唇部内面の肥厚部は剥離 した痕跡が確認できる	赤い赤褐/ 砂粒多量	勝坂3式
第8図7 図版9-7	覆土	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.1	やや広がりながら立 ち上がる／円筒形か	押圧文が施された断面台形の隆帯による区 画文／区画文を形成する隆帯が胴部上位と 下位を画するか／隆帯脇には単沈線が沿う ／区画文内は沈線文列	赤い赤褐/ 砂粒中量、礫 少量	勝坂3式
第8図8 図版9-8	北壁際 覆土上層	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾する口縁部／口 唇部肥厚	口唇部に巡る隆帯が円筒状突起を形成／突 起下から隆帯が垂下し区画文を形成するか ／隆帯脇には三角押文が沿うか	明褐・砂粒多 量、礫少量	勝坂1b式
第8図9 図版9-9	P1北東 覆土下層	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	やや広がりながら立 ち上がる	太く低い隆帯による区画文／隆帯脇には幅 広角押文と波状沈線が沿う／縦位隆帯は部 分的に突起状を呈する	明褐・砂粒中量、 礫少量	勝坂2a式
第8図10 図版9-10	覆土上層	深鉢	把手 破片	厚 1.3	山形把手／内湾する	把手頂部から背の高い断面三角形の隆帯 が垂下／垂下する隆帯上には一部押圧文が 施され、隆帯脇には2本の平行沈線が沿う ／把手左側縁には平行沈線と棒状工具によ る刺突文が施される	褐・砂粒多量、 礫・雲母中量	中期中葉 阿玉台Ⅱ式 か
第8図11 図版9-11	北壁際 覆土上層	浅鉢	胴部 破片	厚 0.9	胴部で内湾／口縁部 で広がるか	無文／内外面ともに横位ミガキ／外面赤色 顔料付着	明黄褐・砂粒 中量、礫少量	中期中葉

第6表 158号住居跡出土土器一覧

発掘番号 図版番号	出土位置	種別	遺存状態	長さ／幅／厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 型式
第8図12 図版9-12	P3	土器片断	完形	4.9／4.9／1.0	20	円形／底部2ヶ所／周縁部の摩耗面は顕著／わ ずかに確認できる隆帯脇に幅広爪形文と波状 沈線が沿う	褐・砂粒多量、 雲母中量	勝坂2式

第7表 158号住居跡出土土製品一覧

博物館 図版番号	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第8図13 図版9-13	北壁際 覆土下層	二次加工のある剥片	ホルンフェルス	43.3	55.2	10.3	28.5	
第8図14 図版9-14	覆土	微細剥離のある剥片	履灰岩	81.5	34.4	13.1	30.2	
第8図15 図版9-15	P1北側 覆土中層	打製石斧	ホルンフェルス	100.0	51.4	27.7	123.1	不定形／基部・刃部折損
第8図16 図版9-16	覆土上層	打製石斧	緑泥片岩	85.1	56.9	11.8	64.5	楕形／刃部欠損
第8図17 図版9-17	P1東側 床面直上	磨石	閃緑岩	75.8	52.3	40.9	287.2	長楕円形か／折損し、50%程度が遺存か／全面に磨面が顕著に確認できる／折損面に使用痕跡は認められない
第8図18 図版9-18	覆土中層	凹石	砂岩	108.6	86.8	49.3	618.7	楕円形／表裏面は磨面が顕著／側面の磨面は僅か／表裏にそれぞれ2ヶ所の凹部／全体に被熱痕跡が確認できる

第8表 158号住居跡出土石器一覧

## 159号住居跡

## 遺構 (第9図)

[位置] (C・D-4・5) グリッド/④地点

[検出状況] II層中の検出である。住居跡の掘り込みは確認できていないが、158 Jの覆土上面で検出した焼土(炉跡)と周辺の柱穴の分布状況から住居跡とした。158 Jを切り、8 Pを切られる。完掘率は3/5程度か。住居跡の東半は調査区外。

[構造] 平面形:不明。円形か。規模:推定7.2m/7.2m。壁溝:検出されなかった。壁:検出されなかった。床面:検出されなかった。炉:地床炉。158 J覆土上層と周辺が被熱赤化していた範囲を炉跡として捉えた。規模は長軸96cm/短軸72cm。掘り込みは確認できなかった。被熱範囲の深度は10~15cm。柱穴:6本検出した。当初は、単独のピットとして精査したが、地床炉を囲む分布状況から住居跡の支柱穴と判断した。P4・P5・P6(旧)からP1・P2・P3(新)への拡張が想定できる。

[覆土] 柱穴覆土のみの確認である。ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土ないし明黄褐色土を基調とする。158 J A-A'土層断面にも159 J覆土と思われる堆積は確認できなかったため、住居跡の掘り込みはかなり浅いものと考えられる。

[遺物] 石器は52点990gが出土した。石器は打製石斧2点が出土した。全て柱穴からの出土である。

[時期] 中期中葉~後葉。158 Jを切ることから勝坂3式期以降、P1出土遺物から加曾利E3式期以前と考えられる。

[所見] 掘り込みが浅いことや出土遺物から加曾利E3式期の可能性がある。

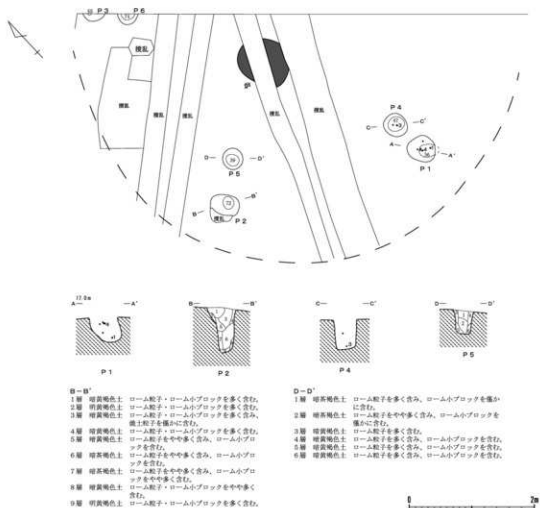
## 遺物 (第10図、第9・10表)

[石器] (第10図1~4、第9表)

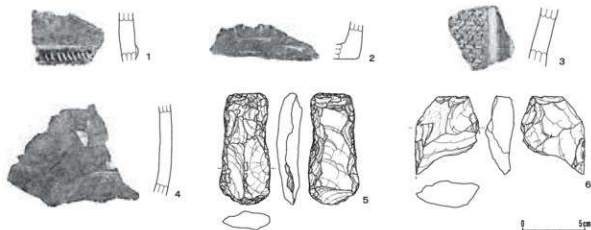
復元個体は出土していない。破片資料4点を図示した。1・2は勝坂式、3は加曾利E3式である。4は中期中葉期の浅鉢形土器である。

[石器] (第10図5・6、第10表)

出土石器全点にあたる打製石斧2点を図示した。5は短冊形の打製石斧で刃部を僅かに折損、6は打製石斧の基部片である。



第9図 159号住居跡 (1/60)



第10図 159号住居跡出土遺物 (1/3)

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 類別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第10図1 図版10-1-1	P1下層	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	底部付近で僅かに膨らむか	押圧文が付された隆帯貼付/隆帯脇には浅い沈線が迫る	粗/砂粒・礫 中量	勝版3式
第10図2 図版10-1-2	P2	深鉢	底部 破片	厚 1.1	底部からはほぼ垂直に立ち上がる	無文/底部下端は横方向に調整	にぶい赤褐/ 砂粒中量	中期中葉 勝版式か
第10図3 図版10-1-3	P4下層	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	外反する胴部	地文は隆帯RLR縦位無文/棒状工具による沈線が2本垂下し、沈線間は磨消される	明黄褐/砂粒 中量	加曾利E3式
第10図4 図版10-1-4	P1上層	浅鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに内湾して広がる胴部/底部付近か	無文/外面赤色顔料付着	明黄褐/砂粒 ・礫少量	中期中葉

第9表 159号住居跡出土土器一覧

発掘番号 図版番号	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第10図5 図版10-1-5	P2	打製石斧	砂岩	88.6	40.3	20.1	75.5	短矩形/ほぼ定形
第10図6 図版10-1-6	P4	打製石斧	砂岩	47.6	55.7	20.2	62.1	基部片/一部礫面を残す

第10表 159号住居跡出土石器一覧

## 160号住居跡

## 遺構 (第11・12図)

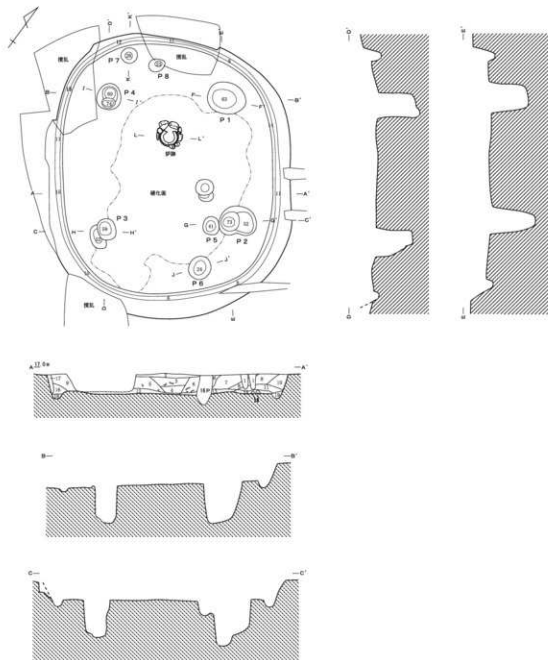
[位置] (B-5) グリッド/㊸・㊹地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時、II層中に検出した。住居跡全体を検出した。調査区全面に及ぶ南北方向の畝状耕作痕や住居西半の攪乱により覆土上～下層や壁面を壊される。一部を除き床面付近の遺存状態は良い。16Pに切られる。

[構造] 平面形：やや丸みを帯びた隅丸方形。主軸方位：N-36°-E。規模：長軸4.5m/短軸3.8m/確認面からの深さ32～36cm。壁溝：1本検出した。全周する。幅10～16cm/深さ8～12cm。壁：内湾してゆるやかに立ち上がる。床面：住居中央に硬化面を検出した。また、住居跡南西隅は特に硬化が顕著であった。住居西側周縁部がやや凹凸を持ち、床全体も平坦でない。炉：住居中央やや北側に石囲埋壺炉を検出した。キャリパー形の深鉢(第13図1)が胴部以下を欠いた状態で埋設され、蔽石(第15図45)を含む拳大の礫8点が土器に密接して配されていた。規模は長軸57cm/短軸54cm/掘り込みの深さは床面から12cm。炉跡周辺は被熱により硬化していた。埋壺：検出されなかった。柱穴：8本検出した。P1・P2・P3・P4が主柱穴か。P1・P3・P4は覆土に柱痕跡が確認できる。床面からの深さは59～74cm。

[覆土] ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土を基調とした均質な土層が堆積していた。床面付近はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土が堆積していた。攪乱により西側の覆土は大きく壊される。

[遺物] 床面から覆土上層にかけて多量の遺物が出土した。住居中央からの出土が目立ち、住居跡南西側は攪乱の影響で遺物の出土が少ない。土器は、1,099点23,596g出土した。勝版3式及び加曾利E1式が大半を占める。石囲埋壺炉に埋設されていた深鉢形土器(第13図1)の他、住居中央の下～中層から深鉢形土器1点(第13図2)、鉢形土器2点(第13図3・4)が出土した。石器は13点(剥片8点、打製石斧3点、蔽石1点、石皿1点)出土した。



A-A'

- 1層 灰瓦
- 2層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 3層 暗赤褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。ローム小ブロックを盛んに含む。
- 4層 暗赤褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。ローム小ブロックを盛んに含む。
- 5層 暗赤褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。ローム小ブロックを盛んに含む。
- 6層 暗赤褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。ローム小ブロックを盛んに含む。
- 7層 暗赤褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。ローム小ブロックを盛んに含む。
- 8層 暗赤褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 9層 暗赤褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 10層 明赤褐色土 ローム粒子をやや多く含む。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 11層 暗赤褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。

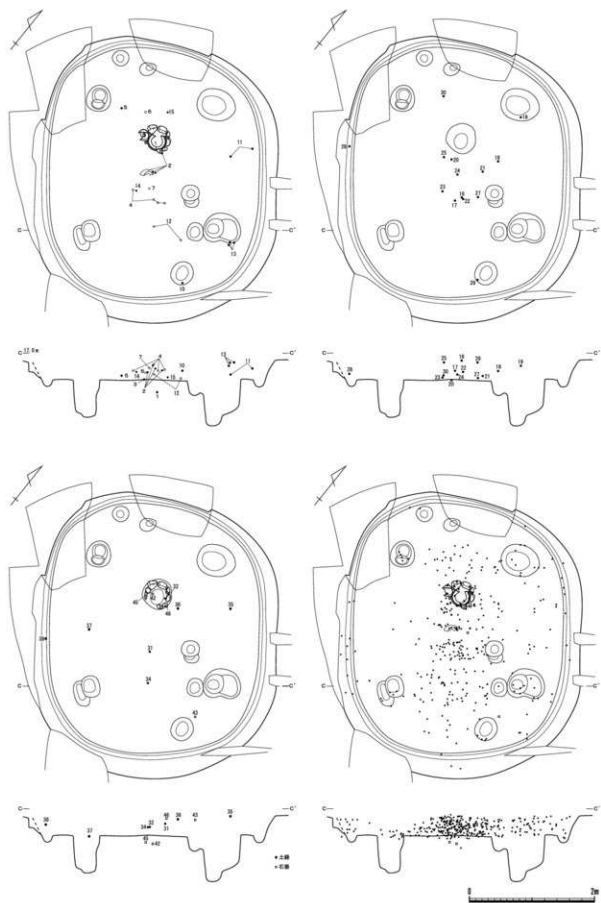
- 12層 明赤褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含む。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 13層 明赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 14層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ローム小ブロックを含む。焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 15層 ロームブロック
- 16層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 17層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 18層 暗赤褐色土 ローム粒子をやや多く含む。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。
- 19層 暗赤褐色土 ローム粒子をやや多く含む。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を盛んに含む。



第11図 160号住居跡・炉跡 (1/60・1/30)



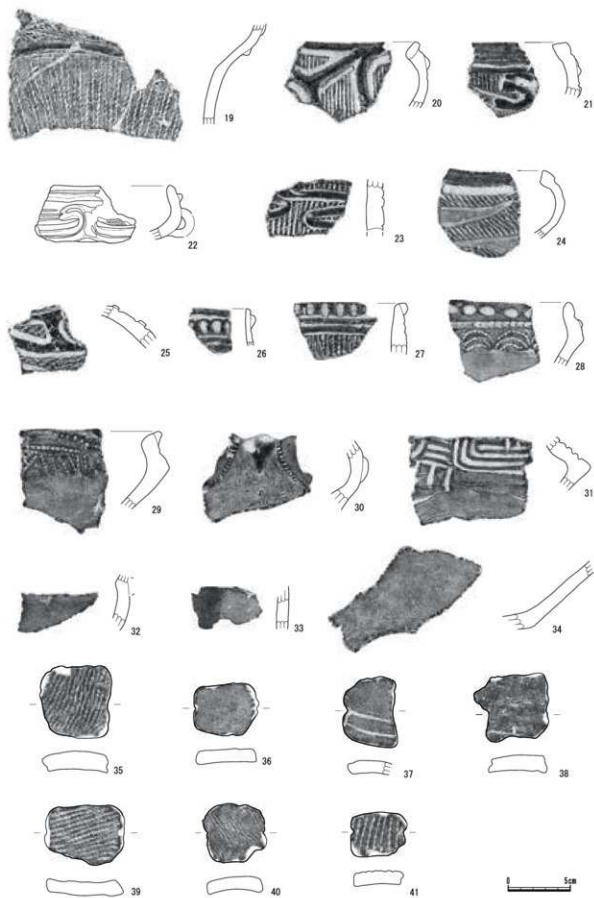




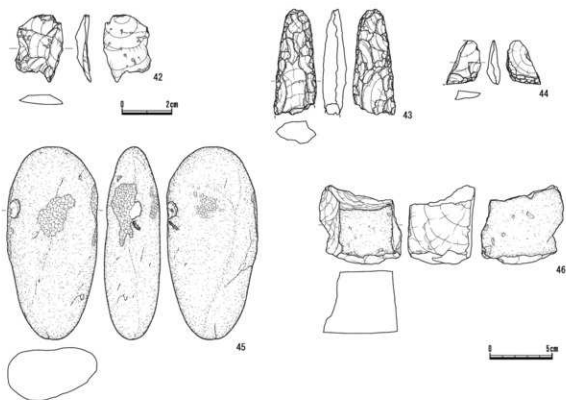
第12図 160号住居跡遺物出土状態(1/60)



第13图 160号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)



第14図 160号住居跡出土遺物2 (1/3)



第15図 160号住居跡出土遺物3 (2/3・1/3)

〔時期〕 出土遺物、特に炉埋設土器から中期後葉（加曾利E1c式期）。

#### 遺物

〔土器〕（第13図1～18、第14図19～34、第11表）

復元個体4点、破片資料30点を図示した。1は石囲埋燵炉の炉体土器で、頸部に無文帯を持つキャリパー形深鉢である。2はキャリパー形深鉢で、口縁部には隆帯によるクランク状文が配される。3・4は小形の鉢形土器で、3には幅広隆帯が貼付され、4は地文を磨り消すようにナデ沈線で渦巻文が配される。5～7は阿玉台式。5は隆帯脇に2ないし3本の並行沈線が沿い、6・7には爪形文が横位に巡る。8～18は勝板式。10～14には押圧文を持つ隆帯脇に単沈線が1本ないし2本沿う。16は地文に燃糸L縦位施文を持つ。17は地文に縄文を持ち、並行沈線により区画文が描かれる。19～25は加曾利E式。19・20・22～24は燃糸L、21は燃糸Rが施文される。26・27は曾利式である。28～34は浅鉢形土器片である。

〔土製品〕（第14図35～41、第12表）

35～41は土器片錘である。全て勝板式の土器片を転用していると思われる。37を除き、方形を呈するものが主体となる。

〔石器〕（第15図42～46、第13表）

5点（剥片1点、打製石斧2点、石皿1点、敲石1点）を図示した。42は黒曜石製の剥片で、炉跡内出土である。43・44は打製石斧である。45は敲石で、石囲埋燵炉の炉石に転用されていた。46は安山岩製の石皿片で、覆土上層からの出土である。

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 種類	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第13図1 図版10-2-1	炉体	深鉢	口縁部～ 胴部上位 70%	高14.1 底厚0.8	直線的に立ち上がる 胴部・頸部で外反し て広がる／口縁部内 内湾／口唇部やや肥 厚／キヤリバー形	隆帯によって口縁部・頸部・胴部を画す／ 地文は単部RLを口縁部横位、胴部は縦位 に無文／口縁部には2本1対の隆帯による 字状文が配される／S字状文は変形して一 部区画文化し、右端では渦巻文、左端では 小突起を形成／3単位確認、4単位か／S字 状文は交互刺突が加えられた波状隆帯によ り、一部連結される／頸部は無文帯／胴部 上端には頸部と画す2本の隆帯が走り、直 下から2本1対の直状隆帯や1本の波状隆 帯が垂下する	明黄褐色／砂 粒・塵少量 口縁部上位内 面は城跡により 赤化	加曾利E1c式
第13図2 図版10-2-2	中央 覆土中層 床上20cm	深鉢	口縁部～ 胴部中位 50%	高14.5 口19.2 底厚0.8	胴部中位からやや外 反しながら広がる／ 口縁部内湾	地文は単部RL縦位施文／1本の隆帯が走り 口縁部と胴部を画す／口縁部上端に隆帯の 刺突跡が走る／口縁部には2本1対の隆 帯によるクランク状文／胴部には沈線が 沿う／胴部は地文のみ	明黄褐色／砂 粒・塵少量	加曾利E1a ～b式
第13図3 図版10-2-3	炉跡上 覆土下層 床上8.5 cm	鉢	口縁部～ 底部 40%	高11.9 口20.0 底厚1.0	平底／やや内湾しな がら立ち上がる体部 ／口縁部で外反	地文無文の体部／音の低い幅広隆帯の貼付 を一部確認	明黄褐色／砂粒 少量、塵中量	加曾利E式 期か
第13図4 図版10-2-4	中央 覆土中層 床上16cm	鉢	口縁部～ 底部 40%	高9.3 口16.6 底厚1.0	底部から内湾しなが ら広がり、口縁部上 半で括れ、口唇部が 肥厚して外積	口唇部に突起を1単位確認／地文はRL横位 ／口縁部には、地文を磨消すべく浅いツデ 沈線による渦巻文を2単位確認／21P第40 図11と同一個体か	明黄褐色／砂粒 ・塵少量	加曾利E1c式
第13図5 図版10-2-5	覆土下層	深鉢	胴部中 破片	厚0.8	僅かに広がりながら 立ち上がる／キヤリ バー形か	断面三角形の隆帯が2本1対で垂下／隆帯 脇に3本1対の波状沈線／波状沈線は部分的 に押し引き	にぶい黄褐色 ／砂粒・塵・雲 母多量	阿玉台B1式
第13図6 図版10-2-6	覆土中層	深鉢	胴部上 破片	厚0.7	僅かに広がりながら 立ち上がる	断面コマボコ状の幅広隆帯によるY字状懸 垂文／長さ約1cmの押圧文が横位に走る	暗褐色／塵・雲 母多量	阿玉台B1式
第13図7 図版10-2-7	覆土上層	深鉢	胴部 破片	厚0.9	僅かに広がりながら 立ち上がる	断面コマボコ状隆帯による懸垂文／長さ約 1.5cmの刻目が横位に走る	にぶい褐色／砂 粒・塵・雲母 中量	阿玉台B1式
第13図8 図版10-2-8	覆土	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	平縁／内湾する口縁 ／口唇部でやや肥厚 ／	竹管状工具背面の押し引きによる角押文2列 で区画文／角押文列は部分的に波状を呈す る	黄褐色／砂粒中 量	勝版1式
第13図9 図版10-2-9	覆土	深鉢	胴部上 破片	厚0.9	やや広がりながら立 ち上がる	隆帯＋幅広爪形文＋半円形刺突による区画 文／波状沈線が横位に施文される	にぶい黄褐色 ／砂粒・塵中量	勝版2式
第13図10 図版10-2-10	覆土中層	深鉢	胴部 破片	厚1.3		半截竹管状工具腹面引きによる区画文	褐／砂粒中量	勝版2式
第13図11 図版10-2-11	東壁際 覆土中層	深鉢	口縁～ 胴部 破片	厚0.9	ほぼ垂直に立ち上が り、口縁部内面は断 面三角形に肥厚／ 口唇部は平湾／円筒 形か	口縁部無文／口縁部と胴部は沈線、胴部上 半と下半は隆帯で画す／胴部上半は隆帯 ＋単沈線2本による区画文／隆帯は断面台 形で斜位に押圧文が施される／区画文は 単沈線による三叉文・渦巻文が充填	暗褐色／砂粒少 量、塵少量	勝版3a式
第13図12 図版10-2-12	P2西側 覆土下層	深鉢	胴部中位 破片	厚1.1	やや広がりながら立 ち上がる／円筒形か	隆帯によって胴部上半と下半を画す／隆 帯は断面台形で押圧文が密に付される／胴 部上半は並行沈線による区画、交互刺突文 ／胴部下半には断赤R縦位施文	褐／砂粒・塵 中量	勝版3a式
第13図13 図版10-2-13	P2南側 覆土上層	深鉢	口縁下位 破片	厚1.2	内湾する口縁	矢羽状押圧が施された隆帯／口縁部は沈線 によって部分的に二分割された太い隆帯に よる区画文／隆帯脇に太く浅い沈線が2本 沿う／区画文内は沈線別	にぶい黄褐色 ／砂粒・塵中量	勝版3b式
第13図14 図版10-2-14	中央 覆土中層	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	口縁部上端で肥厚／ 円筒形	無文の口縁部／押圧文の付された幅広の隆 帯が逆U字状に貼付され、突起を形成／隆 帯は沈線により3分割され、部分的に交互 刺突文が施される／隆帯は内能が薄く、外 能が厚い	にぶい黄褐色 ／砂粒・塵・雲 母中量	勝版3式
第13図15 図版10-2-15	炉跡北側 覆土下層	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	口縁部に把手／やや 内湾する口縁部／口 縁部内面で肥厚	口縁部上端に円環状把手が付く／把手縁部 には刻み目が付される／口縁部は単沈線 による渦巻文か	にぶい褐色／砂 粒多量	勝版3式

第11表 160号住居跡出土土器一覧(1)

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 種類	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第13図16 図版10-2-16	中央 覆土上層	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	やや外反しながら広がる口縁部/外縁して付く把手	口縁部上端は押圧文が付された隆帯による肥厚し、扇形の把手形成/把手は凸凹形ないし渦巻文が貼付/口縁部黒糸1段位を地文とし、波状沈線と沈線2本が順位の施文	にぶい赤褐色/砂粒・礫少量	勝飯3式
第13図17 図版10-2-17	中央 覆土中層	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	ほぼ垂直に立ち上がり、口縁部上端内側に肥厚し、稜を持つ	単筋RLが、口唇部と口縁部上端は密な横位施文、口縁部上位以下は隙間の多い縦位施文/口縁部上位に2段の並行沈線/並行沈線による縦位区画、渦巻文?が施文	にぶい赤褐色/砂粒・礫中量	勝飯3式
第13図18 図版10-2-18	中央 覆土中層	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口縁部内湾	太い隆帯による梅円区画文/隆帯脇には太し沈線が走る/区画内には縦位沈線/区画内には赤色顔料付着	粗/砂粒・礫中量、遺母少量	勝飯3式
第14図19 図版10-2-19	P1 南側 覆土上層	深鉢	胴部上位 ~口縁下位 破片	厚 0.9	胴部で括れ、口縁部で内湾して広がる/キャリバー形	黒糸Lが口縁部は横位、胴部以下は縦位の施文/隆帯によって口縁部と頸部以下が画される/隆帯の貼付はやや甘い	にぶい黄褐色/砂粒・礫中量	加曾利E1式
第14図20 図版11-1-20	伊勢南側 床面直上	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部/口唇部は肥厚	黒糸L縦位施文/隆帯による変形したS字状文?/隆帯脇には沈線が沿う	にぶい黄褐色/砂粒多量、礫少量	加曾利E1式
第14図21 図版11-1-21	伊勢南側 覆土下層	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	緩やかに内湾する口縁部/口唇部は肥厚	黒糸R縦位施文/2本一對の隆帯によるS字状文	粗/砂粒・礫多量	加曾利E1式
第14図22 図版11-1-22	中央 覆土中層	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	やや強く内湾する口縁部	黒糸L横位施文/沈線によって二分された隆帯によるS字状文/S字状文の端部は連結部で縦位突起を形成/S字状文によって口縁部と頸部が画される	にぶい粗/砂粒・礫中量	加曾利E1式
第14図23 図版11-1-23	中央 覆土下層	深鉢	胴部 破片	厚 1.3		黒糸L縦位施文/半截竹管状工具腹面引きによる曲線文	粗/砂粒・礫多量	加曾利E1式
第14図24 図版11-1-24	中央 覆土下層	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	強く内湾する口縁部/口唇部で肥厚	単筋RL横位施文/口唇部直下に太く浅い沈線/口縁部には浅い沈線による剣先状文/沈線間は擦消	明赤褐色/砂粒・礫多量	加曾利E3式
第14図25 図版11-1-25	中央 覆土上層	鉢	口縁部下 破片	厚 1.0	内湾する口縁部	単筋RL横位施文/断面台形の隆帯による区画文/隆帯脇に沈線が沿う	明赤褐色/砂粒・礫少量	加曾利E2~3式
第14図26 図版11-1-26	覆土	深鉢	口縁部 破片	厚 0.5	直立する口縁部/膨らむ胴部	口唇部直下に押指が施された隆帯が走り、直下には平行沈線が沿う	粗/砂粒中量、礫少量	曾利式
第14図27 図版11-1-27	中央 覆土下層	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	ほぼ垂直に立ち上がり/口縁部上位は薄手(0.8cm)/口唇部肥厚	口縁部上端に押指が施された隆帯貼付/直下に一端を重ねた半截竹管状工具腹面引きによる平行沈線が3本/黒糸L縦位施文/施文順序は、地文→平行沈線→隆帯貼付	粗/砂粒多量	曾利式か
第14図28 図版11-1-28	西壁際 覆土下層	浅鉢	口縁部 破片	厚 0.9	外反して広がる胴部/やや内湾する口縁部	口唇部押指/口唇部直下にへう状工具の押指による結節沈線/幅広の薄い隆帯貼付→3本の結節沈線による半円形文でおさえ/空白部には凹形剣先状文/左縁内面に未貫通の補修孔施文	赤褐色/砂粒少量	阿玉台1式
第14図29 図版11-1-29	P6 南側 覆土上層	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.0	やや内湾しながら広がる体部/内湾する口縁部	押圧文が付された隆帯が口唇部に巡りつつ、口縁部を垂下して区画文を形成/隆帯脇には三角押文列が2列沿う/区画内には斜位の三角押文列が充填	にぶい粗/砂粒・礫少量	勝飯1b式
第14図30 図版11-1-30	北側中央 覆土下層	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.1	扇形か/内湾する	把手外面縦線部に押圧文が付される/波型部に隆帯によるY字状文が垂下/赤色顔料付着	赤褐色/砂粒・礫中量	阿玉台1~2式
第14図31 図版11-1-31	中央 覆土中層	浅鉢	口縁下位 ~胴部上位 破片	厚 1.1	体部は広がり、口縁部で強く内屈	口縁部には半截竹管状工具腹面引きの平行沈線による方形区画/平行沈線は一端を重ねて引かれる	明赤褐色/砂粒中量	中期中葉
第14図32 図版11-1-32	伊勢上 覆土上層	浅鉢	胴部上位 破片	厚 1.0	緩やかに内湾して広がる胴部/外湾する口縁部	口縁部は外面割落/胴部無文/内外面赤色顔料付着	暗褐色/砂粒・礫多量	中期中葉
第14図33 図版11-1-33	覆土	浅鉢	胴部 破片	厚 0.8		細い沈線による区画/赤糸による文様	明褐色/礫多量	中期
第14図34 図版11-1-34	南側中央 覆土中層	浅鉢	底部 破片	厚 1.1	ほぼ直線的に外縁して立ち上がる	無文	粗/砂粒多量、礫少量	中期

第11表 160号住居跡出土土器一覽(2)

検出番号 図版番号	出土位置	種別	遺存状態	長さ／幅／厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 式
第14図35 図版11-1-35	中央東側 覆土上層	土器片跡	完形	5.0／5.6／1.3	56	方形／挾部2ヶ所／摩耗痕未発達／深鉢胴部片使用／単節RL斜位施文	明黄褐／砂粒多量、礫中量	勝坂3式
第14図36 図版11-1-36	伊勢東側 覆土上層	土器片跡	完形	4.1／5.0／1.0	30	方形／挾部2ヶ所顯著、4か所か／摩耗痕一部確認／浅鉢胴部片使用か／無文	にぶい黄褐／砂粒少量、礫中量	勝坂式
第14図37 図版11-1-37	西側中央 床面直上	土器片跡	50%	5.5／4.2／0.9	28	楕円形か／挾部1ヶ所所確認／摩耗痕顯著／深鉢胴部片使用／沈線による文様	黒／砂粒・礫中量	勝坂式
第14図38 図版11-1-38	西側東 覆土上層	土器片跡	完形	5.1／5.8／1.3	48	方形／挾部2ヶ所確認／摩耗痕一部確認／深鉢口縁部使用か／無文	にぶい黄褐／砂粒・礫多量	勝坂式か
第14図39 図版11-1-39	覆土	土器片跡	90%	4.8／6.1／1.2	46	方形か／一部折損／挾部2ヶ所顯著、3ヶ所か／摩耗痕顯著／深鉢胴部片使用／単節RL斜位施文	黒／砂粒・礫中量	勝坂3式
第14図40 図版11-1-40	覆土	土器片跡	完形	5.7／4.9／1.0	32	方形／挾部2ヶ所確認、4ヶ所か／摩耗痕一部顯著／深鉢胴部破片使用／単節RL横位施文	褐／砂粒・礫中量	勝坂式か
第14図41 図版11-1-41	覆土	土器片跡	完形	3.5／4.4／1.1	23	方形／挾部2ヶ所／摩耗痕一部確認／深鉢胴部片使用か／ペン先状工具押引による押圧文列無文	褐／砂粒・礫多量	勝坂式

第12表 160号住居跡出土土製品一覧

検出番号 図版番号	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第15図42 図版11-1-42	炉跡	剥片	黒曜石	26.7	18.9	6.2	1.9	顯著な被熱は認められない
第15図43 図版11-1-43	P6北側 覆土上層	打製石斧	砂岩	83.7	34.0	18.8	53.7	やや縮みを呈する／刃部欠損
第15図44 図版11-1-44	覆土	打製石斧	安山岩	34.8	27.2	10.4	7.1	刃部片か
第15図45 図版11-1-45	炉跡	敲石	砂岩	153.0	72.4	44.4	631.9	表裏・両側縁部に敲打痕／石調埋甕炉の炉石として転用／一部被熱
第15図46 図版11-1-46	炉跡上 覆土上層	石皿	安山岩	62.6	65.5	52.9	188.2	表裏面は磨痕が顯著に確認できる

第13表 160号住居跡出土石器一覧

## 161号住居跡

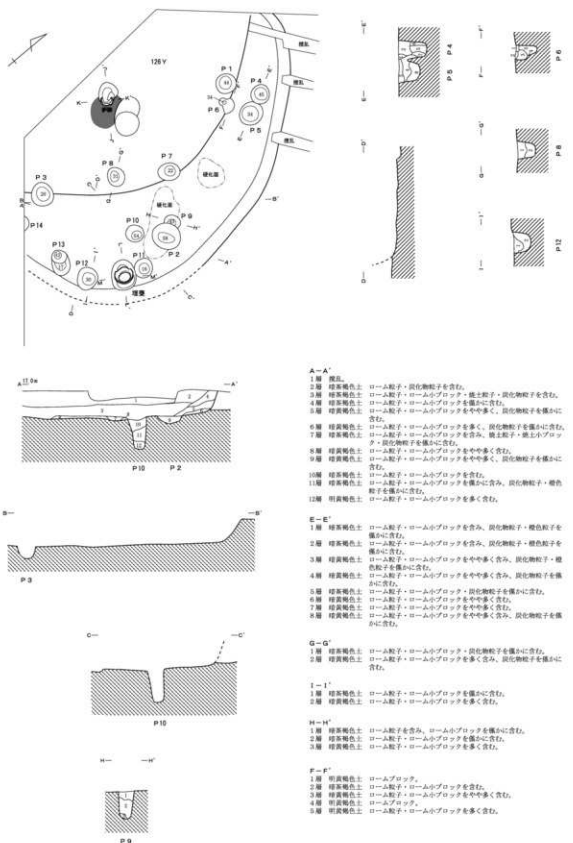
## 遺 構 (第16～18図)

[位 置] (A-4・5) グリッド③地点

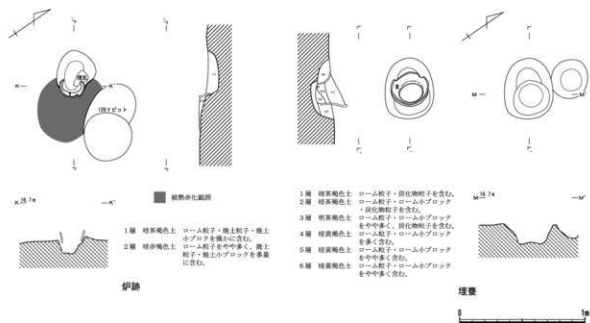
[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時、Ⅱ層中に検出した。調査区外南西に延びると想定されるが、区画整理第7V・25Ⅱ地点では検出されていない。住居中央部分は126Yに壊されており、遺存状態は悪い。162Jを切る。当初、東側で重複する162Jについても161Jの一部として掘り下げたため、東壁は床面付近まで検出できなかった。161Jは162Jよりも僅かに深い掘り込みを持つため、床面検出に伴って壁面の立ち上がりを確認し、平面形を把握した。

[構 造] 平面形：楕円形か。主軸方位：N-55°-E。規模：西側が調査区外にあるため詳細は不明。推定5.4m/6.0m/確認面からの深さ40～42cm。壁溝：検出されなかった。壁：内湾し緩やかに立ち上がる。床面：西側の大部分を126Yに壊される。東側の一部に硬化面を検出した。中央部分が僅かに深いか。直床である。炉：埋甕炉。被熱赤化範囲を含めた規模は長軸58cm/短軸51cm。胴部下半を打ち欠いた深鉢形土器(第19図1)が埋設されていた。埋設土器から南東側が著しく被熱赤化していた。埋設土器外面の被熱が著しい。炉跡上部を126Y掘り方で壊されていた他、南東部を126YP1に、北部をビット状の攪乱によって壊されていた。埋甕：1基検出した。南東側壁際に胴部下半

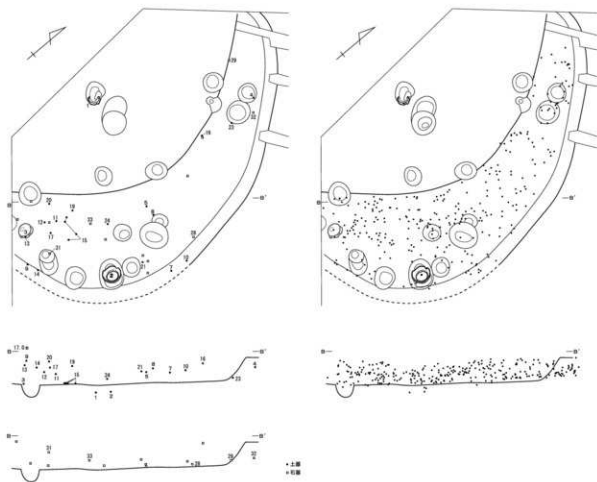




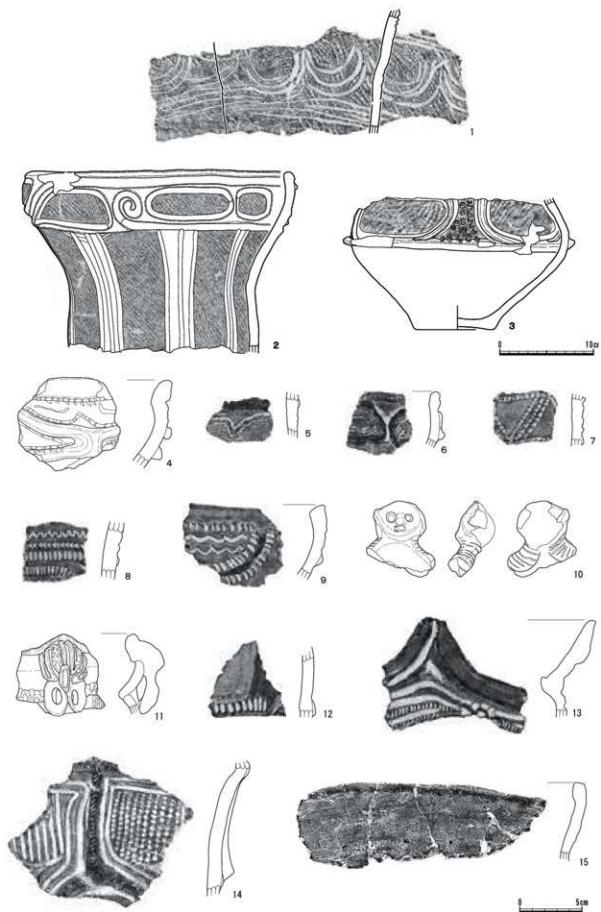
第16図 161号住居跡(1/60)



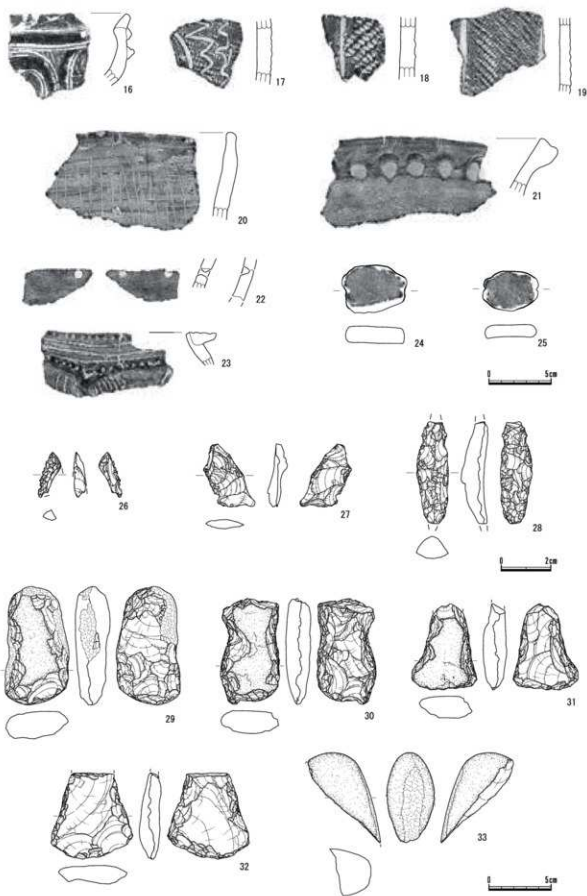
第17図 161号住居跡炉跡・埋壁 (1/30)



第18図 161号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第19图 161号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)



第20図 161号住居跡出土遺物2 (1/3・2/3)

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第19図1 図版11-2-1	埴体	深鉢	口縁部上 位～胴部 60%	高13.2 — 底厚 0.9	胴部上半はやや膨ら み、頸部で括れ、口 縁部はやや内湾して 開く	地文は黒系Rかやや右下がり縦文飾文/口 縁部上位と頸部に基本3本1組の沈線が沿 り口縁部と胴部を囲する/頸部に沿る沈線 は濃結が粗雑で部分的に上下に重なる/口 縁部と頸部には3本1組からなる連弧文が6 単位確認でき、左から右へ展開する	明黄褐/砂粒 ・礫少量/焼 熱により内外 面やや赤化、 部分的に剥落	連弧文 加曾利E3a ～b式期か
第19図2 図版11-2-2	埴埴	深鉢	口縁部中 位～胴部 80%	高19.5 (28.4) — 底厚 0.9	胴部中位で膨らみ、 胴部上位から頸部で 括れ、口縁部は内湾 して開く/最大径は 口縁中位	地文はLR縦文飾文/口縁部には隆帯による 連巻文と横溝、半筒状区画文を3単位確認 (4単位分)/胴部には沈線による垂下文が 9単位(3本1対:1単位、2本1対:2単位) /沈線間は磨消	明黄褐/砂粒 ・礫少量 ・黄褐色	加曾利E3a 式
第19図3 図版11-2-3	床直	鉢	口縁部中 位～底部 60%	高13.9 — 底厚 8.4 0.8	やや上げ底/底部付 近はやや急斜に立ち 上がる/体部は僅か に内湾しながら広が る/口縁部は内湾/ 口唇部は欠損	地文は単筋RL縦文飾文/隆帯によって口縁 部と体部が画される/口縁部は隆帯による 横溝と区画文が配される(2単位確認)、区画 間には中空工具の端部による円形刺突文を充 填/体部は無文/体部内面に赤筋	明褐/砂粒・ 礫中量	加曾利E3a ～b式
第19図4 図版12-4	P4 東側 覆土上層	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾する口縁部/や や肥厚して外積する 口唇部	断面カマボコ状の隆帯による重三角区画文 /区画文の端部で隆帯が盛り上がり、尖突 起を形成/隆帯脇には棒状工具の押し引き による結節沈線が1列沿う/区画文内には沈 線による三叉状文が配される	灰褐色/砂粒・ 礫中量 ・雲母少量	阿玉台1b式
第19図5 図版12-5	P9 西側 覆土中層	深鉢	胴部 破片	厚 0.7		断面三角形の隆帯/隆帯脇には半縦竹管状 工具の腹面引きによる結節沈線文が2列沿 う/結節沈線文は部分的に波状を呈す	褐/砂粒・礫 ・雲母中量	阿玉台B式
第19図6 図版12-6	覆土	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	内湾する口縁部/肥 厚して外積する口唇 部	幅広い口縁部文様帯/細い隆帯による横溝 区画文/区画文内の隆帯脇には、結節沈線 が3列沿う	灰褐/砂粒・ 礫・雲母中量	阿玉台B式
第19図7 図版12-7	東壁際 覆土中層	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		複数の結節沈線文による三角区画文	暗褐/砂粒・ 礫微量	勝版1式
第19図8 図版12-8	P9 西側 覆土中層	深鉢	胴部 破片	厚 1.1		隆帯による区画文/隆帯脇には幅広角押文 と三角押文が沿う	暗褐/砂粒・ 礫・雲母少量	勝版1式
第19図9 図版12-9	南壁際 覆土上層	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部/や や外積する口唇部	断面カマボコ状の隆帯による重三角区画文 /隆帯脇には幅広角押文が沿う/区画文内 には波状沈線が充填	赤褐/砂粒中 量、礫少量	勝版2式
第19図10 図版12-10	東壁際 覆土中層	一	把手 破片	厚 1.1	中空の顔面把手/顔 面部は顔内側を向く /顔面部は平皿、後 頭部は半球状	目は穿孔、鼻は短い隆帯貼付、口は竹管状 工具の押し引きによって表現/頸部には隆帯貼 付/胴部にあたる側部には刻目/背側部 には肥厚して沈線によって縁取りされ、細 い棒状工具の押し引きによる結節沈線文列飾文	明褐/砂粒・ 礫少量	勝版2～3式
第19図11 図版12-11	南側中央 覆土中層	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	胴部が張り、頸部で 括れ、内湾する口縁 部/口唇部肥厚/小 形深鉢か	無文の口縁部上端に半球状把手、その直下 頸部に縦線状把手/半球状把手は、一部に 交互刺突文を伴う角めめ隆帯が貼付されク ルミ状を呈する/頸部に交互刺突が施され た隆帯が沿る	暗/砂粒中量	勝版3式
第19図12 図版12-12	南側中央 覆土中層	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	やや膨らむ胴部	断面台形の幅広隆帯による区画文/隆帯上 には押し文が付される/隆帯脇は僅かにナ ズ沈線が沿う/区画文内は空白部が目立つ	明褐/砂粒少 量、礫中量	勝版3式
第19図13 図版12-13	南側中央 覆土上層	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部/肥 厚する口唇部	口唇部に沿る隆帯が山形の把手を形成/口 縁部には押し文を伴うやや青の低い隆帯が 貼付/隆帯脇には単沈線が沿う/一部に交 互刺突文が施される	暗赤褐/砂粒 中量、礫微量	勝版3式
第19図14 図版12-14	南壁際 覆土上層	深鉢	頸部 破片	厚 0.9	外反して広がる頸部 /口縁部で内湾する か	斜位に押し文が付された隆帯による区画文 /頸部から垂下する隆帯は胴部中央で連巻 文を形成するか/隆帯脇には半縦竹管状工 具の腹面引きによる並行沈線が沿う/区画 文内は縦文飾文列や刺突文列が充填され る	灰褐色/砂粒 ・礫少量	勝版3式

第14表 161号住居跡出土土器一覽(1)

## 第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 類別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第19図15 図版12-15	南側中央 床面直上 4点接合	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	僅かに内湾しながら 外傾する口縁部/内 面でやや肥厚する口 唇部	無文	橙/砂粒少量 礫中量、赤色 粒子少量	播板3式
第20図16 図版12-16	東側 覆土上層	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部/や や外傾する口唇部	口縁部上端に断面力マゴ状の隆帯が認め る/口縁部には隆帯によるS字文/隆帯脇 は半截竹管状工具腹面引きによっておさ えられる	にぶい/褐/砂 粒多量、礫少 量	加曾利E1式
第20図17 図版12-17	南側 覆土上層	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	僅かに広がりながら 立ち上がる胴部	地文は単筋RL縦位施文/波状沈線が垂下 する	暗褐/砂粒中 量、礫微量	加曾利E2式
第20図18 図版12-18	覆土	深鉢	胴部 破片	厚 1.2		地文は節の粗い単筋RL縦位施文/磨消しを 伴う沈線垂下	明褐色/砂粒 微量、礫中量	加曾利E3式
第20図19 図版12-19	南側 覆土上層	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	胴部中位で僅かに括 れる	地文は単筋RL縦位施文/磨消しを伴う沈線 が垂下	にぶい/褐/砂 粒微量、礫少 量	加曾利E3式
第20図20 図版12-20	南側 覆土上層	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1		細い沈線が縦位に施文/口唇部直下はナゾ リ		加曾利E3- 4式
第20図21 図版12-21	覆土	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.0	やや急角度に立ち上 がる体部/口縁部で 肥厚/深みの浅鉢か	無文の体部/口唇部には押捺が付される/内 外全面に微量の赤色顔料が付着	赤褐/砂粒、 礫・雲母少量	中期中葉 播板式か
第20図22 図版12-22	覆土	浅鉢	胴部 破片	厚 0.9		無文/内外面赤彩か/補修孔2ヶ所(1ヶ 所未貫通)/貫通補修孔は内外面から穿孔 /未貫通補修孔は内部からのみ確認	赤褐/砂粒、 礫・雲母少量	中期
第20図23 図版12-23	P5南側 覆土下層	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内補する口縁部/扁 平に肥厚する口唇部	口唇部には板状の隆帯が貼付され肥厚する /口唇部には半截竹管状工具の腹面引きに よる結節沈線が3本通り、口唇部内外面 には押捺が付される/口唇部から垂下する棒 状隆帯を包むように隆帯が貼付される/口 縁部には結節沈線文列が複数施文される	橙/砂粒・礫 多量、雲母中 量、白色粒子 少量	阿玉台II式

第14表 161号住居跡出土土器一覽(2)

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 類別	遺存状態	長さ/幅/厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 型式
第20図24 図版12-24	南側中央 覆土下層	土器片鉢	90%	5.0/3.7/1.3	29	楕円形/挾部2ヶ所確認/摩耗痕未発達/無文	にぶい/赤褐/ 砂粒・礫中量	中期中葉
第20図25 図版12-25	覆土	土器片鉢	100%	5.3/5.0/1.0	16	楕円形/挾部2ヶ所確認/摩耗痕顕著/無文	橙/砂粒中量	中期中葉

第15表 161号住居跡出土土製品一覽

発掘番号 図版番号	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第20図26 図版12-26	覆土	石鏡	黒曜石	17.9	9.1	4.9	0.3	縁辺部は鋸歯状/片側の脚部欠損
第20図27 図版12-27	P16	楔形石器	黒曜石	25.0	20.4	7.9	1.5	両縁縁に微細刺痕あり
第20図28 図版12-28	東壁際 覆土下層	石匙	黒曜石	40.5	12.6	10.6	4.2	縦形/基部と先端部を僅かに欠損する/横断面は 厚みのある三角形
第20図29 図版12-29	北側 覆土下層	打製石斧	砂岩	94.0	50.7	27.5	173.2	短冊形か/宀形/表裏面に礫面を残す
第20図30 図版12-30	覆土	打製石斧	ホルンフェルス	83.9	46.9	19.7	108.0	短冊形か/宀形/礫面を残す
第20図31 図版12-31	南側 覆土上層	打製石斧	砂岩	69.4	51.7	18.7	64.7	楕形/小形/基部を僅かに欠損/礫面を残す
第20図32 図版12-32	P5東側 覆土下層	打製石斧	ホルンフェルス	68.3	65.0	17.4	75.6	楕形か/基部を欠損
第20図33 図版12-33	南側中央 覆土中層	磨石	砂岩	71.4	57.6	37.9	96.0	破片/長楕円形か/磨面顕著/縁辺に敲打痕

第16表 161号住居跡出土土器一覽

を打ち欠いた深鉢形土器（第19図2）が、口縁を住居中央にやや傾けて正位に埋設されていた。柱穴：14本検出した。P1・P2・P4・P5・P9・P10・P13が主柱穴か。床面からの深さは34～58cm。  
 [覆土] 126 Yや畝状耕作痕に壊されており、遺存状態は悪い。ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土を基調とする締まりのある均質な土が堆積していた。

[遺物] 床面～覆土上層まで住居全体に万遍なく出土した。土器は1,104点23,398 g出土した。埋甕炉の埋設土器（第19図1）の他、埋甕（第19図2）、住居南壁床面直上から鉢形土器（第19図3）が出土している。石器は26点（剥片16点、石鏃1点、楔形石器1点、石匙1点、打製石斧4点、磨石1点、敲石2点）出土した。

[時期] 炉埋設土器及び埋甕から中期後葉（加曾利E3a～b式期）

[遺物]（第19・20図、第14～16表）

[土器]（第19図1～15、第20図16～23、第14表）

復元個体3点、破片資料20点を図示した。1は炉体土器で、やや粗雑な連弧文の深鉢。2は埋甕で、口縁部に楕円区画文、胴部に磨消しを伴う懸垂文を持つ加曾利E3式のキャリパー形深鉢。3は加曾利E3式の鉢形土器。4～6は阿玉台式で隆帯脇に結節沈線が沿う。7～15は勝坂式で、10は人面把手である。11はクルミ状の突起を持つ。15～20は加曾利E式である。21～23は浅鉢形土器で、22には補修孔が確認できる。

[土製品]（第20図24・25、第15表）

24・25は土器片錘である。中期中葉の土器片の転用か。

[石器]（第20図26～33、第16表）

石器は8点（石鏃1点、楔形石器1点、石匙1点、打製石斧4点、磨石1点）を図示した。

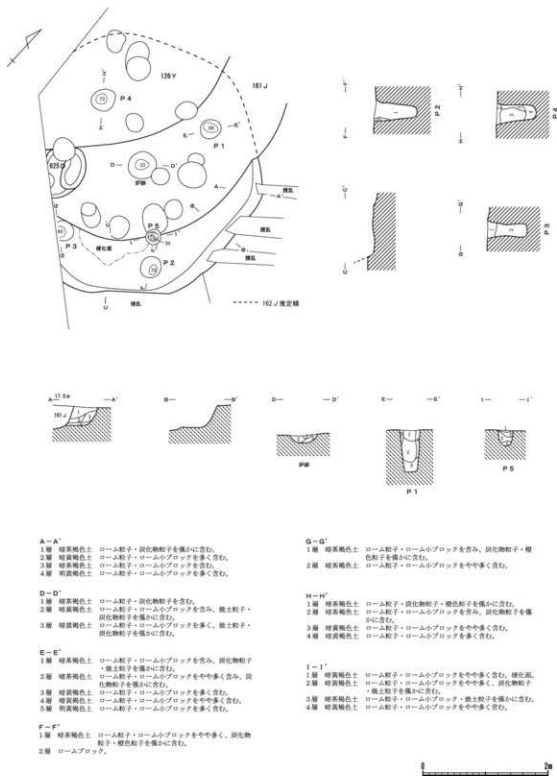
## 162号住居跡

[遺構]（第21・22図）

[位置]（A-4・5）グリッド/㊸地点

[検出状況] II層中の検出である。住居の西側大半を161 Jに切られ、南東側を攪乱に壊される。当初161 Jの一部として精査を進めていたが、161 J床面検出時、床面の高低差や硬化面の検出状況、平面形、A-A'土層断面の観察から別の住居として判断した。また161 Jの床下から、覆土に焼土粒子を含む掘込を検出しており、これを162 Jの炉跡とした。調査区外西側に延びると想定されるが、区画整理第7 V・25 II地点では検出されていない。

[構造] 平面形：円形か。規模：推定4.1 m×4.1 m/確認面からの深さ38 cm。住居北西側大半が161 Jに切られ、南側は調査区外であるため詳細は不明。壁溝：検出されなかった。壁：内湾してゆるやかに立ち上がる。床面：南東側に硬化面を検出した。北西側の大半が161 Jに壊される。161 Jの北壁・東壁から推定される平面形と符合するように、162 Jの硬化面が途切れていた。直床である。炉：地床炉か。161 J床下から検出した掘込について、覆土に焼土粒子を含むこと、底面に被熱痕跡が認められること、位置関係から本住居跡の炉跡と判断した。規模は45 cm×42 cm。掘り込みの深さは161 Jの床から12 cm。阿玉台式の土器片（第23図1）が出土している。柱穴：5本検出した。P1・P2・P3・P4の4本が主柱穴か。深さは60～72 cm。P1・P4は平面的には161 J検出であるが、P2・P3と同様の形態的特徴を備えていること、また位置関係から本住居跡帰属と判断した。

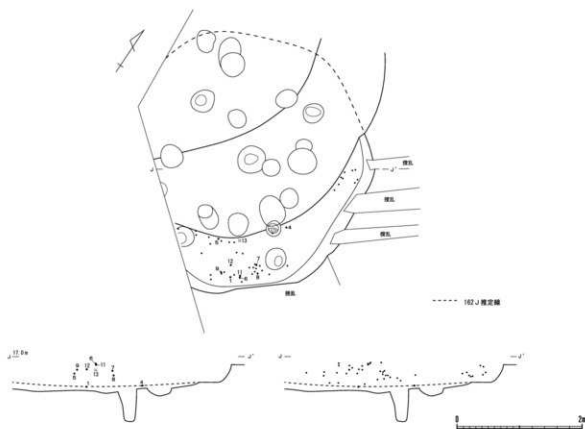


- A-A'**
- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を多く含む。
  - 2層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
  - 3層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
  - 4層 明黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
- D-D'**
- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含む。
  - 2層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、粘土粒子・炭化物粒子を多く含む。
  - 3層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、粘土粒子・炭化物粒子を多く含む。
- E-E'**
- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・粘土粒子を多く含む。
  - 2層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。炭化物粒子を多く含む。
  - 3層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
  - 4層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。
  - 5層 明黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
- F-F'**
- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子・粘土粒子を多く含む。
  - 2層 ロームブロック。

- G-G'**
- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・粘土粒子を多く含む。
  - 2層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。
- H-H'**
- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・粘土粒子を多く含む。
  - 2層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を多く含む。
  - 3層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。
  - 4層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
- I-I'**
- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。粘土質。
  - 2層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子・粘土粒子を多く含む。
  - 3層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック、粘土粒子を多く含む。
  - 4層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。

第21図 162号住居跡・625号土坑（1/60）





第22図 162号住居跡遺物出土状態(1/60)

[覆 土] 161 Jや攪乱によって削平され、覆土の遺存状態は悪い。上層はローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土と基調とし、下層はローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土を基調とした均質な土が堆積していた。162 Jの覆土に比して、ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含んでいる。

[遺 物] 住居跡の大半を161 Jや攪乱に壊されているため、162 J 帰属遺物の出土は少なく、密度も低い。土器は88点2,224 g出土した。全て破片資料である。石器は3点(打製石斧2点、敲石1点)出土している。

[時 期] 出土遺物が少なく時期の比定は難しいが、炉跡や覆土出土土器片から中期中葉(阿玉台Ⅱ～Ⅳ式期/勝坂2～3式期)と考えられる。

**遺 物** (第23図、第17表)

[土 器] (第23図1～8、第17表)

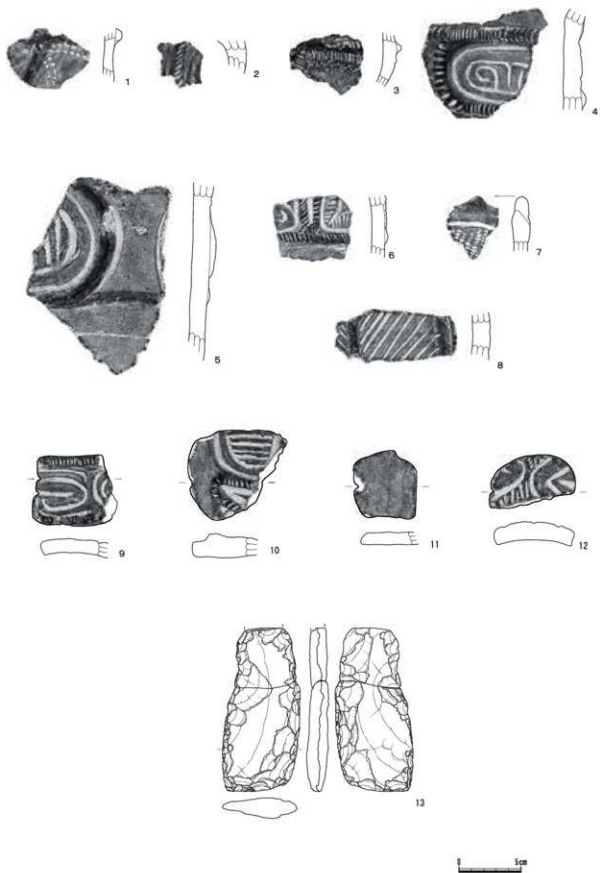
破片資料8点を図示した。1は炉跡出土の阿玉台式土器。2～6は勝坂式土器、7は加曾利E式、8は曾利式土器である。

[土 製 品] (第23図9～12、第18表)

9～12は土器片錘である。全て勝坂式土器を転用している。

[石 器] (第23図13、第19表)

打製石斧1点を図示した。



第23図 162号住居跡出土遺物（1／3）

神岡番号 図版番号	出土位置	器種 類別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第23図1 図版13-1-1	平野	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	外反する胴部	断面三角形の隆帯/隆帯脇に半載竹管状工 具の押しきによる2列の角押文列が沿う	明褐色/砂粒・ 礫・雲母中量	阿玉台Ⅱ式
第23図2 図版13-1-2	平野	深鉢	把手 破片	厚 1.5	円環状把手の一部か	肥厚する外面周縁部に角押文が斜位に施文	にぶい褐色/砂 粒・礫少量	勝版2~3式
第23図3 図版13-1-3	覆土	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	やや内湾	隆帯による区画文/隆帯脇には幅広爪形文 列と幅狭角押文による波状文列が沿う/区 画内は無文	明褐色/砂粒・ 礫中量	勝版2式
第23図4 図版13-1-4	P5東側 床面直上	深鉢	胴部上位 破片	厚 1.4	ほぼ垂直に立ち上る 胴部/外反する口 縁部/円筒形か	幅広爪形文が付された幅広の隆帯によっ て口縁部と胴部を画する/断面三角形の太い 隆帯による楕円区画文/隆帯脇に半載線が 2本沿い、区画内は無文	暗赤褐色/砂粒 ・礫中量	勝版3式
第23図5 図版13-1-5	南側 覆土中層	深鉢	胴部 破片	厚 1.4	やや外傾する胴部/ バケツ形か	隆帯による楕円区画/隆帯脇に半載線が2 本沿う/区画内には縦位沈線列が充填	にぶい赤褐色/ 砂粒・礫多量	勝版3式
第23図6 図版13-1-6	南壁際 覆土上層	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.0	僅かに内湾しながら 外傾	押し文が付された隆帯による区画文/隆帯 脇には半載線や押し文が沿う/区画内は 半載線による渦巻文や三文文	にぶい赤褐色/ 砂粒多量、礫 少量	勝版3式
第23図7 図版13-1-7	南側 覆土上層	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		口縁上端に沈線が沿う/地文は半距L縦位 施文	にぶい黄褐色/ 砂粒・礫少量	加曾利E式
第23図8 図版13-1-8	南壁際 覆土中層	深鉢	胴部 破片	厚 1.4		隆帯による垂下文/沈線間に矢羽状の沈線 文列/施文順序は隆帯貼付→沈線文列	橙/砂粒・礫 多量	曾利式

第17表 162号住居跡出土土器一覽

神岡番号 図版番号	出土位置	器種 類別	遺存状態	長さ/幅/厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 型式
第23図9 図版13-1-9	南壁際 覆土上層	土器片断	90%	5.7/[6.9]/1.2	82	方形/挾部2ヶ所確認/摩耗痕未発達/浅鉢口 縁部破片使用/押し文が付された隆帯による区 画文/隆帯脇に半載線/区画内は沈線による渦 巻文	明赤褐色/砂粒 多量、礫中量	勝版3式
第23図10 図版13-1-10	覆土	土器片断	80%	7.0/[7.9]/1.2	85	楕円形/挾部2ヶ所確認/摩耗痕顕著/深鉢胴 部上位破片使用/押し文が付された隆帯による 区画文/隆帯脇に平行沈線が沿い、区画内は 沈線文列が充填	にぶい褐色/砂 粒・礫中量	勝版3式
第23図11 図版13-1-11	南壁際 覆土上層	土器片断	70%	5.3/[5.0]/1.0	34	方形/挾部1ヶ所確認/摩耗痕一部顕著/深鉢 胴部破片使用か/無文	橙/砂粒中量	勝版式
第23図12 図版13-1-12	南壁際 覆土上層	土器片断	50%	3.8/[6.6]/1.4	44	楕円形/挾部2ヶ所確認/摩耗痕顕著/深鉢胴 部破片使用/半載竹管状工具腹部押しによる区 画文?/空白部に縦位沈線列や懸糸L縦位施文	赤褐色/砂粒中 量	勝版3式

第18表 162号住居跡出土土製品一覽

神岡番号 図版番号	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第23図13 図版13-1-13	南側 覆土上層	打製石斧	ホルンフェルス	129.8	35.7	17.6	164.1	楕形/平面形はやや湾曲/基部を僅かに欠損する /126Y粘土から出土した上半部と162J覆土出土 の下半部が接合/楕長剥片素材か

第19表 162号住居跡出土土器一覽

## (2) 土 坑

### 271号土坑

**遺 構** (第24図)

**[位 置]** (B-2) グリッド/②地点

**[検出状況]** 北側部分は区画整理第25Ⅱ地点で検出している。今回の調査では、南側を検出した。

**[構 造]** 平面形：円形。東側底面にピット状の掘り込みがある。規模：長径1.32m/短径1.15m/深さ39cm。ピット状の掘り込み部は52cm。壁：50～60°で立ち上がる。長軸方位：N-80°-W。

**[覆 土]** 褐色土を基調とする。

**[遺 物]** ②地点の調査では、中期中葉の土器片9点173gが出土した。

**[時 期]** 中期中葉(勝坂1式期)

**遺 物** (第27図、第20表)

**[土 器]** (第27図1～10、第20表)

破片資料10点を図示した。その内、1～9は区画整理第25Ⅱ地点報告(第3表№23)資料の再掲であり、10が第172②地点出土資料である。1～4は阿玉台式土器、5～9は勝坂式土器、10は浅鉢形土器の底部片である。

### 613号土坑

**遺 構** (第24図)

**[位 置]** (C・D-4) グリッド/②・④地点

**[検出状況]** 北側は②地点、南側は④地点の検出である。②地点において、158Jの一部として掘り下げた後、平面形と土層断面から別遺構と判断した。そのため、北側の平面形は捉えきれていない。158Jを切る。

**[構 造]** 平面形：楕円形か。規模：長径約1.6m/短径1.3m/深さ約35cm。壁：急斜に立ち上がる。長軸方位：N-50°-E。

**[覆 土]** ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調とする。

**[遺 物]** 覆土下～中層にかけて土器片が出土した。土器は15点232g、石器は剥片1点が出土した。

**[時 期]** 中期後葉(加曾利E式期)

**遺 物** (第28図、第20・21表)

**[土 器]** (第28図1～4、第20表)

破片資料4点を図示した。1～2は勝坂式で、3は曾利系、4は連弧文か。

**[土 製 品]** (第28図5、第21表)

5は土器片錘である。中期土器片を転用している。

### 614号土坑

**遺 構** (第24図)

**[位 置]** (D-6) グリッド/④地点

**[検出状況]** 遺構周辺は旧道による削平を受けているため、Ⅲ層下位での検出である。全体を検出した。

**[構 造]** 平面形：楕円形。規模：長径0.9m/短径0.6m/深さ21cm。壁：緩やかに立ち上がり、

断面は皿状。長軸方位：N-12°-E。

[覆 土] ローム粒子を含み、ローム少ブロックを僅かに含む暗茶褐色土を基調とする。

[遺 物] 遺物は出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、縄文時代の所産と考えられる。

### 615号土坑

**遺 構** (第24図)

[位 置] (B・C-2) グリッド/①地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時、Ⅱ層中に確認した。北側は調査区外。617 Dを切る。

[構 造] 平面形：隅丸長方形。規模：長径不明/短径1.60m/深さ35cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-10°-W。

[覆 土] 上層はローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む暗茶褐色土を基調とし、下層はローム粒子・ローム少ブロックをやや多く含み、橙色粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺 物] 覆土中～上層から多数の土器片と石器・礫が出土した。中期中葉から後葉の土器205点2,738g出土した。石器は4点(打製石斧2点、礫2点)出土した。

[時 期] 中期中葉～後葉(勝坂式～加曾利E式期)

**遺 物** (第29図、第20・22表)

[土 器] (第29図1～8、第20表)

8点を図示した。1～2は阿玉台式である。3～5は勝坂式で、3は有孔鏝付土器の口縁部片である。6は加曾利E式の底部片。7は口縁部に重弧文を持つ曾利式である。8は条線地文の連弧文である。

[石 器] (第29図9・10、第22表)

2点図示した。9・10は打製石斧で、9は基部片で、10は未製品の可能性がある。

### 616号土坑

**遺 構** (第24図)

[位 置] (C-1) グリッド/①地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時、Ⅱ層中に確認した。東側は調査区域外である。619 Dと接しているが、切合いは確認できなかった。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長径不明/短径1.20m/深さ42cm。ビット状の掘り込み部分は深さ46cm。壁：60°程の角度で立ち上がる。

[覆 土] 上層から下層にかけて、ローム粒子・ローム少ブロック・橙色粒子・炭化物粒子を多く含む傾向にある。底面付近にはロームブロックの堆積が確認できた。

[遺 物] 土器片が37点514g出土した。石器は黒曜石製の剥片1点が出土している。

[時 期] 中期中葉～後葉(勝坂式～加曾利E式期)

**遺 物** (第30図、第20表)

[土 器] (第30図1・2、第20表)

1は勝坂3式、2は加曾利E3式。

### 617号土坑

**遺構** (第24図)

**位置** (B-2) グリッド/①地点

**検出状況** 表土剥ぎ後の遺構確認作業時、II層中に確認した。北側は調査区外。615 Dに切られる。

**構造** 平面形：円形か。規模：径1.32 m/深さ61 cm。壁：70°程の角度で立ち上がる。

**覆土** ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調とする。

**遺物** 土器片が30点418 g出土した。また、多数の礫が出土した。

**時期** 中期中葉(阿玉台式/勝坂式期)。

**遺物** (第31図、第20表)

**土器** (第31図1~4、第20表)

破片資料4点を図示した。1・2は阿玉台式で、2は指頭圧痕が確認できる。3・4は勝坂式である。

### 618号土坑

**遺構** (第25図)

**位置** (C-1) グリッド/①地点

**検出状況** 表土剥ぎ後の遺構確認作業時、II層中に確認した。遺構全体を検出した。

**構造** 平面形：隅丸長方形。規模：長径1.34 m/短径1.13 m/深さ17 cm。壁：50°程の角度で立ち上がる。長軸方位：N-55°-W。

**覆土** ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調とし、壁際はローム粒子・ローム少ブロックを多く含む暗黄褐色土が堆積する。

**遺物** 土器片30点331 gが出土した。また、多数の礫が出土した。

**時期** 中期中葉~後葉(勝坂式~加曾利E式期)

**遺物** (第32図、第20表)

**土器** (第32図1・2、第20表)

1・2は勝坂式で、隆帯脇に半截竹管状工具の腹面引きによる並行沈線や押圧文が治う。

### 619号土坑

**遺構** (第25図)

**位置** (C-1) グリッド/①地点

**検出状況** 表土剥ぎ後の遺構確認作業時、II層中に確認した。南東側は攪乱を受けている。北東側で616 Dと接するが、切合いは確認できなかった。遺構全体を検出した。

**構造** 平面形：円形か。規模：径約1 m/深さ31 cm。壁：50°程で立ち上がる。

**覆土** ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調とする。

**遺物** 縄文時代中期の土器片16点1.095 g、石器3点(剥片1点、楔形石器1点、磨製石斧1点)、礫が出土した。

**時期** 中期中葉(勝坂3式期/阿玉台IV式期)

**遺物** (第33図、第20・22表)

〔土器〕(第33図1～4、第20表)

1・2は勝坂式である。1は眼鏡状把手を持つ大形の破片。3・4は阿玉台式で、断面カマボコ状の隆帯脇に単沈線が沿う。

〔石器〕(第33図5・6、第22表)

2点図示した。5は楔形石器、6は磨製石斧である。

## 620号土坑

〔遺構〕(第25図)

〔位置〕(C-4)グリッド/③・④地点

〔検出状況〕表土剥ぎ後の遺構確認作業時、II層中に確認した。遺構全体を検出した。

〔構造〕平面形：ほぼ円形。擦鉢状を呈する。規模：径1.3m/深さ47cm。壁：50°程の角度で立ち上がる。

〔覆土〕ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む明茶褐色土を基調とし、壁際や底面付近はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土が堆積する。

〔遺物〕出土しなかった。

〔時期〕覆土の観察から縄文時代の所産と考えられる。

## 621号土坑

〔遺構〕(第25図)

〔位置〕(C-2)グリッド/①地点

〔検出状況〕表土剥ぎ後の遺構確認作業時、II層中に確認した。遺構全体を検出した。

〔構造〕平面形：楕円形。規模：長径1.35m/短径1.00m/深さ25cm。壁：緩やかに立ち上がり、断面は皿状。長軸方位：N-20°-W。

〔覆土〕ローム粒子・ローム小ブロックを含む明茶褐色土を基調とする。

〔遺物〕中央付近を中心に土器片が12点1,220g出土した。石器は剥片が1点出土した。

〔時期〕中期中葉(勝坂3式期)

〔遺物〕(第34図、第20表)

〔土器〕(第34図1～5、第20表)

1は阿玉台式の胴部破片で、ヒダ状丘痕文が横位に巡る。2～5は勝坂式。4・5は燃糸L縦位施文を地文とし、眼鏡状把手を持つ。同一個体か。

## 622号土坑

〔遺構〕(第25図)

〔位置〕(C-2)グリッド/①地点

〔検出状況〕表土剥ぎ後の遺構確認作業時、II層中に確認した。遺構全体を検出した。624 Dを切る。東側の一部を攪乱に壊される。

〔構造〕平面形：円形。坑底面は平坦。規模：長径1.45m/短径1.33m/深さ35cm。壁：50～60°で立ち上がる。長軸方位：N-80°-W。

[覆 土] ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・橙色粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調とする。

[遺 物] 土坑中央部の覆土中層を中心に縄文時代中期の土器片が145点4.375 g出土した。

[時 期] 中期中葉（勝坂3式期）

[遺 物]（第35図、第20表）

[土 器]（第35図1～17、第20表）

1・2は阿玉台式。1はやや太めの隆帯脇に幅広爪形文が沿う。3～17は勝坂式で、矢羽状刺突や押圧文が付された隆帯脇に単沈線が沿うものが主体となる。17は有孔罅付土器の口縁部破片。

### 623号土坑

[遺 構]（第25図）

[位 置]（C-2）グリッド①地点

[検出状況] 34方精査後に確認した。北側は調査区外。34方と626 Dに切られ、遺存状態は悪い。

[構 造] 平面形：隅丸方形か。規模：不明/深さ32 cm。

[覆 土] ローム粒子・ローム少ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む明茶褐色土を基調とし、底面付近はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 626 Dに切られることから縄文時代中期以前の所産と考えられる。

### 624号土坑

[遺 構]（第26図）

[位 置]（C-2）グリッド①地点

[検出状況] 34方精査後に確認した。34方・622 D・627 Dに切られる。遺構全体を検出した。

[構 造] 平面形：円形か。坑底面は平坦。壁：65°で立ち上がる。規模：径約1.25 m/深さ39 cm。

[覆 土] 上層はローム粒子・ローム少ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗～明茶褐色土を基調とし、壁や底面付近はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺 物] 土器片24点353 g、石器8点（石鏃1点、剥片5点、敲石1点、磨石1点）が出土した。また、34方・622 D・627 Dに切られており、遺物の出土は西側に偏在する。

[時 期] 中期中葉（勝坂式期）か。覆土の観察では627 Dに切られるため勝坂1式以前と考えられるが、出土遺物は627 Dより新しい。

[遺 物]（第36図、第20・22表）

[土 器]（第36図1・2、第20表）

1・2は勝坂3式。

[石 器]（第36図3～5、第22表）

3はチャート製の石鏃、4は磨製石斧の破片、5は敲石。

### 625号土坑

[遺 構]（第21図）



[位置] (A-4) グリッド/③地点

[検出状況] 161 J の床面下から検出した。161 J に切られる。162 J との切合いは不明。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長径0.9m/短径0.7m/161 J 床面からの深さ6~11cm。長軸方位：N-15°-W。

[覆土] ローム粒子・ローム小ブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 161 J に切られることから、加曾利 E 3 式期以前の所産と考えられる。

## 626号土坑

**遺構** (第26図)

[位置] (C-2) グリッド/①地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時、II層中に確認した。遺構全体を検出した。623 D を切る。

[構造] 平面形：ほぼ円形。規模：径約1.0m/深さ35cm。中央付近のピット状の部分は深さ48cm。壁：70°程の角度で立ち上がる。

[覆土] 上層はローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む明茶褐色土を基調とし、壁際や底面付近はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む傾向にある。

[遺物] 縄文時代中期の土器片24点319g、石器2点(石鏃1点、磨石1点)が出土した。

[時期] 中期中葉~後葉(勝坂式~加曾利 E 式期)

**遺物** (第37図、第20・22表)

[土器] (第37図1~4、第20表)

1は阿玉台式、2・3は勝坂3式、4は連弧文。

[石器] (第37図5・6、第22表)

5は黒曜石製の石鏃。6は砂岩製の磨石。

## 627号土坑

**遺構** (第26図)

[位置] (C-2) グリッド/①地点

[検出状況] 遺構確認作業時、II層中に確認した。624 D を切り、34方に切られる。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：長径1.25m/短径0.8m/深さ22cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-20°-E。

[覆土] 上層はローム粒子をやや多く含む明茶褐色土と基調とし、下層はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調とする。覆土全体に炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。

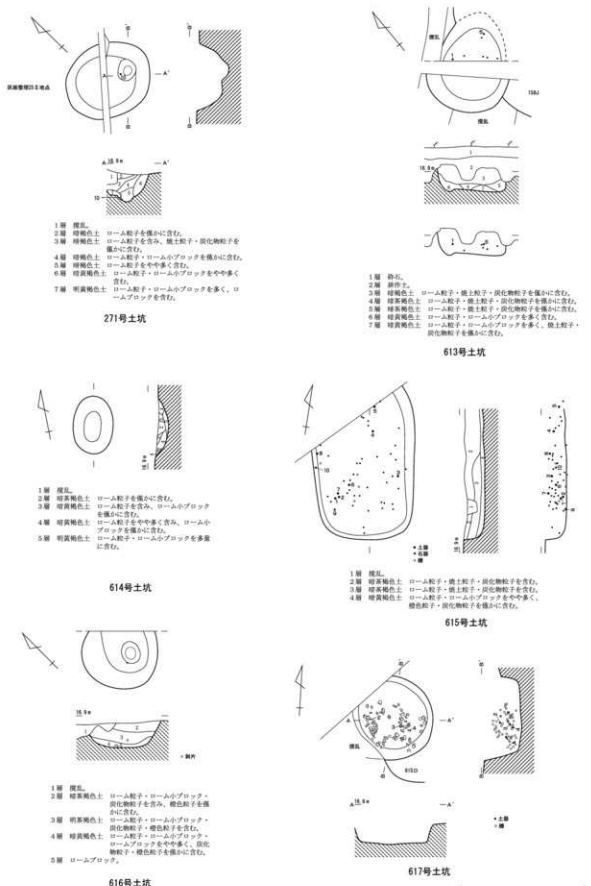
[遺物] 縄文時代中期の土器が46点689g出土した。石器は剥片1点が出土した。

[時期] 中期中葉(勝坂1式期)

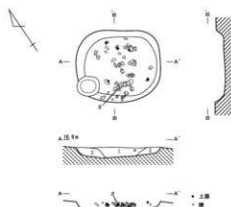
**遺物** (第38図、第20表)

[土器] (第38図1~6、第20表)

1は阿玉台式の扇状把手部。2~5は勝坂式。6は加曾利 E 3~4式。

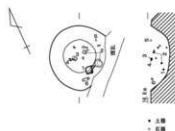


第24図 土坑1 (1/60)

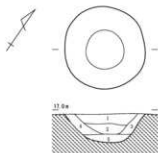


- 1層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を豊富に含む。
- 2層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。

618号土坑

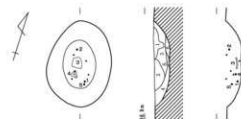


619号土坑



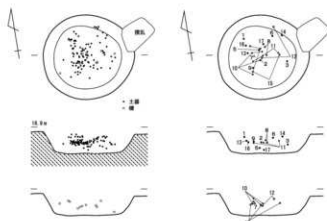
- 1層 明茶褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を豊富に含む。
- 2層 明茶褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を豊富に含む。
- 3層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を豊富に含む。
- 4層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を豊富に含む。
- 5層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を豊富に含む。

620号土坑

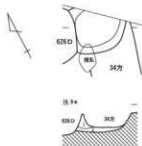


- 1層 覆土
- 2層 暗黒褐色土 ローム粒子・粘土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を豊富に含む。
- 4層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 5層 暗黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
- 6層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。

621号土坑



622号土坑

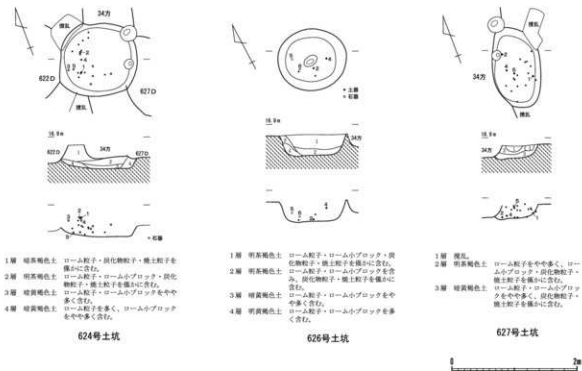


- 1層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・粘土粒子を豊富に含む。
- 2層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を豊富に含む。

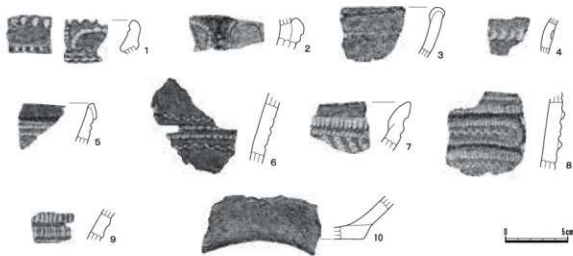
623号土坑



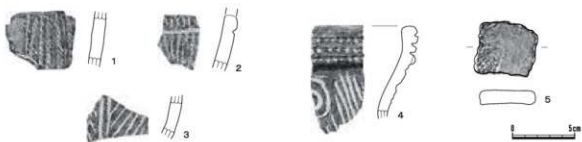
第25図 土坑2 (1/60)



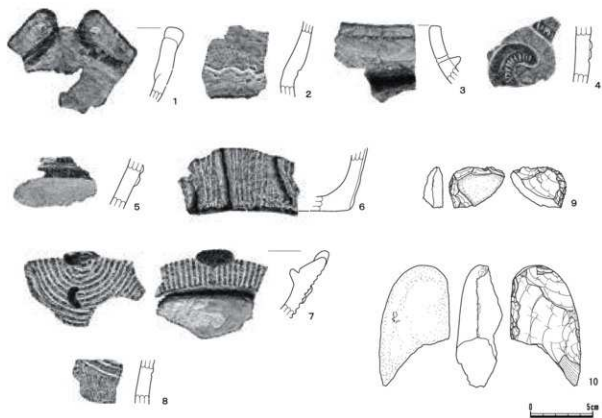
第26図 土坑3 (1/60)



第27図 271号土坑出土遺物 (1/3)



第28図 613号土坑出土遺物 (1/3)



第29図 615号土坑出土遺物 (1/3)



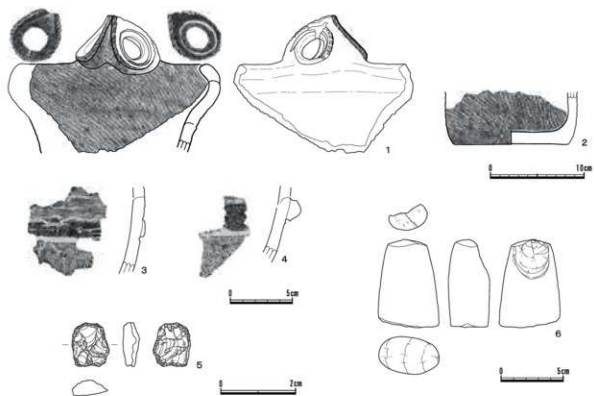
第30図 616号土坑出土遺物 (1/3)



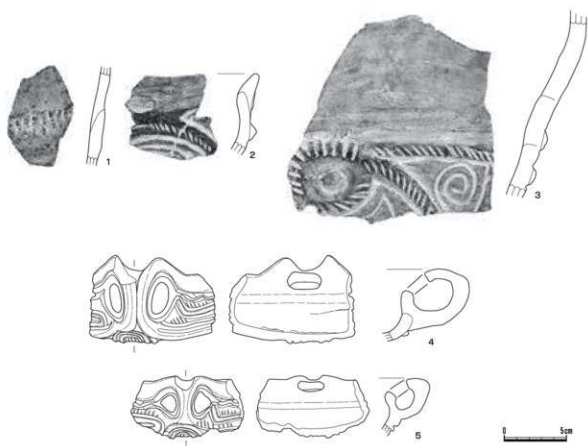
第31図 617号土坑出土遺物 (1/3)



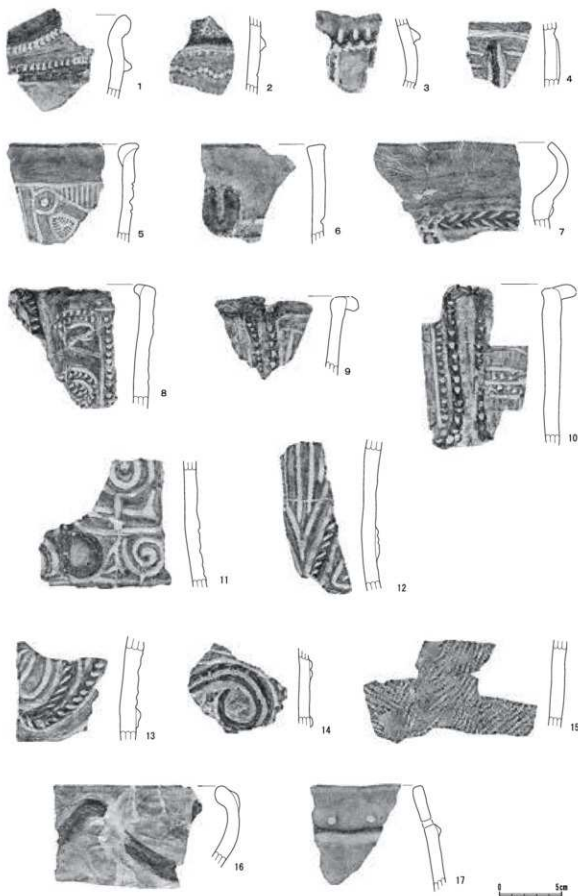
第32図 618号土坑出土遺物 (1/3)



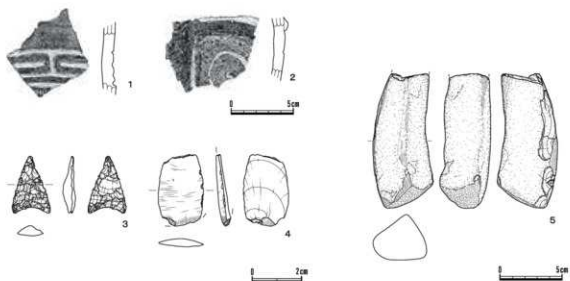
第33図 619号土坑出土遺物 (1/4・1/3・1/1)



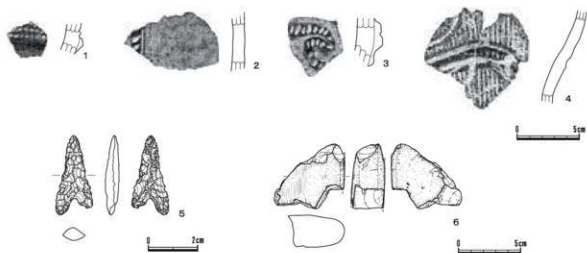
第34図 621号土坑出土遺物 (1/3)



第35図 622号土坑出土遺物(1/3)



第36図 624号土坑出土遺物 (1/3・2/3)



第37図 626号土坑出土遺物 (1/3・2/3)



第38図 627号土坑出土遺物 (1/3)



神岡番号 図版番号	出土位置	器種 類別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 式
第27図1 図版13-2-1	271D	深鉢	把手 破片	厚 1.0	扇形把手の一部	把手の縁辺部に押文が付される／縁辺に沿って1列の押引文が沿う	明褐色／砂粒・ 礫少量、雲母 微量	阿玉台1b ～II式
第27図2 図版13-2-2	271D	深鉢	胴部 破片	厚 0.7		断面三角形の隆帯が垂下／隆帯には1列の結節沈線文や、複列の結節沈線文が沿う	暗褐色／砂粒・ 礫少量	阿玉台II式
第27図3 図版13-2-3	271D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	やや内湾しながら広がる口縁部／肥厚する口唇部	無文	暗褐色／砂粒・ 礫・雲母中量	阿玉台1b ～II式
第27図4 図版13-2-4	271D	深鉢	胴部 破片	厚 0.6	外反する胴部	爪形文が横位に施文	暗褐色／砂粒・ 礫・雲母中量	阿玉台1b ～II式
第27図5 図版13-2-5	271D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	僅かに内湾する口縁部／口唇部は外面で肥厚	口唇部直下に先丸ペン先状工具の押し印による角押文列が2列沿う	にぶい黄褐色／ 砂粒・礫少量	勝版1式
第27図6 図版13-2-6	271D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		先丸ペン先状工具の押し印による角押文列が2列沿う、その上下に波状結節沈線が沿う	にぶい黄褐色／ 砂粒・礫少量	勝版1式
第27図7 図版13-2-7	271D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾する口縁部／外積する口唇部	口唇部直下に幅広い押文と三角押文が沿い区画文を形成／区画文内には三角押文列が充填される	暗褐色／砂粒多 量、礫・雲母少 量	勝版1式
第27図8 図版13-2-8	271D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1		隆帯による楕円区画文／隆帯脇には幅広い押文が沿う／区画文内には先丸の三角押文が波状に施される	暗赤褐色／砂粒 多量	勝版1式
第27図9 図版13-2-9	271D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		幅広い押文と幅狭角押文が沿う	暗褐色／砂粒・ 礫微量	勝版1式
第27図10 図版13-2-10	271D	浅鉢	底部 破片	厚 0.9	広がりながら立ち上がる	無文	暗褐色／砂粒・ 礫・雲母中量	阿玉台1～ II式
第28図1 図版13-3-1	613D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		やや幅広い三角押文列が縦位施文／断面十字状の沈線による曲線文を確認できる	にぶい褐色／砂 粒少量、礫中量	勝版1式
第28図2 図版13-3-2	613D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		背の低い隆帯脇に単沈線が沿う／胴部に0.3cm斜位施文	明赤褐色／砂粒 ・礫多量	勝版3式
第28図3 図版13-3-3	613D	深鉢	胴部 破片	厚 0.8		単沈線2本が垂下／沈線間は無文／地文として単沈線斜位施文／施文順序は垂文→地文	暗褐色／砂粒・ 礫中量	加曾利E3式
第28図4 図版13-3-4	613D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	頸部付近からやや内湾しながら広がる／口唇部は平滑	口縁部上端に棒状工具の刺突列が3条並ぶ／口縁部に断面山形の隆帯が沿る／隆帯以下は単沈線による渦巻文と斜位沈線文列が施文	にぶい褐色／砂 粒・礫中量	速直文・ 曾利式か
第29図1 図版13-4-1	615D	浅鉢	口縁部 破片	厚 0.7	内湾して広がる口縁部／波状口縁／口唇部内面上端で幅広く肥厚	口唇部に隆帯が環状に貼付され、波頂部高端で突起を形成する／無文	にぶい黄褐色／ 砂粒・礫・雲 母少量	阿玉台式
第29図2 図版13-4-2	615D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾して広がる口縁部	口縁部下位に波状沈線	暗褐色多量、 礫少量	中期中葉
第29図3 図版13-4-3	615D	有孔 蹄付	口縁部 破片	厚 1.0	胴部上位から口縁部にかけて内湾／蹄を持つ	口縁部下端に穿孔1ヶ所確認／口縁部下端に断面三角形の隆帯が沿る／蹄を形成する／蹄形成→穿孔	暗褐色多量、 礫微量	勝版式
第29図4 図版13-4-4	615D	深鉢	胴部 破片	厚 1.2		押印文の付された隆帯による渦巻文／隆帯脇には単沈線が沿う	にぶい黄褐色／ 砂粒・礫中量	勝版3式
第29図5 図版13-4-5	615D	深鉢	頸部 破片	厚 1.1	僅かに内湾しながら広がる頸部	頸部上端に隆帯2本が沿る	にぶい黄褐色／ 砂粒・礫中量	加曾利E1式
第29図6 図版13-4-6	615D	深鉢	底部 破片	厚 1.0	平坦な底部／僅かに内湾しながら広がる胴部下位	地文は悉く縦位施文／直上隆帯と波状隆帯が1本単位で交互に垂下／地文は底部下端まで施文	にぶい黄褐色／ 砂粒多量、礫 少量	加曾利E1式
第29図7 図版13-4-7	615D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	広がる口縁部／口唇部は内湾	半截竹管状工具の一端を重ねた側面引きによる重弧文／重弧文中心部の口唇部付近に隆帯による突起から波状隆帯が垂下する	明黄褐色／砂粒 ・礫中量	曾利II式古 重弧文系
第29図8 図版13-4-8	615D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや外反する胴部／頸部付近か	地文は条線縦位施文／沈線による縦線が2本確認できる	明黄褐色／砂粒 ・礫中量	速直文

第20表 土坑出土土器一覧(1)

## 第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第30図1 図版14-1-1	616D	深鉢	胴部 破片	厚 1.3		太い沈線による区画文	極細泥／砂粒・ 礫微量	勝版3式
第30図2 図版14-1-2	616D	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	やや外反する胴部	地文は無筋L縦位施文／太い沈線が垂下し、 磨り消しを伴う	泥／砂粒微量、 礫少量	加曾利E3式
第31図1 図版14-2-1	617D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部／肥厚して外積する口唇部	口唇部には切出工具の押し引きによる結節沈線が走る／口縁部上端には単沈線が2本沿う	暗赤褐／砂粒多量、礫・雲母少量	阿玉台1b式
第31図2 図版14-2-2	617D	深鉢	胴部 破片	厚 0.7		ヒダ状圧痕文が縦位に走る	暗赤褐／砂粒・ 礫・雲母中量	阿玉台1b式
第31図3 図版14-2-3	617D	深鉢	胴部 破片	厚 0.7		結節沈線による曲線文が描かれる	にぶい赤褐／ 砂粒・礫微量	勝版1式
第31図4 図版14-2-4	617D	深鉢	胴部 破片	厚 1.3		押圧文が付された隆帯脇に単沈線が沿い区画文を形成するか／区画文内は単沈線が充填	橙／砂粒中量、 礫少量	勝版3式
第32図1 図版14-3-1	618D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		半截竹管状工具の腹面引きによる区画文／区画に沿って爪形文からなる連単状文が施文される／区画内は無文	橙／砂粒中量、 礫少量	勝版2式
第32図2 図版14-3-2	618D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		半截竹管状工具の腹面引きによる区画文／区画に沿って爪形文／1と同一個体か	橙／砂粒中量、 礫少量	勝版2式
第33図1 図版14-4-1	619D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	広がりながら強く内湾する口縁部／取巻状把手が付く／口唇部内面で肥厚	口縁部に円環状隆帯3つからなる取巻状把手が付く／円環状隆帯上には押圧文や同径条RL施文が無文／口縁部・頸部には0段条RL横位施文のみ	赤褐／砂粒・ 礫・雲母中量	勝版3式
第33図2 図版14-4-2	619D	深鉢	底部 破片	底厚 1.4	平底／胴部下位は僅かに膨らみながら立ち上がる	単筋RL横位・斜位施文のみ／底部付近は無文	暗赤褐／砂粒・ 礫中量、雲母少量	勝版3式
第33図3 図版14-4-3	619D	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		背の低い隆帯貼付／隆帯脇に単沈線／隆帯より上位は単沈線による3本の波状沈線／柳状工具による条線が縦位に施文／	にぶい泥／砂粒中量、礫少量、雲母多量	阿玉台IV式か
第33図4 図版14-4-4	619D	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		断面三角形の太い隆帯が縦位に走る／隆帯脇に単沈線が沿う／地文に柳状工具による条線	にぶい泥／砂粒中量、礫少量、雲母多量	阿玉台IV式か
第34図1 図版14-5-1	621D	深鉢	胴部 破片	厚 0.8		ヒダ状圧痕文が縦位に走る	にぶい泥／砂粒中量、礫少量、雲母中量	阿玉台1b式
第34図2 図版14-5-2	621D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	やや内湾する口縁部／外積する口唇部	押圧文が付された隆帯による区画文／隆帯脇には単沈線が2本沿う／区画文は口縁部上端で小突起を形成する	明赤褐／砂粒多量・礫微量	勝版3式
第34図3 図版14-5-3	621D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	頸部で僅かに括れ、口縁部でやや内湾しながら広がる	口縁部無文／斜位に押圧文が付された隆帯による区画文と渦巻文／隆帯脇には単沈線が沿う／区画文内には単沈線による渦巻文が無文	明褐／砂粒中量、礫少量	勝版3式
第34図4 図版14-5-4	621D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	口縁部は内湾／口唇部は内外面で僅かに肥厚／口縁部上端に取巻状把手	口縁部上端に沈線が施された取巻状把手が付く／把手は内面も円環状を呈する／口縁部上端には交互刺突が溢り、把手上の沈線と接続／把手下部から横方向に隆帯が広がり区画文を形成／把手直下には隆帯による逆U字状文／隆帯脇には単沈線が沿う／地文は懸糸L縦位施文／621号土坑5と同一個体か	赤褐／砂粒・ 礫中量	勝版3式
第34図5 図版14-5-5	621D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	口縁部は内湾／口唇部は内外面で僅かに肥厚／口縁部上端にやや小形の取巻状把手	口縁部上端に沈線が施された取巻状把手が付く／把手は内面も円環状を呈する／口縁部上端には交互刺突が溢り、把手上の沈線と接続／把手直下には隆帯による逆U字状文／隆帯脇には単沈線が沿う／地文は懸糸L縦位施文／621号土坑4と同一個体か	赤褐／砂粒・ 礫中量	勝版3式

第20表 土坑出土土器一覧(2)

神奈川 図版番号	出土位置	器種 類別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第35図1 図版15-1-1	622D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	頸部で内湾/口縁部 で外反/波状口縁	断面が太い三角形を呈する隆帯による区画 文/区画文内の隆帯筋には幅広の爪形文が 沿う	黒褐/砂粒多 量・礫微量	阿玉台皿式
第35図2 図版15-1-2	622D	深鉢	頸部 破片	厚 0.8		断面カマボコ状の隆帯による区画文/隆帯 筋には幅広の角押文が沿う/空白部には持 圧文列が縦位に施される	明褐/砂粒中 量・礫微量	阿玉台皿式
第35図3 図版15-1-3	622D	深鉢	胴部下位 破片	厚 0.9	胴部下位から底部に かけてやや屈折する	交互刺突を施した隆帯により胴部と底部を 画する/胴部に半載竹管状工具腹面引きに よる並行沈線	褐/砂粒多量・ 礫少量	勝坂3式
第35図4 図版15-1-4	622D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		断面台形の隆帯による区画文/隆帯筋には 単沈線が沿う/区画文内には単沈線が横方 向に施される	褐/砂粒・礫 多量	勝坂3式
第35図5 図版15-1-5	622D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	僅かに内湾する同上 半部/口唇部で肥厚	口縁部は無文/同上半部沈線による区画文 /区画文内には内形文や押圧文・三叉文・ 半載竹管状工具の一端重ねた腹面引きに よる並行沈線文列が充填/内外面ともよく 磨かれる	黄褐/砂粒 ・礫微量/胎土 は密	勝坂3式
第35図6 図版15-1-6	622D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口唇部で僅かに断面 逆台形に肥厚する	口縁部無文/太い隆帯によるU地文貼付	にぶい黄褐/ 砂粒・礫中量	勝坂3式
第35図7 図版15-1-7	622D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部	口縁部無文/頸部には沈線による矢羽状文 が施された隆帯が沿る	褐/砂粒・礫 少量	勝坂3式
第35図8 図版15-1-8	622D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	胴上半部から口縁部 にかけてわずかに広 がる/口唇部内面で 断面三角形に肥厚	口縁部上端に押圧文が施された隆帯による 逆U字状文が垂下し、胴上半部で区画文を 形成/区画文内には沈線と押圧文による渦 巻き状文等が描かれる	褐/砂粒少量・ 礫微量	勝坂3式
第35図9 図版15-1-9	622D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1		口縁部上端に押圧文が施された隆帯による 逆U字状文が垂下し、胴上半部で区画文を 形成/区画文内には沈線施文	褐/砂粒少量・ 礫微量	勝坂3式
第35図10 図版15-1-10	622D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	胴部中位から口縁部 にかけてやや外反/ 口唇部は僅かに肥厚	口縁部上端から逆U字状の隆帯が垂下して 区画文を形成/隆帯上には押圧文/隆帯筋 の即効は甘く、部分的に単沈線や押圧文が 沿う	明赤褐/砂粒 ・礫少量	勝坂3式
第35図11 図版15-1-11	622D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや内傾する胴部/ 胴部で窄まるか	背の低い隆帯による円形文/単沈線による 渦巻文や三叉文が施される	明赤褐/砂粒 ・礫少量	勝坂3式
第35図12 図版15-1-12	622D	深鉢	胴部中位 破片	厚 1.1	やや外反する胴部/ 円筒形か	斜位に押圧文の付された隆帯による区画文 /隆帯筋には単沈線が2本沿う/区画文内 には縦位沈線文	にぶい黄褐/ 砂粒・礫多量	勝坂3式
第35図13 図版15-1-13	622D	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	やや外反する胴部/ 円筒形深鉢の胴部中 位か	斜位に押圧文の付された隆帯による区画文 /隆帯筋には単沈線が沿う/区画文内には 単沈線による曲線文	にぶい黄褐/ 砂粒・礫多量	勝坂3式
第35図14 図版15-1-14	622D	深鉢	胴部 破片	厚 0.8		地文無文/背新隆帯による渦巻文	明黄褐/砂粒 少量・礫多量	勝坂3式
第35図15 図版15-1-15	622D	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.1	僅かに広がりながら 立ち上がる	単節 RL 縦位施文を基調とし、部分的に斜 位・横位施文	赤褐/砂粒・ 礫微量	勝坂3式
第35図16 図版15-1-16	622D	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾する口縁部/口 唇部内面で断面カマ ボコ状に肥厚	無文の口縁部に背の低い隆帯による波状文 /隆帯上には赤色顔料が付着	明赤褐/砂粒 多量・礫少量	勝坂3式
第35図17 図版15-1-17	622D	有孔 罎付	口縁部 破片	厚 1.0	やや内傾する口縁部	無文の口縁部/背の低い断面三角形の隆帯 が通り、罎を形成/罎の直上に焼成前穿孔 2ヶ所確認/孔部間隔は約3cm	にぶい黄褐/ 砂粒・礫中量	勝坂3式
第36図1 図版15-2-1	624D	深鉢	頸部 破片	厚 0.9	口縁部はやや外反し て開く	口縁部は無文/頸部には沈線による方形区 画文	暗褐/砂粒・ 礫微量	勝坂3式
第36図2 図版15-2-2	624D	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		隆帯による区画文/隆帯筋には単沈線/区 画文内には沈線による渦巻文	極暗赤褐/砂 粒・礫少量	勝坂3式

第20表 土坑出土土器一覧(3)

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	出土位置	器種 類別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第37図1 図版15-3-1	626D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1		断面がやや丸みを帯びた三角形の隆帯が横位に施される／隆帯脇には2列の結節沈線文が沿う	粗／砂粒・礫少量、雲母微量	阿玉台日式
第37図2 図版15-3-2	626D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	僅かに内湾する	押圧文が付された隆帯が重下する	暗褐／砂粒・礫少量	勝版3式
第37図3 図版15-3-3	626D	深鉢	胴部 破片	厚 1.2		押圧文が付された隆帯による曲線文	粗／砂粒・礫中量	勝版3式
第37図4 図版15-3-4	626D	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	やや内湾しながら開く	地文は黒系R縦位施文／太い沈線による曲線文	粗／砂粒・礫少量	連弧文
第38図1 図版15-4-1	627D	深鉢	把手 破片	厚 1.0	扇形把手の一部	扇形把手の縁辺部に押圧文が付される／縁辺に沿って2列の押印文が沿う	明褐／砂粒・礫少量	阿玉台日式
第38図2 図版15-4-2	627D	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		隆帯による方形区画文／隆帯脇には竹管状工具背面押しきによる結節沈線文が2列沿う／区画文は無文	暗赤褐／砂粒・礫少量	勝版1式
第38図3 図版15-4-3	627D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		隆帯による区画文／隆帯脇には三角押文が沿う／区画文内には三角押文列が波状に施される	暗赤褐／砂粒・礫多量	勝版1式
第38図4 図版15-4-4	627D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	僅かに外積する／口唇部付近の破片か	隆帯による変形した三角形の区画文／隆帯脇にはやや変形した三角押文が沿う／区画文内には五柱三文列が強調される	暗赤褐／砂粒多量、礫微量	勝版1式
第38図5 図版15-4-5	627D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	外積する口縁部／口唇部は内屈する	無文／円筒形深鉢の口縁部か	暗赤褐／砂粒・礫少量	勝版3式
第38図6 図版15-4-6	627D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口唇部内屈	口唇部無文／地文は単筋RL縦位施文	粗／砂粒多量、礫少量	加曾利E3～4式

第20表 土坑出土土器一覽(4)

検出番号 図版番号	出土位置	種類	遺存状態	長さ／幅／厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 型式
第28図5 図版13-3-5	613D	土器片鉢	完形	5.1／4.5／0.8	30	方形／底部2ヶ所／摩耗並未発達／深鉢胴部文使用／単筋RL斜位施文	明赤褐／砂粒僅か、礫中量	中期

第21表 土坑出土土器製品一覽

検出番号 図版番号	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第29図9 図版13-4-9	615D	打製石斧	砂岩	31.4	47.7	12.6	19.6	基部片／断面を残す
第29図10 図版13-4-10	615D	打製石斧	砂岩	103.3	42.5	30.9	169.8	未製品の可能性あり
第33図5 図版14-4-5	619D	楔形石器	黒曜石	11.6	9.9	4.4	0.5	縁辺部に微細刺痕
第33図6 図版14-4-6	619D	磨製石斧	凝灰岩	70.9	47.8	30.4	187.3	基部端に面あり／基部のみ
第36図3 図版15-2-3	624D	石鏝	チャート	22.6	15.2	5.0	0.9	完形
第36図4 図版15-2-4	624D	剥片	凝灰岩	28.4	18.0	5.8	2.4	磨製石斧刃部片か
第36図5 図版15-2-5	624D	蔽石	ホルンフェルス	106.7	48.0	40.6	245.8	一部欠損／端部・側縁部に僅かに蔽打痕
第37図5 図版15-3-5	626D	石鏝	黒曜石	31.5	14.7	5.5	1.4	完形／側縁刺痕か／底部折損後に再調整か
第37図6 図版15-3-6	626D	磨石	砂岩	51.4	56.0	26.8	79.4	破片／正面中央部に光沢をもつ磨面／素材は板状か

第22表 土坑出土石器一覽

## (3) ピット (第39・40図、第23・24表)

調査区全体から、柱穴22本を検出した。出土遺物や覆土の観察から、全て縄文時代の所産と考えられる。遺構は第39図と第23表に、遺物は第40図と第24表に示した。

遺構名	グリッド	長軸	短軸	深さ	形態	検出状況	出土遺物	時期
1P	3-C	40	38	130	円形	Ⅱ層中	土器：加曾利E1式 (2点26g) / 中期 (3点18g)	加曾利E1式期
2P	3-B	37	35	23	円形	Ⅱ層中	土器：阿玉台1式 (1点18g) / 中期 (1点2g)	阿玉台式期
3P	2-B	38	32	42	円形	Ⅱ層中	土器：中期 (4点41g)	中期
4P	3-C	34	34	36	円形	Ⅱ層中	土器：加曾利E式 (1点40g) / 連弧文 (1点20g)	加曾利E式期
5P	3-B	41	40	22	円形	Ⅱ層中	なし	不明
6P	2-C	26	26	44	円形	624Dに切られる	なし	不明
7P	6-D	37	18	76	円形	Ⅱ層中	土器：阿玉台 (1点14g) / 加曾利E3 (1点65g) / 中期 (1点38g)	中期
8P	4-D	不明	28	38	円形	158Jを切る	なし	勝坂3式期以降
9P	4-D	不明	31	28	円形	Ⅱ層中	土器：加曾利E1式 (1点10g) / 加曾利E3 (2点154g) / 中期 (4点27g)	加曾利E3式期
10P	5-D	36	33	30	円形	Ⅱ層中	土器：中期 (2点40g)	中期
11P	4-C	35	34	36	円形	Ⅱ層中	なし	不明
12P	3-B	28	27	38	円形	564Yに切られる	なし	不明
13P	5-C	46	46	37	円形	Ⅱ層中	土器：阿玉台Ⅱ式 (1点73g) / 中期 (3点8g)	阿玉台式期
14P	5-B	不明	34	46	円形	Ⅱ層中	なし	不明
15P	5-C	32	29	47	円形	Ⅱ層中	なし	不明
16P	5-B	37	18	46	円形	160Jを切る	土器：阿玉台1式 (1点14g) / 阿玉台式 (1点7g) / 中期 (4点37g) 石器：剥片1点	中期後葉 (加曾利E1式期以降)
17P	3-A	42	38	41	円形	Ⅱ層中	土器：勝坂1式 (1点13g) / 中期 (4点24g)	勝坂式期
18P	4-B	41	41	29	円形	Ⅱ層中	なし	不明
19P	4-B	34	34	32	円形	Ⅱ層中	なし	不明
20P	4-B	34	28	23	円形	Ⅱ層中	なし	不明
21P	5-B	51	51	26	円形	Ⅱ層中	土器：加曾利E1式 (1点42g)	加曾利E1式期
22P	4-A	46	35	69	円形	Ⅱ層中	二次的剥離のあるホルンフェルス製の礫 (打製石斧未完成品か) 1点	不明

(単位：cm)

第23表 ピット一覧

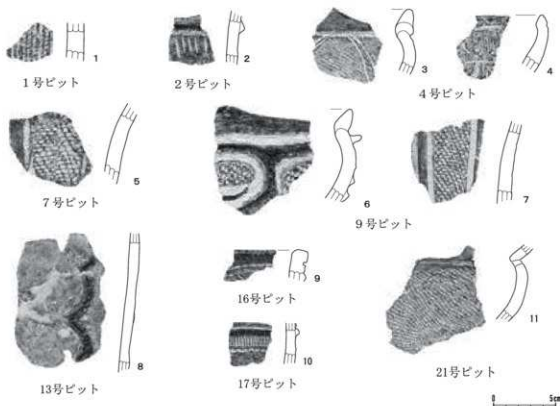
## (4) 遺物包含層 (第41・42図、第25・26表)

本地点では、②・③地点を中心に縄文時代中期の遺物包含層を確認した。ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む均質な暗黄褐色土を基調とする。層厚は10～17cm。④地点については、立川ロームⅢ層下位まで旧道による削平を受けており、遺物包含層を確認することはできなかった。

遺物は、土器190点3,376g、石器10点 (剥片5点、打製石斧2点、敲石1点、石核1点、礫1点) が出土した。そのうち、土器は14点 (第42図1～14)、石器は2点 (第42図15・16) を図示した。

②地点からの出土が多い傾向にあり、特に(C-3)グリッドにおいては深鉢形土器の復元個体2点(1・2)が密接して出土している。当該遺物については埋設土器や土坑などの遺構に伴うこと、また周辺の比較的密集した遺物出土状況からは住居跡の可能性も考えられる。しかし、明確な掘り込みや柱穴、炉跡等が確認できなかったことから、ここでは遺物包含層出土遺物として取り扱うことにした。

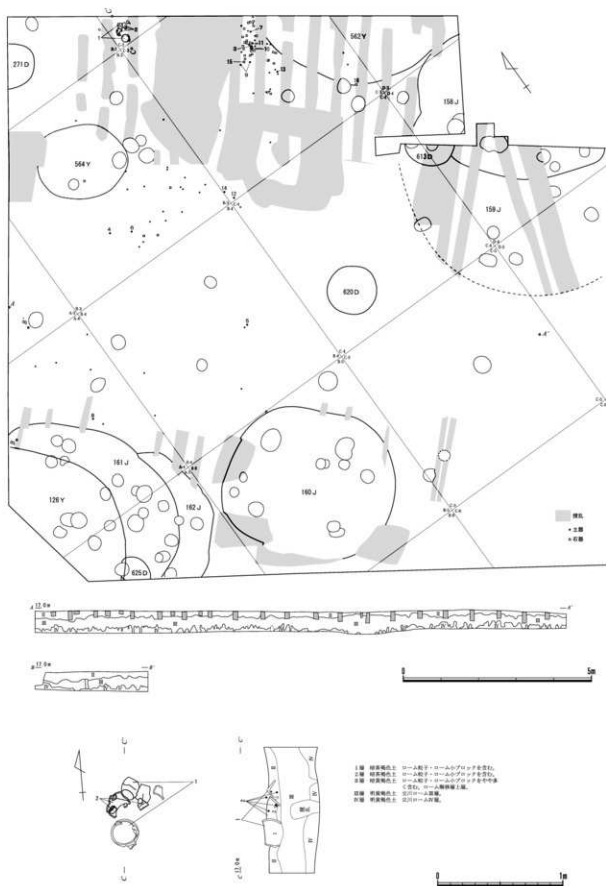




第40図 ビット出土遺物(1/3)

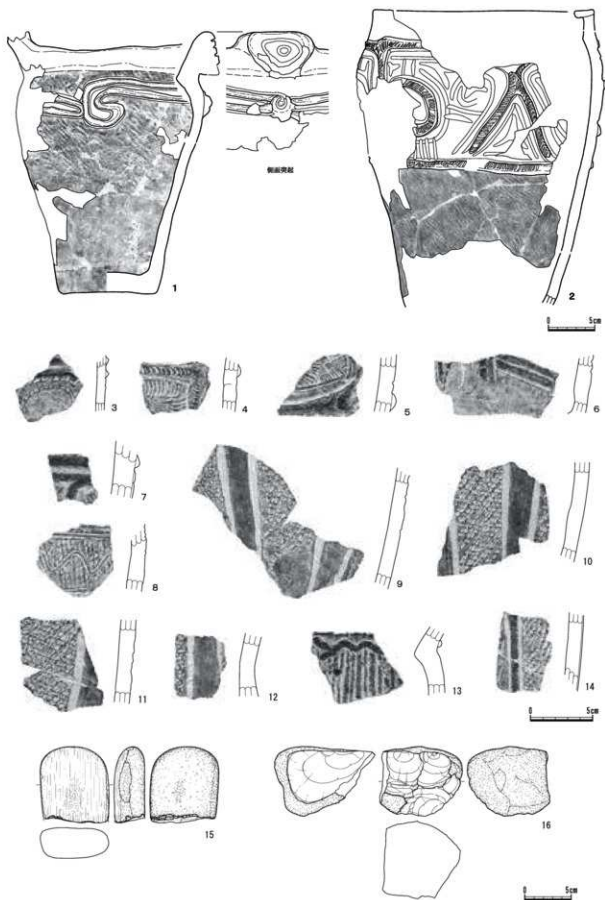
種別番号 図版番号	出土位置	器種 種別	部位 保存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第40図1 図版16-1-1	1P	深鉢	胴部 破片	厚 1.3		惣糸L縦位施文	赤褐/砂粒・ 礫微量	加曾利E1式 か
第40図2 図版16-1-2	2P	深鉢	胴部 破片	厚 0.8		断面三角形の隆帯が貼付/胴部に刻目が巡る	暗褐/砂粒・ 礫・雲母多量	阿玉台B式
第40図3 図版16-1-3	4P	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部内湾/口唇部 は外面で肥厚し、突起を形成するか	地文は単節RL横位施文/2本1対の単沈線による曲線文が垂下	暗褐/砂粒中量・ 礫微量	加曾利E式
第40図4 図版16-1-4	4P	深鉢	口縁部 破片	厚 1.3	内湾して広がる口縁部	地文は条線/口縁部上端に2本の沈線が巡る/部分的に曲線文が確認できる	にぶい黄橙/砂粒多量・ 礫微量	連弧文
第40図5 図版16-1-5	7P	深鉢	胴部上位 破片	厚 1.1	外反して広がる/頸部付近か	地文は単節LR縦位施文/2本1対の沈線が垂下し、沈線間は磨り消される	橙/砂粒・礫 少量	加曾利E3式
第40図6 図版16-1-6	9P	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	内湾する口縁部/口唇部は外面で肥厚し、突起を形成	地文は単節RL横位施文/断面カマボコ状の太い隆帯による渦巻文なし区画文	褐/砂粒・礫 微量	加曾利E3式
第40図7 図版16-1-7	9P	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外反する胴部	地文は単節LR縦位施文/磨消を伴う沈線中量	褐/砂粒・礫 少量	加曾利E3式
第40図8 図版16-1-8	13P	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	僅かに広がりながら直線的に立ち上がる	無文の胴部に断面三角形の波状隆帯が垂下	にぶい黄橙/砂粒・ 礫少量、礫中量	阿玉台B式
第40図9 図版19-1-9	16P	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口唇部は外面で僅かに肥厚	口唇部直下に結節沈線が1本治う	暗褐/砂粒・ 礫・雲母少量	阿玉台1b式
第40図10 図版19-1-10	17P	深鉢	胴部 破片	厚 0.8		隆帯脇に幅広い押文と波状沈線、半截竹筒状工具の磨面引きによる並行沈線が治う	褐/砂粒多量・ 礫微量	磨版2式
第40図11 図版19-1-11	21P	鉢	胴部 破片	厚 0.9	内湾する体部/外頸する口唇部	地文は単節RL横位施文/頸部位の破片両縁辺に焼成前と思われる穿孔を1ヶ所ずつ確認/160J第13図4と同一個体か	明黄褐/砂粒・ 礫少量	加曾利E1式

第24表 ビット出土土器一覧



第41図 包含層遺物出土状態 (1/100・1/30)





第42図 包含層出土遺物 (1/4・1/3)

検出番号 図版番号	出土位置	器種 類別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第42図1 図版16-2-1	C-2	深鉢	口縁部～ 底部 60%	高 27.7 口(23.4) 底厚 9.8 1.1	上げ底状を呈する底部からやや広がりがちながら立ち上がる。口縁部中位で膨らみ、口縁部上位で窄まる。口唇部は肥厚して外傾。把手が2ヶ所つく。	口唇部には同心円文が施された把手と円筒状把手が対称位置に配される。口縁部上位から胴部中位までは地文に刷線が間隔を持って縦文施される。口縁部には2本1対の隆帯によるS字状文が施される。S字状文は4単位か	暗赤褐/砂粒・礫少量	勝坂3b古～新式
第42図2 図版16-2-2	C-2	深鉢	口縁部～ 胴部下位 40%	高 32.0 口(23.4) 底厚 1.1	広がりながら立ち上がる胴部/胴部上位でやや膨らみ、口縁部で窄まる。口縁部上端で肥厚し、口唇部は内屈/バケツ形	押圧文の付された隆帯によって口縁部・胴部上位・胴部下位が画される。隆帯脇には単沈線が1本ないし2本沿う。口縁部は無文/胴部上位は隆帯による区画文が配され、区画文間は渦巻文や三叉文が充填される。胴部下位は単筋RLが間隔をもって縦文施される	暗赤褐/砂粒・礫少量	勝坂3b古～新式
第42図3 図版16-2-3	C-3	深鉢	胴部 破片	厚 0.6		断面三角形の隆帯/隆帯脇には半截竹管状工具の腹面引きによる結節沈線文が沿う	褐/砂粒・白 色礫・赤多量	阿玉台Ⅱ式
第42図4 図版16-2-4	B-3	深鉢	胴部下位 破片	厚 0.9	胴部下位で張り、やや窄まりながら立ち上がる	刻みが付された断面台形の隆帯/隆帯脇には沈線と角押文が沿う	褐/砂粒微量、 礫中量	勝坂2式
第42図5 図版16-2-5	B-4	深鉢	胴部 破片	厚 1.1		隆帯による区画文/隆帯脇には半截竹管状工具の腹面引きによる並行沈線と角押文が沿う。区画文内には波状沈線	褐/砂粒・礫 少量	勝坂2式
第42図6 図版16-2-6	B-3	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.2	広がりながら立ち上がる胴部/底部付近	隆帯による垂下文/隆帯脇には沈線2本が沿う。斜向の沈線が施文される	褐/砂粒中量、 礫微量	勝坂3式
第42図7 図版16-2-7	C-3	深鉢	胴部上位 破片	厚 1.6	頸部付近か/大形の深鉢か	地文は単筋RL/背の低い、断面コマボコ状の隆帯が2本並り、1本の波状隆帯が重下する	明褐/砂粒中 量、礫多量	加曾利E1式
第42図8 図版16-2-8	A-4	深鉢	胴部 破片	厚 1.2		地文は単筋L縦位施文/半截竹管状工具の腹面引きにより、上下を区画し区画内に波状文	明黄褐/砂粒 中量、礫微量	加曾利E1式
第42図9 図版16-2-9	C-3	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.1	広がりながら立ち上がる胴部	地文は複筋RLR縦位施文/2本1対の沈線が垂下/沈線間は磨消される	にぶい黄褐/ 砂粒・礫中量	加曾利E3式
第42図10 図版16-2-10	C-3	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	広がりながら立ち上がる胴部	地文は複筋RLR縦位施文/2本1対の沈線が垂下/沈線間は磨消される	にぶい黄褐/ 砂粒・礫中量	加曾利E3式
第42図11 図版16-2-11	C-3	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	広がりながら立ち上がる胴部	地文は複筋RLR縦位施文/2本1対の沈線が垂下/沈線間は磨消される	にぶい黄褐/ 砂粒・礫中量	加曾利E3式
第42図12 図版16-2-12	C-3	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	外反する胴部	地文は地筋LRL縦位施文/太い沈線が2本1対で重下し、沈線間は磨消し	暗褐/砂粒中 量、礫少量	加曾利E3式
第42図13 図版16-2-13	C-3	深鉢	胴部 破片	厚 1.4	頸部で括れ、口縁部で膨らむ	口縁部には半截竹管状工具の腹面引きが一處を帯び刷線状に施され、波状隆帯が重下する。頸部には波状隆帯が沿う	暗褐/砂粒中 量、礫少量	曾利Ⅱ式
第42図14 図版16-2-14	C-3	深鉢	胴部 破片	厚 1.1		地文は単筋RL縦位施文/背の低い隆帯が垂下/隆帯脇には沈線でおさえられる	赤褐/砂粒中 量、礫微量	中期後葉

第25表 包含層出土土器一覽

検出番号 図版番号	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第42図15 図版16-2-15	C-3	磁石	砂岩	80.8	73.2	33.0	308.1	表裏面中央・側縁部に僅かに縦打痕/磨面あり
第42図16 図版16-2-16	C-3	石核	ホルンフェルス	73.9	106.2	87.6	763.4	上下方向からの剥離あり

第26表 包含層出土土器一覽

## 第2節 弥生時代後期～古墳時代前期

### (1) 概要

#### 126号住居跡

**遺構** (第43図)

**位置** (A-4・5) グリッド/③地点。

**検出状況** 161・162 J、625 Dを切る。本住居跡は、西原特定土地区画整理事業に伴う第7 V・25 II地点において、住居南端部を除き調査が実施されているため、ここでは統合して報告する。

**構造** 平面形：隅丸長方形。規模：長軸不明/短軸6.55 m/深さ36～48 cm。壁：70°前後の角度で立ち上がる。壁溝：上幅16～26 cm・下幅4～8 cm・深さ3～6 cm。床面：平坦で遺存状態は良好である。北コーナーの一部に硬化面が確認できた。貼床は5～12 cmの厚さで施されていた。炉：住居中央からやや北東壁寄りに位置する。形態は粘土板炉であるが、掘り込みを伴うものである。粘土板は細かく粉々になった状態であったが、長軸45 cm×短軸35 cmの楕円形を呈し、厚さは2～5 cmである。掘り込みは長軸72 cm×不明・深さ12 cmの楕円形を呈する。長軸方位はN-45°-E。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：今回新たに東コーナーの1本(P1)が検出されたため、主柱穴は合計3本(P1～P3)となる。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

**覆土** 9層に分層できた。

**遺物** 土器が床面及び覆土中から比較的多く出土した。

**時期** 古墳時代前期初頭。

**遺物** (第44・45図、第27表)

**土器** (第44・45図1～28、第27表)

1・12は高環形土器、2～7・13～17は甕形土器、18・19は鉢形土器あるいは台付鉢形土器、8～11・20～28は壺形土器である。既報告(第3表No.23)資料は、第27表中に旧挿図番号を併記した。

#### 562号住居跡

**遺構** (第46図)

**位置** (C・D-3) グリッド/①地点。

**検出状況** 耕作により大部分が壊されており、住居の壁の一部と断片的な床面しか確認できなかった。

**構造** 平面形：不明。規模：不明/深さ7～14 cm。壁溝：検出されなかった。床面：全体に軟弱であり、貼床の堆積は確認できなかった。

**覆土** 3層に分層できた。

**遺物** 土器小破片が僅かに出土した。図示できたのは甕形土器2点であった。

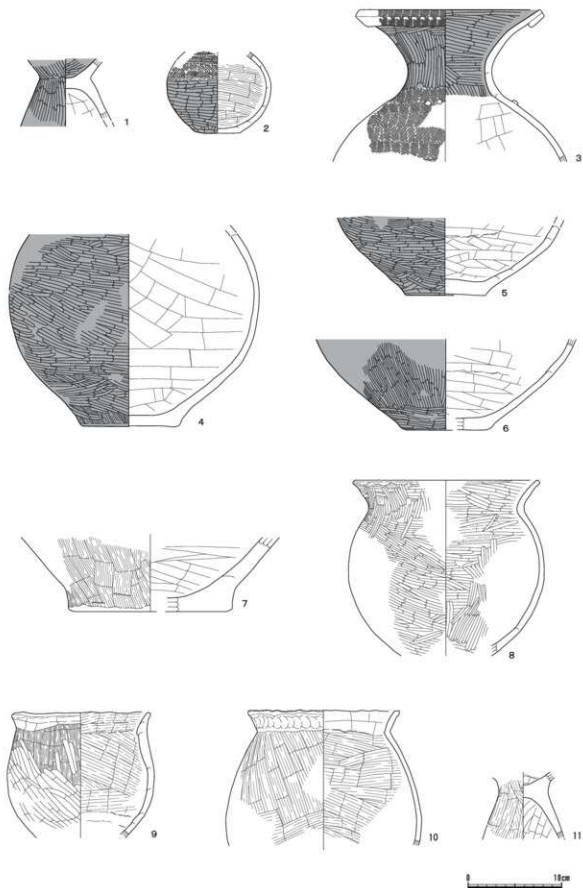
**時期** 弥生時代後期～古墳時代前期初頭。

**遺物** (第46図、第28表)

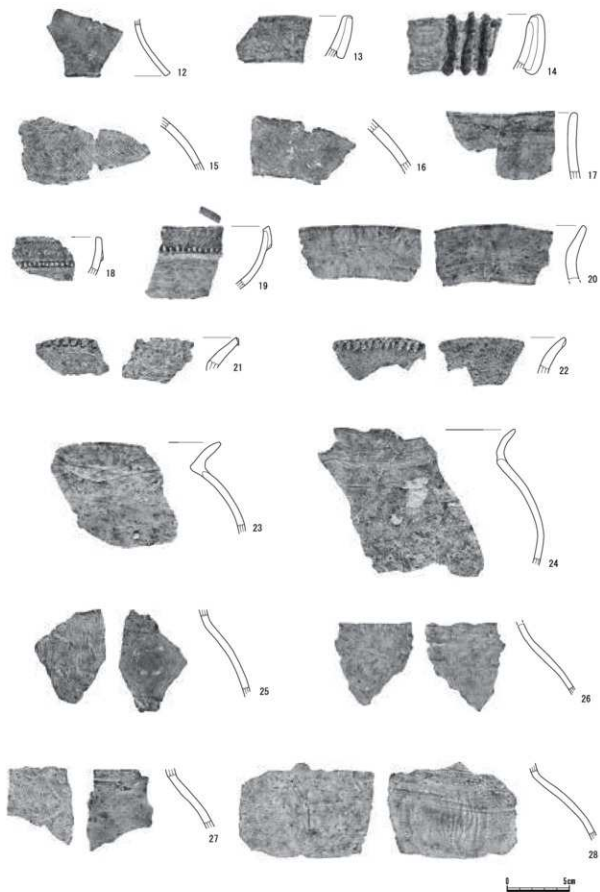
**土器** (第46図1・2、第28表)

1・2は甕形土器である。





第44图 126号住居跡出土遺物1 (1/4)



第45図 126号住居跡出土遺物2 (1/3)

標記番号 (旧標記番号)	器種	器高	口径	底径	特徴	色調	胎土	調整	出土位置	遺存度
第44図1 (第144図4)	高坏	[7.7]	—	—	高坏の脚台部/器形は「ハ」の字状/脚台部内面を除き赤彩	胎土は明黄褐色を基調	黄褐色粒子を多く含む	内面：坏部はヘラ磨き調整。脚台部はヘラナデ/外面：全面ヘラ磨き調整	区画第25Ⅱ126Y出土	胴部下半～脚台部70%
第44図2 (第144図1)	甕	[8.6]	—	4.6	小型甕/文様帯は胴部上半に2帯あり/文様は2段の無筋斜織文により上下羽状構成をとり、その後上下3本の直線基筋の文を区画/外面無文は赤彩	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子・橙色粒子をやや多く含む	内面：横方向のハケ目調整/外面：無文は横方向のヘラ磨き調整	区画第25Ⅱ126Y出土	胴部上半～底部90%
第44図3	甕	[16.1]	(19.0)	—	幅状の複合口縁/口縁部文様：口唇部と複合部外面に乱準斜織文/胴部文様：直線基筋を伴う準斜織文による不規則な上下羽状構成。2個一単位の円形貼付文、円形赤彩文/内面口唇部及び外面無文は赤彩	胎土は明黄褐色	黄褐色・茶褐色粒子・砂粒を多く含む	内面：口唇部は横方向のヘラ磨き調整、下部は縦方向、胴部はヘラナデ/外面：胴部及び胴部文様帯直下の無文部はヘラ磨き調整	住居東コーナーの覆土中(床上20～31cm)から散在的	口縁部～胴部上半30%
第44図4	甕	[20.4]	—	10.4	最大径は胴部中位にもつ/平底/外面赤彩	胎土は淡黄褐色	黄褐色粒子・砂粒・小石を含む	内面：ヘラナデ/外面：ヘラ磨き調整/胴部下半にはハケ目痕が残る	P1 すぐ西側の覆土中(床上8～26cm)	胴部上半～底部60%
第44図5	甕	[8.2]	—	(8.3)	底部は平底であるが、中央が窪み気味/接合部の粘土上端にハケ目痕あり/外面赤彩	胎土は明茶褐色	橙色粒子・砂粒・小石をやや多く含む	内面：ヘラナデ(軽いハケナデ?) /外面：ヘラ磨き調整	P1 北西側の床面上	胴部下半～底部100%
第44図6	甕	[9.7]	—	(9.4)	平底/外面赤彩/1と同一個体の可能性あり	胎土は明黄褐色	黄褐色・茶褐色粒子・砂粒をやや多く含む	内面：ヘラナデ/外面：ていねいなヘラ磨き調整/外面のハケ目痕が目立たない	住居東コーナーの覆土中(床上10～11cm)から散在的	胴部下半～底部20%未満
第44図7	甕	[8.3]	—	17.2	超大型甕/平底/底部中央が窪み気味/外面赤彩の可能性あり	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子を多く含む	内面：指痕によるナデ/外面：縦方向のハケ目調整	区画第25Ⅱ10方・126Yの遺構間接合	胴部下半～底部70%
第44図8 (第145図26)	甕	[18.6]	(19.6)	—	口縁部は「く」の字状/口唇部に刻みなし/胴部中位に最大径をもつ	淡茶褐色	黄褐色粒子・茶褐色粒子・砂粒を含む	内外面：ていねいなヘラ磨き調整。部分的にハケ目痕が残る/ハケ目痕は外面口唇部にやや目立つ	区画第7V126Y出土	口縁部～胴部下半20%以下
第44図9 (第144図2)	甕	[13.2]	(14.8)	—	小型甕/全体的に器厚が厚く重量感がある/最大径は胴部中位にもつ/口唇部は短く外反する/口唇部は平坦/外面赤彩の可能性あり	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子を多く含む	内面：横ナデ、以下は粗い目のハケ目調整/外面：口縁部は横ナデ、以下は縦方向のハケ目調整後胴部中位以下に斜方向の粗いヘラ磨き調整	区画第7V126Y出土	口縁部～胴部下半40%
第44図10 (第144図3)	甕	[14.3]	(16.0)	—	最大径は胴部中位にもつ/「く」の字状/口唇部は作りが堅いように歪んでいるが、指痕により交互押除を表現している可能性あり	黒褐色	黄褐色粒子を多く含む	内面：口縁部はヘラナデ、以下は粗いハケ目調整/外面：口縁部は指痕押除による成形、胴部は斜方向の粗いハケ目調整	区画第7V126Y出土	口縁部～胴部下半20%
第44図11 (第144図5)	甕	[7.2]	—	—	高坏の脚台部/器形は「ハ」の字状	淡茶褐色～明茶褐色	橙色粒子・砂粒を含む	内面：ヘラナデ、脚台部は指痕によるナデ/外面：ヘラ磨き調整/外面：ハケ目調整	区画第25Ⅱ126Y出土	脚台部70%

(単位：cm)

第27表 126号住居跡出土土器一覧(1)

## 第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 (図録番号)	器種	器高	口径	底径	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第45図12	高环	[5.8]	—	—	脚台部／器形は「ハ」の字／底部は平坦	明茶褐色を基調／内部は灰褐色	砂粒をやや多く、角閃石を含む	内面ナデか／外面：縦方向のヘラ書き調整	住居東コーナーの床面上	脚台部破片
第45図13 (第145図23)	壺	[3.3]	—	—	幅広い複合口縁／複合部には単節斜織文を2段施し上下羽状構成をとる／円形赤彩文は等間隔に全周する可能性あり／口唇部～内面及び外面複合部下端以下は赤彩	胎土は淡黄褐色	砂粒をやや多く含む	口唇部及び内面：ハケ目調整後ヘラ書き調整	区画第25日126Y出土	口縁部破片
第45図14 (第145図22)	壺	[4.5]	—	—	幅広い複合口縁／外面複合部は無文で4本の棒状貼付文あり／口唇部及び内面は赤彩	胎土は淡黄褐色	黄褐色粒子・橙色粒子を含む	内面：ヘラ書き調整／外面：複合部は軽いナデ(ハケナデ?)	区画第25日126Y出土	口縁部破片
第45図15 (第145図27)	壺	—	—	—	胴部上半に文様帯あり／文様は端未結節文を伴う単節斜織文により上下羽状構成をとる／文様帯直下は赤彩	胎土は淡黄褐色	黄褐色粒子・褐鉄鉱?を含む、石英・角閃石を僅かに含む	内面：粗いヘラ書き調整／外面：文様帯直下はヘラ書き調整	区画第25日126Y出土	胴部上半破片
第45図16 (第145図28)	壺	—	—	—	胴部上半に文様帯あり／文様は端未結節文を伴う単節斜織文により上下羽状構成をとる／無文部は赤彩	胎土は淡茶褐色	黄褐色粒子・橙色粒子を含む	内面：粗いヘラ書き調整／外面：文様帯直下はヘラ書き調整	区画第7V126Y出土	胴部上半破片
第45図17	壺	[8.3]	—	—	鉢の可能性もあり／口縁部は内傾するため、一般的な壺の器形ではない／外面口縁部(幅2.5cm)及び内面は赤彩	胎土は淡茶褐色／内部は黒色	砂粒・小石を含む	内外面：横方向のヘラ書き調整	区画第25日126Y出 土③地点126Y履土接合	口縁部～胴部上半破片
第45図18 (第145図29)	鉢	[3.0]	—	—	口縁部は内湾する／複合口縁／複合部下端は布目圧痕文あり／口唇部はLR単節斜織文／複合部は単節斜織文を2段施し上下羽状構成をとる、その後円形赤彩文がまわる／内面及び外面無文部は赤彩	胎土は明茶褐色を基調	黄褐色粒子・橙色粒子を含む	内面：ハケ目調整後ヘラ書き調整／外面：無文部はヘラ書き調整	区画第7V126Y出土	口縁部小破片
第45図19 (第145図30)	鉢	[5.3]	—	—	口縁部は内湾／複合口縁／複合部下端は刻み目がまわる／口唇部はLR単節斜織文／複合部はLR単節斜織文を2段施し、その後円形赤彩文がまわる／内面及び外面無文部は赤彩	胎土は淡黄褐色	黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：ハケ目調整後ヘラ書き調整／外面：無文部はハケ目調整後ヘラ書き調整	区画第7V126Y出土	口縁部～体部破片
第45図20 (第145図31)	甕	[4.2]	—	—	口縁部はやや受口状／内面は赤彩か	胎土は淡黄褐色を基調	黄褐色粒子・橙色粒子をやや多く含む	内外面：ハケ目調整	区画第25日126Y出土	口縁部破片
第45図21 (第145図32)	甕	[3.0]	—	—	口縁部は外反する／口唇部はヘケ状工具による刻みあり	内面：明茶褐色／外面：黒色	黄褐色粒子・茶褐色粒子をやや多く含む	内外面：ハケ目調整	区画第25日126Y出土	口縁部破片

(単位：cm)

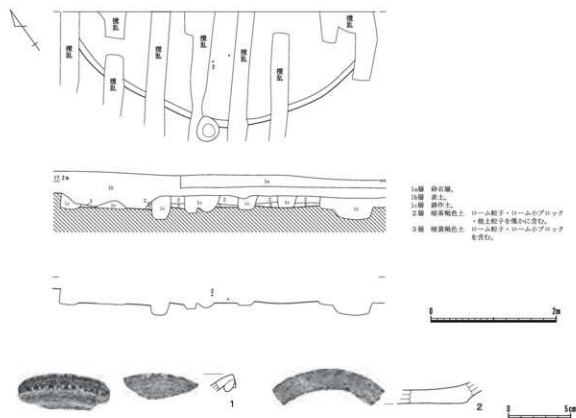
第27表 126号住居跡出土土器一覧(2)



標記番号 (住居図番号)	器種	器高	口径	底径	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第45図22	甕	[3.4]	—	—	口縁部は外反する/口唇部は面取り後外面にハケ状工具による刻みあり	内面：黒色/外面：黒褐色	白色粒子・褐色粒子を含む	内外面：ハケ目調整	住居東コーナーの履土中(床上15cm)	口縁部破片
第45図23 (第145図24)	甕	[7.4]	—	—	口縁部は短かく、大きく屈曲し、「く」の字状/口唇部は丸い	外面：黒色/内面：暗茶褐色	黄褐色粒子・茶褐色粒子・石英・角閃石を含む	内面：口縁部は横ナデ。以下はヘラナデ/外面：口縁部は横ナデ。以下は粗いヘラ磨き調整	区画第25Ⅱ126Y出土	口縁部～胴部上半破片
第45図24 (第145図25)	甕	[12.8]	—	—	口縁部は外反する/最大径は胴部中位にもつ	内面：黒色/外面：黒褐色	黄褐色粒子を多く含む	内面：口縁部は横ナデ。以下はヘラナデか/外面：口縁部は横ナデ	区画第25Ⅱ126Y出土	口縁部～胴部中位破片
第45図25 (第145図34)	甕	—	—	—	頸部がやややくびれている/最大径は胴部中位か	淡茶褐色	黄褐色粒子・茶褐色粒子・砂粒を含む	内面：頸部はハケ目調整。以下はヘラナデ/外面：ハケ目調整	区画第25Ⅱ126Y出土	頸部～胴部中位破片
第45図26 (第145図36)	甕	—	—	—	頸部がやややくびれている/最大径は胴部中位か	内面：黒色/外面：暗茶褐色	黄褐色粒子を多く含む	内面：頸部はハケ目調整。以下はヘラナデ/外面：ハケ目調整	区画第7V126Y出土	頸部～胴部中位破片
第45図27 (第145図33)	甕	—	—	—	頸部がやややくびれている/最大径は胴部中位か	内面：淡茶褐色/外面：黒色	黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：頸部はハケ目調整。以下はヘラナデ/外面：ハケ目調整	区画第7V126Y出土	頸部～胴部上半破片
第45図28 (第145図35)	甕	—	—	—	頸部がやややくびれている/最大径は胴部中位か	淡茶褐色	黄褐色粒子・粗鉄鉱を僅かに含む	内面：頸部はハケ目調整。以下はヘラナデ/外面：ハケ目調整	区画第7V126Y出土	頸部～胴部中位破片

(単位：cm)

第27表 126号住居跡出土土器一覽(3)



第46図 562号住居跡・出土遺物(1/60・1/3)

検出番号	器種	器高	口径	底径	特徴	色調	胎土	調整	出土位置	遺存度
第46図1	甕	[1.5]	—	—	幅狭の複合口縁／複合部には丸単節斜隅文／複合部下端に刻みあり	淡黄褐色	茶褐色粒子・砂粒をやや多く、小石を僅かに含む	内面：横方向のハケ目調整は横ナデ／外面：口縁部直下はナデ	住居南西コーナー付近の覆土中（床上4cm）	口縁部小破片
第46図2	甕	[1.7]	—	(9.0)	平底／外面赤彩	淡黄褐色	黄褐色粒子・砂粒をやや多く、小石を含む	内外面：へら書き調整	住居南西コーナー付近の覆土中（床上10cm）	底部のみ40%

(単位: cm)

第28表 562号住居跡出土土器一覧

## 563号住居跡

## 遺構 (第47図)

[位置] (D・E-5・6) グリッド/④地点。

[検出状況] 住居北西側の検出であり、南東側の大部分は調査区外にあるため詳細不明である。さらに調査区域内には旧道路と思われる南北方向に延びる掘乱域があり、本住居跡にもその一部がかかることから上層部分が削平されており、遺存状態は良くない。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：長軸/短軸5.0m/深さ8cm前後。壁溝：上幅12～16cm・下幅4～12cm・深さ5～12cm。床面：住居西コーナーで硬化面が確認できた。貼床は8～16cmの厚さで施されていた(18～21層)。炉：地床炉。セクションA-A'間で検出されたが大部分は調査区外にあるものと思われる。炉床は赤く被熱しているが掘り込みは僅かである。柱穴：主柱穴と思われる2本(P1・2)が検出された。深さはP1が57cm、P2は53cmである。

[覆土] 11層に分層できた。

[遺物] 土器小破片が僅かに出土した。図示できたのは甕形土器1点であった。

[時期] 弥生時代後期～古墳時代前期。

[所見] 床面上から炭化材が出土したことから、本住居跡は焼失住居と考えられる。

## 遺物 (第47図、第29表)

[土器] (第47図1、第29表)

甕形土器の口縁部小破片である。

## 564号住居跡

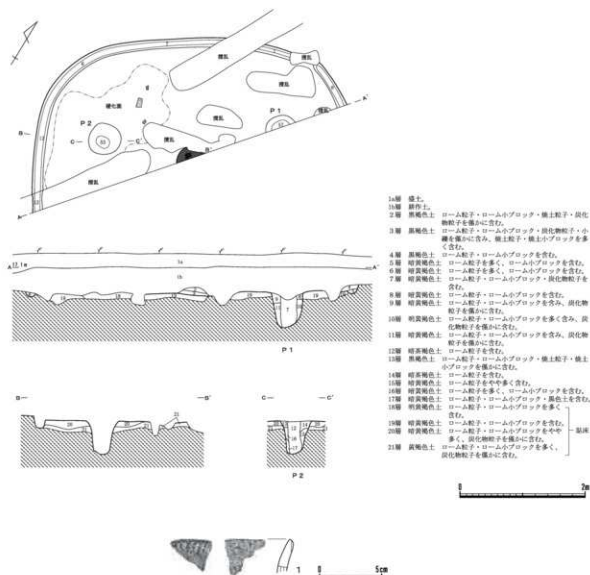
## 遺構 (第48図)

[位置] (B-3) グリッド/①・③地点。

[検出状況] 僅かに床面と思われる硬化面が確認できたことから、今回住居跡と判断した。そのため、ピットなどの付設施設の検出はできず詳細は不明である。また、床面までの掘り込みもほとんど確認できなかったが、貼床の土層(4層)が僅かに確認できたため、その範囲により住居跡の一部範囲として認識することにした。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸2.4m/短軸2.2m/掘り込みはほとんどなし。壁溝：検出されなかった。長軸方位：N-60°-W。床面：全体的に僅かに硬化している。貼床の厚さは5cm前後。

[覆土] 2層に分層できた。



第47図 563号住居跡・出土遺物（1/60・1/3）

縄文番号	器種	器高	口径	底径	特 徴	色 調	胎 土	調 整	出土位置	遺存度
第47図1	甕	—	—	—	口唇部外面は削り取り後ハケ状工具による刻み	全体に黒褐色を基調	白色粒子を多く含む	内外面ハケ目調整	貼床中	口縁部小破片

(単位：cm)

第29表 563号住居跡出土土器一覧

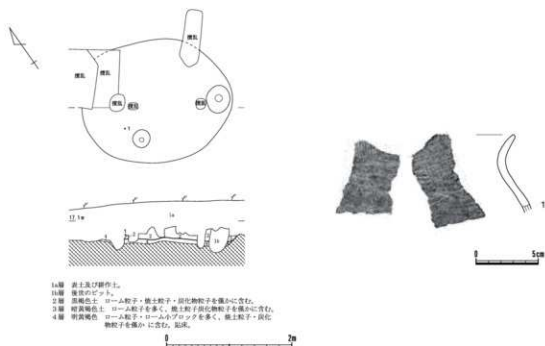
[遺 物] 土器小破片が僅かに出土した。図示できたのは甕形土器1点であった。

[時 期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

[遺 物] (第48図、第30表)

[土 器] (第48図1、第30表)

甕形土器の口縁部破片である。



第48図 564号住居跡・出土遺物（1/60・1/3）

検出番号	器種	器高	口径	底径	特徴	色調	胎土	調整	出土位置	遺存度
第48図1	甕	[5.7]	—	—	口唇部に刻みなし/胴部から口縁部の器形は屈曲せずスムーズに移行する。	暗茶褐色を基調	砂粒をやや多く、角閃石を僅かに含む	内面：口縁部はハケ目調整後粗いヘラ磨き調整。胴部はヘラナデ/外面：ハケ目調整後粗いヘラ磨き調整	甕土中	口縁部～胴部上半破片

(単位：cm)

第30表 564号住居跡出土土器一覧

## (2) 方形周溝墓

### 34号方形周溝墓

#### 遺構 (第49図)

[位置] (C-2・3) グリッド/①地点。

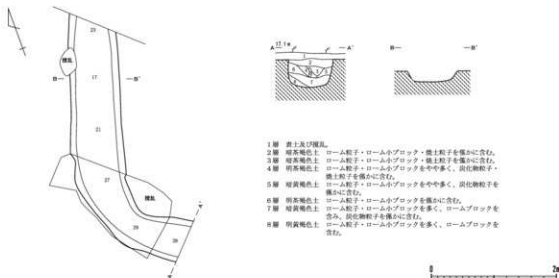
[検出状況] 623・624・627 D・6 Pを切る。調査区内で検出できたのは、西溝・南西コーナー・南溝の一部である。その他は調査区外となる。

[構造] 平面形：検出部分は「L」字状。規模：検出された範囲内では、西壁3.5m/南壁1.3m/深さ17～38cm。壁：断面形は扁平な逆台形を呈する。溝底面：ほぼ平坦で大きな起伏はない。

[覆土] 7層に分層できた。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 弥生時代後期～古墳時代前期。



第49図 34号方形周溝墓(1/60)

### 第3節 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、遺物包含層出土以外の遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

土器は2,614点40,809g、石器は23点出土した。縄文時代の遺物として、石器15点、土器70点、土器片鍾8点を図示した。中世以降の遺物として、かわらけ1点、砥石1点を図示した。

#### (1) 縄文時代の石器 (第50図1～12、第51図13～15、第31表)

1は黒曜石製の石核、2～8は打製石斧、9～11は剥片、12は磨製石斧、13は石皿、14は敲石、15は磨石である。

#### (2) 縄文時代の土器 (第51図16～32、第52図33～61、第53図62～76、第32表)

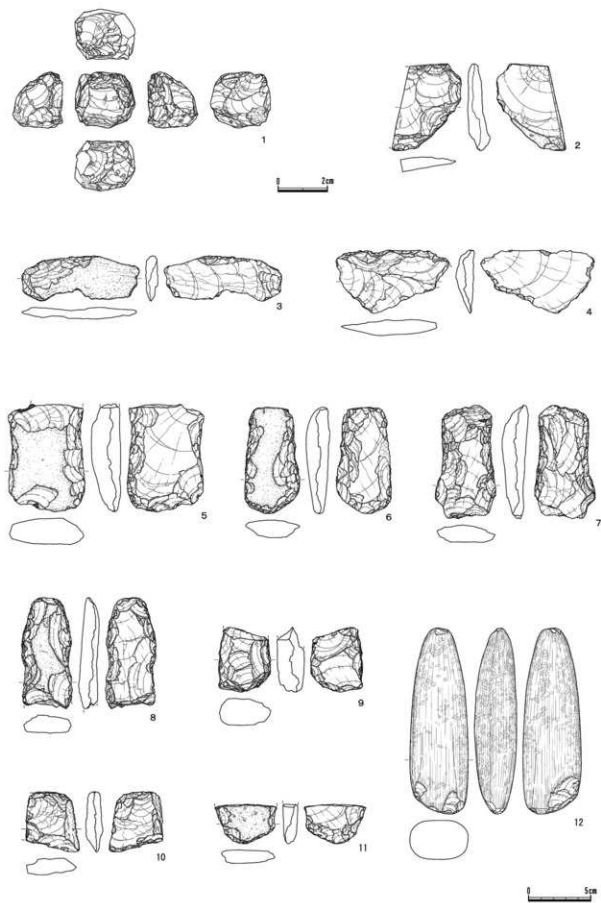
16～27は阿玉台式、28～45は勝坂式、46～59は加曾利E式、60～63は連弧文か、64～67は曾利式、68～72は浅鉢形土器、73・74は加曾利B式。75は勝坂3式の山形把手。76は勝坂2～3式の顔面把手である。

#### (3) 縄文時代の土製品 (第53図77～83、第33表)

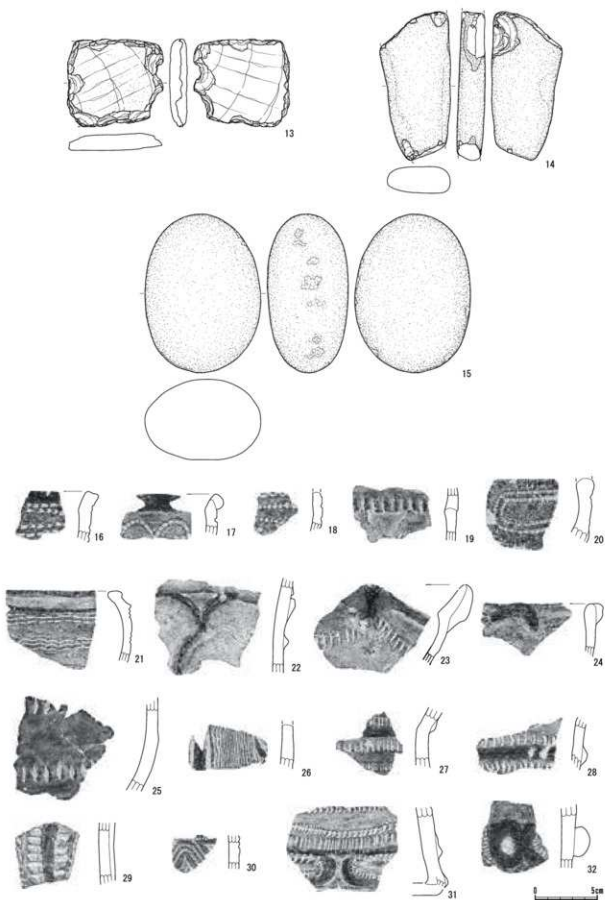
77～83は土器片鍾である。

#### (4) 中世以降の遺物 (第53図84・85、第32表84・第32表85)

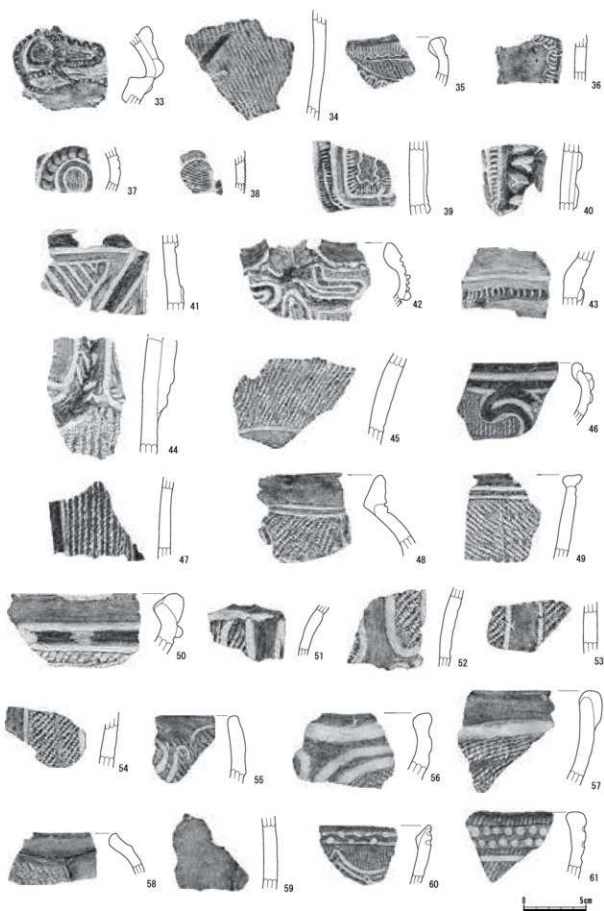
84はかわらけである。85は砥石である。



第50図 遺構外出土遺物1 (2/3・1/3)

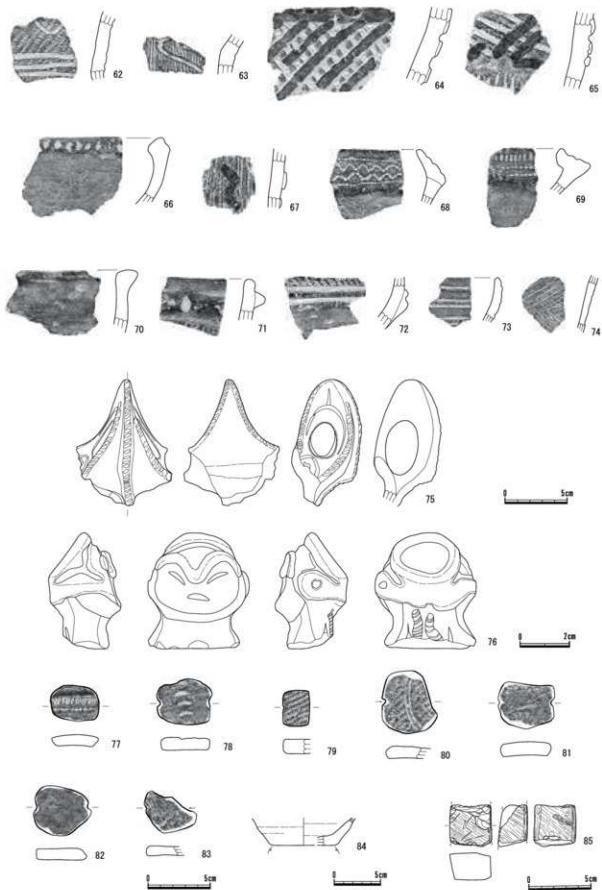


第51図 遺構外出土遺物2 (1/3)



第52図 遺構外出土遺物3 (1/3)





第53図 遺構外出土遺物4 (1/3・2/3・1/4)

## 第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号 図版番号	出土位置	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第50図1 図版18-5-1	③地点	石核	黒曜石	223	23.83	19.8	12.2	
第50図2 図版18-5-2	562Y	二次的剥離のある剥片	砂岩	68.9	54.9	17.9	44.4	節理面で折損／一部に礫面を残す／打製石片か
第50図3 図版18-5-3	③地点	剥片	片岩	35.9	93.26	9.7	30.7	打製石片か
第50図4 図版18-5-4	③地点	不規則剥離のある剥片	砂岩	50.1	90.2	14.8	52.2	
第50図5 図版18-5-5	③地点	打製石片	砂岩	85.4	61.01	23.3	162.2	やや大形／短冊形か／礫面を残す
第50図6 図版18-5-6	126Y	打製石片	砂岩	84.5	43.73	18.9	85.1	短冊形／完形／両側縁に敲打痕／礫面を残す
第50図7 図版18-5-7	126Y	打製石片	砂岩	89.9	48.03	20.9	88.8	短冊形／完形
第50図8 図版18-5-8	③④地点	打製石片	ホルンフェルス	88.1	40.27	16.2	69.5	短冊形／ほぼ完形／刃部を僅かに欠損
第50図9 図版19-9	563Y	打製石片	ホルンフェルス	51.2	41.35	21.7	60.1	刃部片か
第50図10 図版19-10	126Y	打製石片?	ホルンフェルス	47.7	42.63	13.6	30.1	基部片か／礫面を残す
第50図11 図版19-11	③地点	打製石片	砂岩	31.2	48.97	11.9	22.9	刃部片か／礫面を残す
第50図12 図版19-12	①地点	磨製石片	凝灰岩	147.5	46.26	33.5	367.2	乳棒状／刃部を僅かに欠損／上半部裏面に敲打痕
第51図13 図版19-13	①地点	石皿	結晶片岩	69.7	76.15	14.1	110.6	側縁に凹部痕跡
第51図14 図版19-14	563Y	砥石	安山岩	117.9	56.1	22.5	210.3	側縁部に敲打痕／両端部は欠損
第51図15 図版19-15	③地点	磨石	安山岩	126.0	92.02	64.4	1144.6	両面は未発達／両側部に僅かに敲打痕
第53図85 図版19-85	563Y	砥石	凝灰岩	33.1	33.4	23.4	37.8	側面表面顕著／中位以降

第31表 遺構外出土石器・石製品一覧

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 部別	部位 保存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第51図16 図版19-16	34方	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部／口 唇部はやや外反して 肥厚	口唇部の隆帯脇に半截竹管状工具の背面押 引きによる結節沈線が2本沿う	明褐色／砂粒・ 礫少量、雲母 中量	阿玉台1b式
第51図17 図版19-17	③地点 覆瓦	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部／口 唇部はやや外積	口縁部上端に断面カマボコ状の隆帯貼付／ 半截竹管状工具の背面押引きによる結節沈 線で逆U字状	暗褐色／砂粒少 量、礫中量、 雲母多量	阿玉台1b式
第51図18 図版19-18	①地点	深鉢	胴部 破片	厚 0.8		半截竹管状工具の背面押引きによる結節沈 線	褐／砂粒・礫 少量、雲母中 量	阿玉台1b式
第51図19 図版19-19	564Y	深鉢	頸部 破片	厚 0.7	僅かに膨らむ胴部／ 頸部内面に稜／口縁 やや外積	輪縁部にヒゲ状圧痕／重下丈と思われる隆 帯の前後痕確認	褐／砂粒・礫 少量、雲母中 量	阿玉台1b式
第51図20 図版19-20	①地点	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾する口縁部	背の低い隆帯による楕円区画文／隆帯上には 一部押圧文／隆帯脇は複列の結節沈線文 ／区画文内は無文／口唇部に複列の結節沈 線が繪文	褐／砂粒・礫 少量、雲母中 量	阿玉台II式
第51図21 図版19-21	126Y 貼床	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	内湾する口縁部／口 唇部肥厚	口縁部上端には断面三角形の隆帯が沿る／ 隆帯脇上側は抑えられ、下側は3列の結節 沈線文が沿う／口縁部下位には3列の波状 沈線	にぶい褐／砂粒・ 礫少量、雲母 多量	阿玉台II式
第51図22 図版19-22	③地点	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	胴部中位から上位に かけてやや外反	胴部上位に断面三角形の隆帯が貼付／やや 太めの隆帯によるV字状文／断面三角形の 隆帯が垂下／隆帯脇の処理はなし	にぶい褐／砂粒・ 礫少量、雲母 多量	阿玉台II式
第51図23 図版19-23	③地点	深鉢	口縁部 破片	厚 0.6	波状口縁を呈する／ 口縁部はやや肥厚し て外積／口唇部肥厚	波状口縁の波頂部に突起／突起下部から刻 目が横位に沿る	暗赤褐／砂粒 ・礫・雲母多 量	阿玉台II式

第32表 遺構外出土土器一覧(1)

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 類別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第51図24 図版19-24	34方	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	やや内湾する口縁部 /口唇部は平滑	口縁部上端に断面不定形の粘土による貼付文がナリ付けられる	暗赤/砂粒少量・ 礫中量	中期中葉 阿玉台Ⅰ式
第51図25 図版19-25	㉔地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや内湾する胴部	地文無文の体部に爪形文が横位に巡る	暗褐/砂粒・ 礫、雲母少量	阿玉台Ⅱ式
第51図26 図版19-26	126Y	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		断面カマボコ状の隆帯脇に比線が沿う/地文に条線が波状に施文	暗褐/砂粒・ 礫、雲母少量	阿玉台Ⅳ式
第51図27 図版19-27	①地点	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに確認される外 縁部は口縁部か	断面がやや丸みのある三角形を呈する隆帯 横位施文/隆帯脇には幅広い爪形文が沿う	にぶい赤褐/ 砂粒・白色礫 多量	阿玉台Ⅱ式
第51図28 図版19-28	㉔地点	深鉢	頸部 破片	厚 1.0	頸部で折れ、口縁部 で外反	頸部に断面カマボコ状の隆帯が巡る/隆帯 脇には幅広い角押文が沿う	灰褐/砂粒多 量、礫少量	勝板1式
第51図29 図版19-29	㉔地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに広がりながら 立ち上がる胴部	断面台形の幅広い隆帯が垂下/隆帯脇には幅 広角押文とベン先状刺突文が沿う	にぶい赤褐/ 砂粒多量、礫 少量	勝板1式
第51図30 図版19-30	564Y	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		3条の幅広い角押文による区画文/区画文内 に三角印刻文	暗褐/砂粒・ 礫微量	勝板1式
第51図31 図版19-31	126Y	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.1	底部下端で広がり、 やや窄まりながら立 ち上がる胴部	胴部下位を隆帯で画し、横帯区画文が配 される/隆帯脇には幅広い角押文と先端が変 形した角押文が沿う	にぶい黄褐/ 砂粒中量、礫 少量	勝板1式
第51図32 図版19-32	㉔地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.1		隆帯による縦線状突起が付く/隆帯脇には 幅広い角押文と三角押文が沿う	にぶい赤褐/ 砂粒多量、礫 中量	勝板1式
第52図33 図版19-33	564Y	鉢	口縁部 破片	厚 1.2		無文の体部/内面が凹部となる杓状の把手 が付く/把手の両縁部には押圧文や交互刺 突が施された隆帯により区画文を形成/隆 帯脇には単沈線やベン先状工具の押しきり が沿う	暗赤褐/砂粒 ・礫中量	勝板2式
第52図34 図版19-34	㉔地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		地文は単筋斜線施文/貼付される隆帯は ワラジムシ状文か/隆帯貼付+地文	赤褐/砂粒・ 礫少量	勝板2式
第52図35 図版19-35	126Y 貼味	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部/口 唇部は内外面で肥厚	隆帯脇に幅広い角押文と半円形刺突文、波状 沈線が沿う/区画内は沈線文列が充填	暗褐/砂粒・ 礫中量、雲母 微量	勝板2式
第52図36 図版19-36	①地点	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		幅広い角押文と半円形刺突文による区画文/ 区画内は無文	にぶい褐/砂 粒少量・礫中 量	勝板2式
第52図37 図版19-37	34方	深鉢	胴部上位 破片	厚 0.8	把手部か/内湾する	指部状圧痕が付された太く低い隆帯による 円形区画文/隆帯脇には半截竹管状工具の 腹面による並行沈線/区画内は沈線文列 が充填	にぶい赤褐/ 砂粒中量、礫 微量	勝板2式
第52図38 図版19-38	34方	深鉢	胴部上位 破片	厚 0.8	把手部か	爪形文列による区画文/区画内文は沈線文 列が充填/一部に交互刺突文確認	にぶい赤褐/ 砂粒中量、礫 微量	勝板2式
第52図39 図版19-39	126Y	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	ほぼ直立する胴部	角押文が付された隆帯による区画文/隆帯 脇には半截竹管状工具腹面引きによる並行 沈線、幅広い角押文、波状沈線が沿う/ベ ル文系か	明赤褐/砂粒 多量	勝板2式
第52図40 図版19-40	㉔地点	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	やや広がりながら立 ち上がる円筒形の胴 部	2本1対で垂下する隆帯間に波状隆帯を貼 付/隆帯間に2本の沈線が沿う/沈線間 には幅広い爪形文	明赤褐/砂粒 多量、礫微量	勝板3式
第52図41 図版19-41	①地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	ほぼ直立して立ち上 がる円筒形の胴部	断面カマボコ状の隆帯による区画文/隆帯 脇には単沈線2本引きによる並行沈線が沿 う/区画内は沈線文列が充填	黒褐/砂粒多 量、礫微量	勝板3式
第52図42 図版19-42	34方	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	内湾する口縁部、口 唇部内外面で肥厚/ 小形の縦線状把手が 付くか	地文に黒赤L縦位施文/口縁部上端には交 互刺突が巡る/隆帯による区画文/隆帯脇 には半截竹管状工具の腹面引きによる並行 沈線が沿う/622号土坑4・5と同一個体か	赤褐/砂粒・ 礫中量	勝板3式
第52図43 図版19-43	①地点	深鉢	頸部 破片	厚 1.1	やや広がりながら立 ち上がる胴部/口縁 部は内湾して広がる	押圧文を伴う隆帯が横位に巡り、口縁部と 胴部を画する/口縁部は無文/頸部に巡る 隆帯から隆帯が垂下	明黄褐/砂粒 多量、礫少量	勝板3式

第32表 遺構外出土土器一覧(2)

## 第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号 図版番号	出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第52図44 図版20-44	563Y 貼床	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	円筒形深鉢の胴部片 /上位でやや広がる	断面三角形の太い隆帯が垂下して区画文を 形成/隆帯上には矢羽状沈線/隆帯脇には 単沈線/区画文と微隆帯によって胴部上位 と下位を画する/胴部上位区画内は沈線 文/胴部下位は0段3条RL斜位無文/区画 文→地文	褐/砂粒・礫 少量	膳版3式
第52図45 図版20-45	③地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	外反して開く胴部上 位→口縁部付近の破 片か	地文に単筋RL縦位無文/沈線が横位に巡 り、沈線以下は地文磨消か	明赤褐/砂粒 少量、礫少量	膳版式
第52図46 図版20-46	①地点	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部/口 唇部内面で肥厚	地文は懸糸L縦位無文/口縁部上端に隆帯 1本が巡る/2本1対の隆帯によるS字状文 /S字状文も先端部は肥厚して小突起を形 成	明黄褐/砂粒 ・礫中量	加曾利E1式
第52図47 図版20-47	①地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに広がりながら 立ち上がる胴部	地文は粗い懸糸L縦位無文/断面コマゴロ 状の隆帯が垂下/隆帯脇には沈線でおさま られる	にぶい褐/砂 粒・礫少量	加曾利E1式
第52図48 図版20-48	126Y	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾する口縁部/肥 厚して外積する口唇 部	口縁部上端に半載竹管状工具腹面引き/口 唇部には単筋RL縦位無文/半載竹管状工 具腹面引きによる垂下文	赤褐/砂粒・ 礫中量	加曾利E1～ 2式
第52図49 図版20-49	③地点	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	ほぼ垂直に立ち上る 胴部/肥厚する口唇 部/円筒形か	肥厚する口唇部直下には半載竹管状工具の 腹面引きによる並行沈線が巡る/胴部は単 筋RL横位無文	極細赤褐/砂 粒・礫中量	加曾利E1～ 2式
第52図50 図版20-50	①地点	深鉢	口縁部 破片	厚 1.3	内湾する口縁部/口 唇部内面で肥厚	断面コマゴロ状の隆帯による区画/隆帯脇 には沈線/地文は単筋RL縦位無文	暗赤褐/砂粒 ・礫少量	加曾利E2式
第52図51 図版20-51	①地点	深鉢	頸部 破片	厚 0.8	やや外反しながら広 がる	横位沈線により口縁部と胴部が画される/ 胴部は地文単筋RL縦位無文/頸部から沈 線間が磨消される2本1対の沈線、1本の波状 沈線が垂下	褐/砂粒・礫 少量	加曾利E3式
第52図52 図版20-52	563Y	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	胴部中位の括部	太く浅い沈線により、胴部上位はU字状、 下位は逆U字状の区画/区画内は単筋RL 縦位が充填	褐/砂粒少量、 礫微量	加曾利E3式
第52図53 図版20-53	564Y	深鉢	胴部 破片	厚 1.1		地文は単筋RL縦位無文/2本1対の沈線が 垂下/沈線間は磨消される	明褐/砂粒少 量、礫中量	加曾利E3式
第52図54 図版20-54	④地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.0		地文は単筋RL縦位無文/磨消を伴う沈線が 垂下	明褐/砂粒・ 礫少量	加曾利E3式
第52図55 図版20-55	126Y	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部中位で膨らみ 上位で内湾する	地文は単筋LR縦位無文/沈線による区画文 が配され、区画文間に縦状文が描かれる	明褐/砂粒中 量、礫微量	加曾利E3式
第52図56 図版20-56	34方	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	口縁部中位で膨らみ 上位で内湾する	太く浅い沈線による区画文/区画文は逆U 字状を呈するか/区画文内や区画文間には 単筋RL充填	明褐/砂粒・ 礫少量	加曾利E3式
第52図57 図版20-57	①地点	深鉢	深鉢 破片	厚 1.2	内湾する口縁部/口 唇部外面で肥厚/波 状口縁を呈するか	太く浅い沈線が口縁部上端に巡る/無筋/ 横位無文が充填	褐/砂粒・礫 中量	加曾利E4式
第52図58 図版20-58	563Y	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	口縁部内湾/口唇部 で僅かに肥厚	口縁部上端に微隆起/地文は単筋RL横位/ 口縁部上端から微隆起線が垂下/微隆起線 間は無文	明赤褐/砂粒 ・礫少量	加曾利E4式
第52図59 図版20-59	②地点	深鉢	深鉢 破片	厚 1.1		無文の胴部に微隆起が確認できる	灰白/砂粒多 量、礫微量	加曾利E4式
第52図60 図版20-60	34方	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	広がる口縁部/口唇 部内面で肥厚	口縁部上端に交互刺突が伴う2本の沈線/ 条線地文に3本1対の弧線が施される	暗褐/砂粒多 量、礫少量	連弧文
第52図61 図版20-61	126Y	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾して広がる口縁 部	地文はRL単筋縦位無文/地文は口唇部にも 2列施される、交互刺突か	にぶい褐/砂 粒・礫少量	連弧文か
第53図62 図版20-62	563Y 貼床	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや広がりながら立 ち上がる	地文は単筋RL縦位無文/3本の横位沈線、 1本の弧線波紋部が確認できる	にぶい褐/砂 粒・礫少量	連弧文か
第53図63 図版20-63	②地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	屈折部を有する/頸 部か	地文条線/波状沈線が垂下	暗褐/砂粒・ 礫少量	連弧文か

第32表 遺構外出土土器一覧(3)

検出番号 図版番号	出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器・形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第53図64 図版20-64	③地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	やや内湾して内挿する 胴部上位	太く深い沈線が右下がり に施され、ほぼ同 じ幅の隆帯が左下がり に重ね合わされ、格 子目状を呈す	明黄褐/砂粒 ・礫中量	曾利Ⅱ式古
第53図65 図版20-65	①地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.3		太く深い沈線が右下がり、 ほぼ同じ幅の隆帯を左 下がり格子目状に施文 /胴部には 平截竹管状工具の痕跡 引きが多数施される	橙/砂粒・礫 微量	曾利Ⅱ式古
第53図66 図版20-66	①地点	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや広がりながら立 ち上がる胴部	地文は条線/抑えの甘い 波状隆帯が垂下	にぶい赤褐/ 砂粒微量、礫 中量	曾利Ⅰ～Ⅱ式
第53図67 図版20-67	③地点	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	やや内湾して広がる 口縁部/口唇部で肥 厚	口唇部には刻みが付さ れる/口縁部は無文	褐/砂粒多量 ・礫・雲母少 量	曾利Ⅰ～Ⅱ式
第53図68 図版20-68	126Y	浅鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内挿する口縁部/眉 折部で肥厚し、口唇 部は薄手	口縁部には筋節沈線に よる区画が上下にな され、区画内には波状 文が施される/体部は 無文	黄褐/砂粒 ・礫少量	阿玉台1b式
第53図69 図版20-69	126Y	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	僅かに外反して広が る体部/口縁部は内 屈して肥厚	口縁部には幅狭角押文 と幅広角押文が施文 される/体部は無文	暗赤褐/砂粒 多量、礫微量	勝坂1式
第53図70 図版20-70	①地点	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部内湾/口唇部 外張/やや深みか	無文	暗褐/砂粒・ 礫中量、雲母 少量	阿玉台式
第53図71 図版20-71	34方	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.0	僅かに内湾して外縁 く/やや深みか	口縁部の一部押捺が施 された断面コマコ 状の隆帯が巡る/地文 は無文	暗褐/砂粒中 量、礫少量	中期中葉
第53図72 図版20-72	①地点	浅鉢	頸部 破片	厚 1.1	広がりながら立ち上 がる体部	口縁部は単筋丸横位施 文/沈線が伴う隆帯に よる区画文/体部は無 文	にぶい褐色/ 砂粒少量、礫 中量	加曾利E1～ 2式
第53図73 図版20-73	126Y	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7		横位に沈線を巡らせ、 沈線間に押印文	暗褐/砂粒微量	加曾利B式
第53図74 図版20-74	126Y	深鉢	胴部 破片	厚 0.6		沈線が格子目状に施さ れる/粗製土器か	にぶい黄褐/ 砂粒微量	加曾利B式
第53図75 図版20-75	126Y	深鉢	把手 破片	厚 1.0	内湾する口縁部/山 形の中空把手	山形中空把手の頂部か ら押印文が施された 隆帯が垂下/把手縁部 には単比線による三 叉文	明黄褐/砂粒 ・礫中量	勝坂3式
第53図76 図版20-76	①地点	不明	把手 破片	厚 1.7	土器の把手部か/中 空でない	平坦な顔面部に半円形 の刺突により目・口 を、隆帯により眉毛を 表現/半球状を呈する 後頭部には円環状の隆 帯/右側面には円形刺 突/背面部には竹管状 工具背面による角押文 2列と細く深い沈線 が沿う	にぶい黄褐/ 砂粒・礫微量	勝坂2～3式
第53図84 図版20-84	②地点	かわらけ	底部 破片	高さ [2.9] [6.6]		ロク口成形	橙	中世(15～ 16C)

第32表 遺構外出土土器一覧(4)

検出番号 図版番号	出土位置	種別	遺存状態	長さ/幅/厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	胎土	時期 型式
第53図77 図版20-77	126Y	円板	完形	2.7/3.8/0.8	12	楕円形/摩耗痕発達/胴部 破片利用/隆帯輪に幅 広角押文と三角押文が 沿う	明赤褐/砂粒 ・雲母少量、 礫中量	勝坂1式
第53図78 図版20-78	126Y	土器片鉢	完形	3.6/4.4/0.9	18	挾部2箇所/方形/摩 耗痕未発達/胴部破片 利用/幅広い爪形文が 横位に巡る	褐/砂粒・礫 微量	阿玉台Ⅱ式
第53図79 図版20-79	562Y	土器片鉢	50%	2.9/[2.2]/1.1	10	挾部1ヶ所確認/方形/ 摩耗痕未発達/胴部 破片利用/0段3条丸 施文	暗赤褐/砂粒 多量、礫少量	勝坂3式か
第53図80 図版20-80	126Y	土器片鉢	70%	5.0/[4.3]/0.9	25	挾部1ヶ所確認/楕円 形/摩耗痕発達/胴部 破片利用/絶文単筋丸 に平截竹管状工具に よる波状沈線	明黄褐/砂粒 多量、礫中量、 雲母少量	加曾利E式
第53図81 図版20-81	③地点	土器片鉢	70%	[3.6]/4.4/1.1	23	挾部2ヶ所/方形/摩 耗痕一部顕著/胴部 破片利用/無文	明褐/砂粒・ 礫・雲母少量	中期
第53図82 図版20-82	③地点	土器片鉢	完形	3.9/4.5/0.8	19	挾部2ヶ所/楕円形/ 摩耗痕一部顕著/胴 部破片利用/無文	明褐/砂粒・ 礫・雲母少量	中期
第53図83 図版20-83	34方	土器片鉢	50%	[3.2]/4.0/0.8	10	挾部1ヶ所確認/楕円 形/摩耗痕顕著/胴部 破片利用	褐/砂粒中量、 礫微量	中期中

第33表 遺構外出土土器製品一覧

## 第4章 調査のまとめ

### 第1節 縄文時代

#### (1) 西原大塚遺跡中期集落の概要と本地点の位置付け

西原大塚遺跡ではこれまでの調査によって、縄文時代中期の住居跡180軒、土坑443基以上が検出されており、大規模集落の様相を呈している(第54図)。ここでは、これまでの調査成果を踏まえた調査区周辺の土坑・住居跡の分布状況を捉えることにより、本地点の位置付けを行う。なお、第1章第2節でも述べたが、西原大塚遺跡における発掘調査は、区画整理事業に伴う調査と、それ以外の事業に伴う調査の2つに分けられる。両者を区別するため、便宜的に前者の地点名に「区画整理」と付し、略号についても先頭に「区」を表記する。各調査地点の文献については、第2・3表を参照されたい。

集落全体で見ると、住居跡は北限を76J(区36地点)、南限を157J(第108地点)、西限を11J(第8地点)、東限を95J(区第40Ⅲ地点)とし、規模はおおよそ南北290m×東西260mである。集落の北端である区第25Ⅶ地点及び区第71地点から見れば、第35地点西部・第130地点・第174地点と南東方向に広がり、第43地点・区第17地点・区第24Ⅱ地点・区第25Ⅱ地点と円環状に展開する。特に集落東部にあたる区第130地点・第174地点においては、住居跡が密集して検出されており、重複が著しい。集落北西部は未調査区が多く詳細は不明である。

一方、土坑については、おおよそ区第25Ⅴ地点から区第22地点、区第130地点西部、第174地点西部に広がり、第120地点東部、区第25Ⅰ地点と展開している。特に、第120地点東部と第174地点西部において密集して分布している。両地点の中間に位置する第3地点については、調査区中央の大部分が未調査であるため、土坑・住居跡ともに検出数が少なくなっている。

このように、本遺跡は住居跡と土坑はそれぞれ分布域を違えて検出されており、集落の中心に分布する土坑群を住居跡が円環状に取り囲み、所謂「環状集落」を形成していると考えられる。さらに、集落中央にあたる第1地点・区第23Ⅰ地点・区第23Ⅱ地点・区第25Ⅴ地点においても住居跡が検出されていることは、本遺跡が双環状集落である可能性も示唆している。

今回の調査区においては、①地点で狭小な面積ながら土坑11基が密集して検出された一方で、住居跡が分布する調査区南側にあたる③・④地点における土坑の検出は少ない。この検出状況を集落全体の状況に照らせば、住居域の南西側内縁、土坑域の南西側外縁という境界部分に位置していると考えられ、周辺の検出状況とおおよそ符合していると言えるだろう。

ところで、周辺地域の同規模・同時期の環状集落遺跡として知られる、埼玉県ふじみ野市(旧大井町)西ノ原遺跡・東台遺跡(桜井 2005)、所沢市海谷遺跡(新藤 2009)においては、既存の土器型式編年に照らした細別時期ごとの住居跡分布が捉えられ、集落の変遷が明らかにされている。本遺跡においても同様の分析が求められる。

また、東京都西東京市(旧保谷市)下野谷遺跡では、土坑群と住居域の間に、独立柱建物跡が分布していることが明らかになっている(寺畑 1999)。本遺跡では未だ検出事例がなく、土坑群と住居域の境界部分に位置する今回の調査区においても検出することはできなかった。今後の調査に期待される。



第54図 西原大塚遺跡縄文時代中期遺構分布図（1/1500）

## (2) 出土土器について

今回の調査で出土した土器のうち、復元個体について既存の土器編年研究（黒尾 1995、小林・中山・黒尾 2004）に照らして編年の位置付けを行う。

### 1. 158号住居跡出土土器

復元個体3点が出土している（第7図1～3）。1は口縁部に円筒状の把手が付く小形の深鉢で、押圧文や沈線が施された隆帯による区画文が配され、区画間には単沈線による三叉文・渦巻文が充填される。隆帯脇には単沈線が沿う。口縁部と胴部を画する隆帯は無く、胴部上半と下半を画する隆帯は押圧文が部分的に施されず、また上半側には単沈線が沿うも、下半側には沈線が沿わずに抑えが甘い。区画文間に空白部が目立つことや、隆帯上に施される加飾に沈線が多用されることなどから、勝坂3b新式に比定される。

2・3は無文の浅鉢で、細別時期を求められないが、中期中葉期に位置付けられるだろう。

### 2. 160号住居跡出土土器

復元個体4点が出土している（第13図1～4）。1は炉体土器で、口縁部にS字状文が配され、頸部に無文帯を持ち、胴部は2本1対の隆帯と1本の波状隆帯が交互に垂下する平縁のキャリバー形深鉢である。頸部の外反は強いが、口縁部の内湾は緩やかである。口縁部のS字状文は2本1対の隆帯によって描かれ、左端で小突起、右端で渦巻文を形成して、区画文化している。頸部無文帯の存在や、口縁部文様帯の区画文化などの特徴から、加曾利E1c式に比定される。

2は単節RL縦位施文を口縁部から胴部まで施した後、隆帯により口縁部と頸部以下を画する。口縁部には2本1対の隆帯によるクランク文が配され、胴部は地文のみである。口縁部から胴部まで地文が連続して施文されることや、頸部無文帯や胴部懸垂文を持たないことなどは、加曾利E1式でも古相の特徴であるが、口縁部クランク文の屈折部がやや緩くS字状文化していることを新相の特徴として捉え、加曾利E1a～b式に比定する。なお、口縁部にクランク文を持つ当該土器については、東関東にその系譜を求めることができ、東関東においては加曾利E1式の古段階でも地文は単節斜縄文を用いることが一般的であることが指摘されている（安孫子 1978、細田 2008）。

3は口縁部が外反する鉢形土器である。ほぼ無文であるが、口縁部付近の一部に幅広隆帯の貼付が確認できる。細別時期は不明であるが、加曾利E式に属すると思われる。

4は体部に単節RL横位施文を地文として、口縁部には太く浅いナデ沈線による渦巻文が施される。弧線文と渦巻文からなる文様モチーフは、図版10-1で示したとおり、1の口縁部文様とも類似しており、同じ加曾利E1c式期に比定されるだろう。

### 3. 161号住居跡出土土器

復元個体3点が出土している（第19図1～3）。1は炉体土器で、節の粗い燃糸RL縦位施文を地文とし、単沈線による粗雑な弧線文が横位に展開する連弧文式である。口縁部の外反が緩やかであることや、弧線文が太く粗雑で末期的であること、口縁部上端には交互利突ではなく単沈線3本が巡ることなどから、永瀬氏の3段階（永瀬 2008）に比定され、加曾利E3a～b式期に位置付けられる。

2は埋壘で、口縁部には楕円区画文と渦巻文が配され、頸部以下には沈線が垂下し、沈線間は磨消される。口縁部と頸部はしっかりと区画されており、加曾利E3a式に比定される。

3は背の高い隆帯により体部と口縁部が画され、口縁部は単節RLを地文として隆帯による楕円区画文が配され、区画間には円形利突文が充填される。加曾利E3a～b式に比定されるであろうか。



#### 4. 包含層出土土器

復元個体2点が出土している(第42図1・2)。1は胴部上半と口縁部には無節Lが間隙を持って縦位施文された後、口縁部に2本1対の隆帯によるS字状文が配される。加曾利E式類似の土器であるが、口縁部と胴部が文様帯として画されていないことや、間隙を持った縦位縄文、同心円文が施された逆三角形の把手、暗赤褐色を呈する胎土などの要素は、加曾利E式として位置付けることを躊躇わせるものである。ここでは、中期中葉末(勝坂式・阿玉台式終末期)において成立した土器群の一類型として捉え、時期的には勝坂式3b古～新式期に位置付ける。

2は押圧文が付された隆帯による区画文が配され、区画文内には単沈線による渦巻文・三叉状文が充填される土器である。隆帯脇に単沈線2本が沿うことや、隆帯上の加飾が押圧文のみであることはやや古い要素といえる。一方、区画文が一部不完全であることや、区画文間に空白部が目立つことはやや新しい要素である。1と同様、地文が間隙を持って施文されていることや、胴部上半に膨らみを持つバケツ形の器形などは、北関東ないし東関東地域の要素であろうか。勝坂3b古～新式に比定する。

---

## 第2節 弥生時代後期～古墳時代前期

---

今回の調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の遺構として、住居跡4軒(126・562～564Y)と方形周溝墓1基(34方)が検出されている。しかし、大部分の遺構が調査区外にあり、完全な形で検出されていない状況であったが、比較的住居構造を復元でき、さらに出土土器が多かった126Yについて簡単にまとめることにしたい。

### (1) 遺構について

126Yについては、西原特定土地区画整理事業に伴う第7V地点(平成7年度)と第25II地点(平成9年度)において、住居南端部を除き発掘調査が実施されており、すでに報告が行われている(佐々木・内野・宮川 2009)。そのため、今回の報告では、それらを1つに統合する内容でまとめているが、その結果、住居南西端を除く住居全体の約3分の2が検出されたこととなる。

住居構造として、平面形は隅丸長方形になるであろう。支柱穴は四隅に配されるもので4本のうちのP1～P3の3本(P1～P3)が検出され、西コーナーの1本が未確認と言える。深さはP1が51・73cm、P2が41cm、P3が47・56cmで、北側のP1・P3は2本の重複形態で、それぞれ東側のものが若干深くなっている。炉跡は中央よりやや北東壁寄りに設置されており、粘土板炉を基本とする。壁溝については、全周すると考えられるが、南壁においては掘り込みが浅かったためか確認されていない状況であった。

### (2) 遺物について

器種としては、高坏形土器(1・12)、壘形土器(2～7・13～17)・甕形土器(8～11・20～28)で構成される。

#### 1. 高坏形土器(1・12)

1は脚台部で、坏部内面及び外面には赤彩が施されている。外面にはへら磨き調整が施されている。

12は1より薄手のもので、裾部は大きく外反するタイプである。

## 2. 壺形土器

2は小型壺で、口頸部を欠損する。胴部上半に2段の文様帯をもつもので、上段の文様は不明であるが、それぞれ2段の単節斜縄文による上下羽状構成で施文し、その上下を3条の自縄結節文で区画しているものと思われる。

3は幅広の複合口縁を呈する土器で、胴部から頸部への移行は大きく屈曲するのではなく、比較的緩やかである。文様は多段に単節斜縄文が施文され、上下に区画文は見られない。

4～6は胴部下半の土器で、文様は不明であるが、赤色土器で胴部下半は丸味をもち、強い稜をもつタイプではない。7は超大型品で、外面にハケ目調整が施される土器である。

## 3. 甕形土器

8は内外面全面にヘラ磨き調整が施される土器で、口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部には刻みをもたない。9・10の甕形土器については、今回の報告で一部修正を加えている。基本的にこれらは内外面にハケ目調整が施されるハケ甕であり、口唇部には刻みが付されていない。しかし、10の口唇部については、やや歪んでいる状況とも言えるが、これは粗雑であるが指頭による交互押捺された痕跡と観察できるものである。

以上、本住居跡出土土器については、壺形土器2・3の文様構成や胴部下半に強い稜をもたない特徴から、東駿河系（柿沼 2013）という東海地方の特色をもつものでなく、18・19の鉢形土器あるいは台付鉢形土器の存在も含め、東京湾沿岸地域の特徴を有する土器が目立つものとして捉えられる。

時期については、13の高環形土器の外反する脚台部の特徴から、廻間編年（赤塚 1990・1994）の廻間Ⅱ式以降に相当すること、3の壺形土器の複合口縁に見られる貼付文が欠如することや胴部に円形赤彩文が付される特徴、さらに、甕形土器では、口唇部の刻みの欠如と「く」字状口縁を基本とする特徴を考慮し、おおよそ古墳時代前期初頭に比定できるものであろう。

## 【引用・参考文献】

- 赤塚次郎 1990『廻間遺跡』（財）愛知県埋蔵文化財センター  
1994「3・4世紀の東海地域」『東日本の古墳の出現』株式会社 山川出版社
- 安孫子昭二 1978「5、考察」『文京区・動坂遺跡』動坂貝塚調査会
- 柿沼幹夫 2013「荒川下流域弥生時代後期土器に関する覚書」『埼玉考古』第48号 埼玉考古学会
- 黒尾和久 1995『縄文中期集落の基礎的検討（1）』『論叢 宇津木台』第1集 宇津木台地区考古学研究会
- 小林謙一・中山真治・黒尾和久 2004『縄文集落研究の新天地—勝坂から曾利へ—（発表要旨）』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 桜井聖悟 2005「IV まとめと問題点」『西ノ原遺跡Ⅳ—西ノ原遺跡第113・119地点の発掘調査概要報告書—/東台遺跡Ⅴ—東台遺跡第33・34地点の発掘調査概要報告書—』大井町遺跡調査報告第17集 埼玉県大井町遺跡調査会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2009『西原大塚遺跡』西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 志木市遺跡調査会調査報告第13集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 新藤 健 2009「Ⅲ 海谷遺跡第20次調査 4. まとめ」『海谷遺跡—第19次調査—/—第20次調査—』所沢市埋蔵文化財調査報告書第44集 埼玉県所沢市教育委員会
- 永瀬史人 2008『連弧文土器』『総覧 縄文土器』株式会社アム・プロモーション
- 寺畑滋夫 1999「第5章 小帖」『下野谷遺跡—東鳩跡地におけるライオンズガーデン武蔵開園記念館・武番館建設に伴う第7次調査報告』第1分冊（遺構編）保谷市遺跡調査報告第2集 保谷市教育委員会・保谷市遺跡調査会
- 細田 勝 2008「加曾利E式土器」『総覧 縄文土器』株式会社アム・プロモーション

图 版





1. 調査区近景



2. 確認調査風景



3. ②地点表土剥ぎ後風景



4. ③④地点表土剥ぎ風景



5. ①地点調査風景



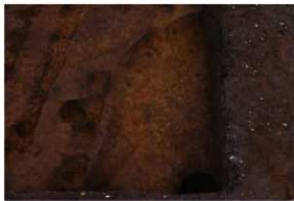
6. ②地点調査風景



7. ③④地点調査区整備風景



8. ③④地点埋戻し風景



1. 158号住居跡 (㉔地点)



2. 158号住居跡遺物出土状態 (㉔地点)



3. 158号住居跡遺物出土状態 (㉔地点)



4. 158号住居跡 P 1



5. 158号住居跡 (㉔地点)



6. 158号住居跡遺物出土状態 (㉔地点)



7. 159号住居跡



8. 159号住居跡炉跡



1. 159号住居跡P 1 遺物出土狀態



2. 159号住居跡P 4 遺物出土狀態



3. 160号住居跡



4. 160号住居跡遺物出土狀態



5. 160号住居跡遺物出土狀態



6. 160号住居跡炉跡



7. 160号住居跡炉跡半截



8. 160号住居跡



1. 161・162号住居跡



2. 161・162号住居跡



3. 161号住居跡炉跡



4. 161号住居跡埋塞



5. 161号住居跡遺物出土状態



6. 162号住居跡炉跡



7. 161・162号住居跡土層断面



8. 調査風景





1. 271号土坑 南から



2. 614号土坑 東から



3. 615号土坑 西から



4. 616号土坑 南西から



5. 617号土坑 東から



6. 615・617号土坑 東から



7. 618号土坑 南西から



8. 測量風景



1. 619号土坑 東から



2. 619号土坑 西から



3. 620号土坑 南東から



4. 621号土坑 東から



5. 622号土坑 南から



6. 623号土坑 南から



7. 624号土坑 南から



8. 625号土坑 北東から



1. 626号土坑 南から



2. 627号土坑 西から



3. ①地点調査区北側



4. ①地点調査区南側



5. 9号ピット遺物出土状態



6. 調査風景



7. 包含層遺物出土状態



8. 包含層遺物出土状態



1. 126号住居跡 東から



2. 126号住居跡遺物出土状態



3. 126号住居跡遺物出土状態



4. 562号住居跡



5. 563号住居跡



6. 563号住居跡炉跡



7. 564号住居跡 (③地点)



8. 34号方形周溝墓 北西から



158号住居跡出土遺物



1. 159号住居跡出土遺物



2. 160号住居跡出土遺物 1



1. 160号住居跡出土遺物 2



2. 161号住居跡出土遺物 1



161号住居跡出土遺物 2





1. 162号住居跡出土遺物



2. 271号土坑出土遺物



3. 613号土坑出土遺物



4. 615号土坑出土遺物



1. 616号土坑出土遺物



2. 617号土坑出土遺物



3. 618号土坑出土遺物



4. 619号土坑出土遺物



5. 621号土坑出土遺物



1. 622号土坑出土遗物



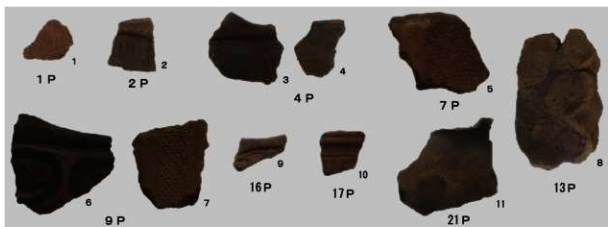
2. 624号土坑出土遗物



3. 626号土坑出土遗物



4. 627号土坑出土遗物



1. ビット出土遺物



2. 包含層出土遺物



126号住居跡出土遺物 1



1. 126号住居跡出土遺物 2



2. 562号住居跡出土遺物



3. 563号住居跡出土遺物



4. 564号住居跡出土遺物



5. 遺構外出土遺物 1



遺構外出土遺物 2



遺構外出土遺物 3



## 報告書抄録

ふりがな	しきしいせきぐん 22							
書名	志木市遺跡群 22							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第64集							
著者氏名	徳留彰紀 尾形剛敏 深井恵子							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号 TEL.048 (473) 1111							
発行年月日	平成27 (2015) 年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°'")	東経 (°'")	調査期間	調査面積 (㎡) (土木工事面積)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西原大塚遺跡 (第172①地点)	志木市幸町 3丁目7255-4	11228	09-003	35° 49' 26"	139° 33' 52"	20110714 ～ 20110823	35.00 (105.79)	個人住宅建設
西原大塚遺跡 (第172②地点)	志木市幸町 3丁目7255-7257 の各一部	11228	09-003	35° 49' 26"	139° 33' 52"	20110311 ～ 20110330	31.55 (119.73)	個人住宅建設
西原大塚遺跡 (第172③地点)	志木市幸町 3丁目7255-1	11228	09-003	35° 49' 26"	139° 33' 52"	20110608 ～ 20110823	109.59 (109.59)	個人住宅建設
西原大塚遺跡 (第172④地点)	志木市幸町 3丁目7255-2	11228	09-003	35° 49' 26"	139° 33' 52"	20110608 ～ 20110823	116.20 (116.20)	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
西原大塚遺跡 (第172①～ ④地点)	集落跡・ 墓域	縄文時代  弥生時代後期 ～古墳時代前期		住居跡 土坑 ピット 遺物包含層	5軒 17基 22本	土器 石器 土製品		
要約		西原大塚遺跡は、市内最大規模の遺跡で、旧石器時代～近世・近代にかけての複合遺跡である。縄文時代では、中期の住居跡5軒、土坑17基、ピット22本が検出された。本遺跡は、縄文時代中期の環状集落跡であり、今回の調査成果は住居域と土坑域の境界部分を示唆する検出状況となっている。弥生時代後期～古墳時代前期では、住居跡4軒、方形周溝墓1基が検出された。						

志木市の文化財 第64集

## 志木市遺跡群 22

発 行 埼玉県志木市教育委員会  
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号  
発 行 日 平成27(2015)年3月31日